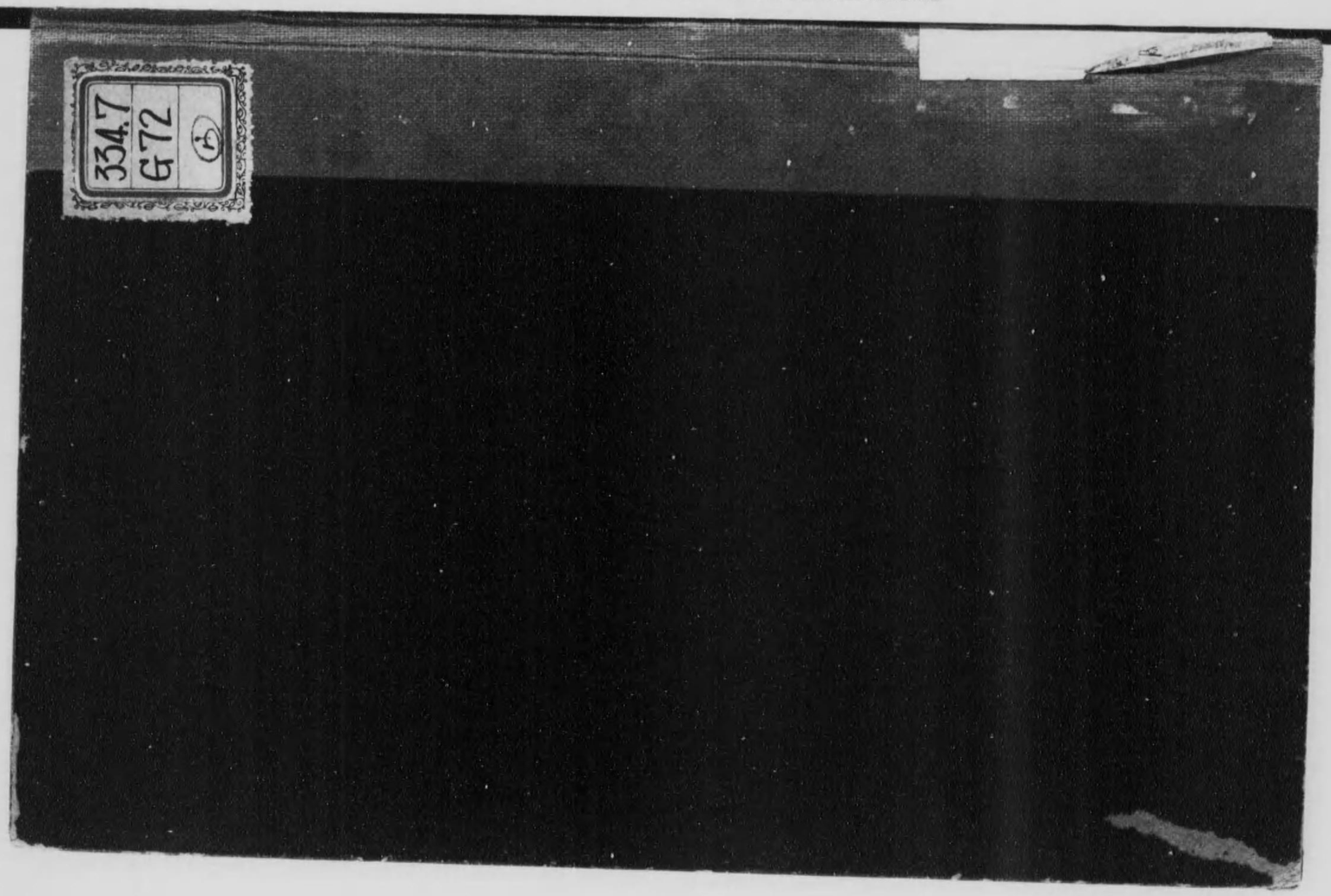
投



コ176
角
~~172-113~~
334.7
G72

男爵 後藤新平著

日本植民政策一斑

東京 株式會社 拓殖新報社發行

大正
12.6.13
内交

序言

本書は去大正三年五月數回に亘り、幸倶樂部に於て「日本植民政策一斑」の題下に予が爲せる講演の速記を集錄したるものにて、當時之を印刷に附し、知友其他の求めに應じて分配しけるが、今や一本を剩さず。然るに近く其頒布を請ふもの少からず、依て之を再版せしむることゝせり。而て此書の內容は、我國有史以來、眞に最初の試みなる植民政策の跡を論述したるもの、幸に參考資料として裨益するあらば、予の本懷とする所なり。

篇中或は帝國植民史上の秘訣、語りて詳かならざる憾なきに非らずと雖も。若し夫れ上根の士、眼光紙背に徹するに到らんには、我植民政治の向上改造の爲めに、亦亦他山の石たるを失はざる可し。

次に卷末掲ぐる所の大國民唱歌は、予が臺灣總督府在任中の著作にして、明治三十九年五月初めて剞劂に付し、爾來汎く世に行はれたるもの。同唱歌は之を五言漢譯となし、島人の領解に資したるに、五言は大人の吟誦に便ならざるが爲めに、更に流暢典雅なる七言調の漢譯をも加へしめたり。

蓋し唱歌は、兒童教育場中の一樂事たるのみならず、忠愛進々の想を絃誦洋々の裡に寓せしめ、不知不識の間に、我國民性

の陶冶に資し、後來の國民に貽す所實に甚深微妙なるものあり。加之同唱歌の漢譯に由りて、兒童教育なるものは一轉して善く兩親教育を實現するに至り、其及ぼす所の影響と効果決して鮮少ならず。暗に訓育の功德を積み、所謂る無爲の治を助くるものあらん、是れ輕々に看過すべからざる事にあらず哉

最近、獨逸に於て、エルテルン、シューレー(兩親學校)の制度新に設立せんとの說あり。此新制に關する趣旨を一讀して、予は大に興味を惹起したると共に、當年右五七言漢譯の事に遡考して、我ながら感慨無量なるを禁ずる能はず。

思ふに現代の所謂感化なるものを、普及し且徹底せしめんとならば、少年乃至青年の爲めに一方にのみ高調し盡力し、他

方に臨むの施設至らざるを恐るべきは勿論なるも、須らく百尺竿頭一歩を進めて、先づ兩親教育に着眼し、兩親教養運動に大に求むべき理由あるを知らざるべからず。大國民歌を誦せん輩は應さに如是觀を作すべし。

大正十年十月二十日

男爵　後藤新平　識

日本植民政策一斑目次

口繪二葉

第一　緒論及び日本植民政策の史的經濟的關係……一―三五頁

第二　帝國の滿洲に於ける特殊の使命……三七―九九

引用書簡

滿洲鐵道總裁就職の情由を叙し山縣元帥西園寺首相林外相の回覽に供し並に所見を外相に質する書……四七―六五

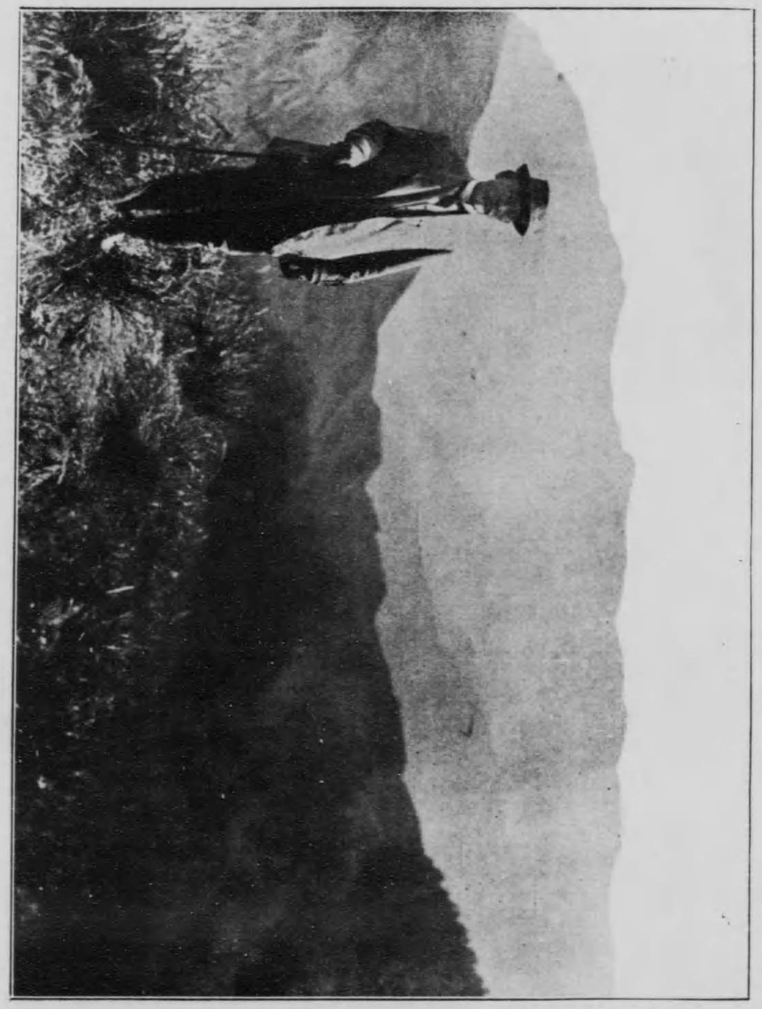
西園寺首相への副書……六五―六六

民政長官去就の事情に關し佐久間總督の意見を請ふ書……六七—七〇
滿洲鐵道總裁就職事宜に關し大島關東都督の裁諾を求むる書……七〇—七四

第三　植民政策の基礎となるべき間接設備の効用……一〇一—一二六

第四　兒玉總督就任の當初施政方針を聲明せざりし事……一二七

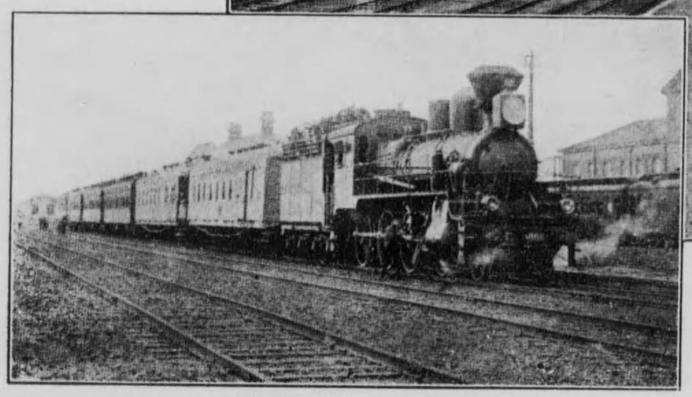
附錄
大亞細亞主義……一二八—一三〇
大國民唱歌—漢譯大國民歌……一三一—一四七



浩然之氣塵埃天地
天地之氣塵埃
從來所美哉
高都堅疑群風峯色眼爲底誰來開
——棲霞男作

七變を山高新てり登に山幾萬男藤後

長春停車場日露汽車連絡の光景



露國東清鐵道急行列車

日本植民政策一斑　第一

（大正三年五月二十日幸倶樂部に於て講演）

男爵　後藤新平

緒論

日本植民政策の史的經濟的關係

閣下竝に諸君、前日古市部長及岩倉幹事より當部に於て植民政策に關する講演をするやう御依頼を蒙りましたが其如何なる講案が最も當部御調査の資と相成るべきかといふ點に苦しみました、各問題に付き彼一語我一語問答體に進む方宜しからんなどとも考へましたが、先可成學究的ならざる事實輯集的講話を致しその後に貴問に隨ひ御答致すとにするが便ならむと存じまして此に一席の光榮を辱うするとにいたしました、兎角講演がアカデミックに流れ易きものですから、十分注意して講義體等を避くる積てあります、萬一其弊に陷る廉は御用捨を願ひます、

植民政策は目下の世界問題たり

二十年前に於ける我國民の植民的習識

唯其れ事實てす之に關する前提として若くは說明として必要なる點をも簡略に加ふるは止を得ますまい、釋迦に說法の御咎めなき樣偏に希ふ處てあります、初は植民政策の總論內外的關係史的觀察一般政策との關係後に植民經濟と云ふ事に付て其要點を申上げやうと斯う考へるのてあります。

て此植民政策なるものは諸君の御承知の通り世界各國の大問題てある、世界の煩悶の大問題てある、今日軍事問題社會問題と云ふやうなものが世界的煩悶てあると同時に、此植民政策は矢張り世界の煩悶を惹起して居る所の問題てあります、而かも十九世紀以來列國の競爭の問題となつて未決了に屬して居り且甚だ範圍が廣いものてあります。

明治二十七八年の役に於て臺灣占領の當時植民政策に關する日本國民の觀念と云ひますか、又は所信と言ひますか、日本國民の思想と言ひますか、是がどんな程度てあつたか、卽世界の植民問題と言ふ點につき我國民の知識は如何なる程度てあつたかと言ふことを追懷すれば今日とは大變な相違があります、日本に於ては有識者は固より承知して居りましたらう、併ながら多數の人の植民問題に於ける知識は今日だけに進んで居らぬ時てありました。

伊藤侯爵さへも此事に付ては能く考へられて居らなんだ、十全なる植民政策の成竹なかつた

臺灣領有は海外植民政策の初歩也

北海道拓植の最初の方針は其當を得たり

惜哉黑田長官

北海道の外に拓植の模範と

而して臺灣領有が日本植民政策の海外發展の初歩と申して宜いので、其以前には僅かに內地植民（アンシーデルング）と云ふことがあつたやうてあります、（卽ち北海道の如きものは其一つの例てあつたのてあります）兎に角日本に於きましては海外植民と云ふことは臺灣領有が初めてありますけれども、それより先所謂內地植民法と云ふやうなものて拓植の事に力を用ゐられた事例は多少あつたのてあります、其拓植の事に付て力を用ゐられること卽大開墾建策があつたと同時に、それは必ずしも舊式の法てなくして頗る文明的の方法もあつた、今日北海道に行つて見ましても其市區計畫から、道路の計畫又同時に農學校を起した規模から考へて見ましても中々經營宜しきを得たるものてあります、臺灣の經營などに比して見て少しも劣る所のない立派な經營てあります。

併し惜いかな黑田長官始め其後歷代の當局者は米國人の計畫を咀嚼して、さうして消化して其の効果を收めることが出來なくつて、中途にして止した、其爲に今日北海道の拓植と云ふものは彼の如きものになつたのてあります。

そこて此臺灣の拓植の當時に於ける參考としては我國に於て模範とすべきものは北海道の外に…北海道の外にも固より先進先覺の士が拓植事業に付て計畫したものが澤山ありましたけれ

すべきものは失敗の歴史だになし

北海道拓植に從事者自身其拓植が如何なる系統の植民政策に屬すべきかを知らざりしに非ざるか

臺灣領有の時の植民の當時の經驗なし

ども此の文明的の植民政策に直ちに用ふべき手本は無かつたのであります、又手此拓植事業の大體を此處で何だが學者の話の受け賣するやうでありますけれども、ちよつと實務總論の順序として御話申します。

一體植民政策は武斷的の領土擴張、又經濟的若は文明的の侵略、感化を行ふ所の方法と斯う二つに分れるのでありますが、北海道の事業は却つて武斷的の領土擴張でもなく、侵略主義とか云ふことでなく、經濟的若くは文明的の綏撫感化を與へる所の文明制を執り內地植民制（卽アンシーデルングの類）であります、此點に於ては甚だ感服すべきものでありましたが、能くそれ等の攻究を遂げ北海道の拓植に從事してあつたならば、當時北海道に於ての政治上の失敗はあらうとも、或は成功があらうとも必ずや將來の帝國植民政策に資する所があつたに違ひないので、惜哉其計畫者としても相當の人はあつたけれども其計畫を取捨遂行する所の點に於て植民政策とは如何なるものであるかと云ふことに付ての攻究が付かなかつたものではなからうかと思ひます。

是が爲に臺灣領有の時に其政策の助けとなるべき我國民の經驗といふものは何ものも無かつたと申しても差支ないのであります、臺灣領有は遂に當時諸君も御承知の通り中々困難な一大

大和民族の植民的志望の史的淵源並に大東亞政策系の共通點

問題となりまして、三十一年に兒玉總督に從つて參ります時にも私の手許に來たばかりでも植民政策の建白書などが机上に山をなすほどでありました、而して其書類は多分今でも臺灣總督府に收めてあるでありませうが、餘り取るに足るべきものはありませぬ。その多くは樺山、桂、乃木此三總督並に水野民政局長等に關係する所の批難の聲で眞の拓植に關するものは甚だ少なかつた。

抑歴史的關係に於てどういふ風に日本植民政策が今日に至つたものかと考へて見ると、遠くは三韓征伐より近くは西鄕の征韓論と云ふものがあり、臺灣征伐と云ふものもあつたのでありますが、之を以て直に武斷的植民政策と云ふことを得ない且學者並實驗家にも武斷的植民政策と經濟的植民政策と云ふものは全く區別せられて居りますけれども（其領土擴張主義卽侵略主義を重んずる所と人文發達の上より及ぼす感化の制とは全く違つたやうである）、此二者の中自ら共通の點が見出されると云ふ說も實に其通りて、此共通の點が今日と西鄕征韓の時との間に矢張り見出されるやうである、是は段々先に進むに從つて申し述べませうが、要するに臺灣割讓、朝鮮合併、樺太割讓、關東州租借に至るまて共通の點が見出される、何處に見出される、如何になつて居るかと云ふことは、是は學校の講義體のやうになりますから又私が申上げるより諸

臺灣領有に植民政策的準備行爲なかりし

君御自身に分析し綜合して試みらるゝ方が却て能く共通の點を見出すべき力があると思ひますから、其問題に到着して御考になつたならば思ひ半ばに過ぎるのでありましよう、唯茲には共通の點を見出すといふこと丈けて說明を止めて置きます。

此臺灣領有に付て何等かの準備行爲と云ふものがあつたかと云ひますと、文明的植民政策の準備行爲と云ふものは殆どないと申して宜いのである、是は樺山總督に交付されたる所の伊藤總理大臣の訓令などを見ても俄か拵へであることが分る、實は日清戰爭の結果として御承知の遼東半島の割讓、臺灣の割讓となりまして、次て又遼東半島は還附と相成りましたが、曾て其遼東半島の割讓に對して、我政府が攻究せらるゝ且攻究すべき植民政策の問題は如何なるものでありしかと云ふことの問題を揭げました時に初めて明瞭に之を察することが出來たそれは此件に對し伊藤公爵も語て詳なるまての明答を與へ得ることが無かつたからてあります、又もう一つ進んて問題を提起し當時若し臺灣の割讓を止して、さうして臺灣を還附することになつて、遼東半島を割讓すると云ふことになつたならば其得失如何といふ點を攻究せられしとありやと伊藤公に尋ねました時に伊藤公は、當時內閣諸公にはまたさう云ふ議事に達し居らなかつたと言はれた。

當時臺灣統治の困難なりしため一億圓にて賣却論起れり

植民政策と帝國主義との關係更に之と我日本の關係

國民主義

現に私が臺灣に拜命しまする頃に、諸君の御記憶にも存して居りませうが、臺灣をば一億圓て賣つた方が宜いと云ふは上下の議論てあつて、當時の新聞切抜を見れば能く分る、當時の當局者は餘程之には困難をしたのてあります。

若し是を逆にして臺灣てなしに遼東半島を得たならば如何なる政策があつて、どう云ふ風に行きますかといふに、之に對する策は講じられ居らざる事前述の如くてあります、是が卽ち我帝國の植民政策に於ける當時の情況でありまして諸君の御攻究の一端に資する所あるてあらうと信じます。

此植民政策と帝國主義とは非常な密接の關係のあるものてありますが勿論異名同質てはありませぬ、抑々ルネッサンス（文運復興）の時代より世界政事上の一大中心原則となりしものは民族主義一名國民主義（ナシヨナリズム）てあります、是が爲に中世に唱へた所の世界的國家の理想は枯死的空想に了りました此變化が抑も植民政策の光明を來す所の原因となつて、其潮流が世界を支配するに至つて、遂に其勢は我帝國に於ても此植民政策を等閑に附する能はざるの國運に到着した次第であらうと察するのてあります。

卽ち十九世紀に於て起りました國民主義なるものは誠に政治界の一大勢力でありまして、此

勢力は強者には無上の好武器であるが、弱者には、却て身を殺すの兇器であつたと云ふことは明かであります、而して此國民主義の興隆と共に其弱い國は無理往生的に同化を強いられると云ふ形勢に相成つたのが歐羅巴列國生存競爭の結果であります、其甚だしいのがアイルランド、フインランド、ポーランド、ボスニア、ヘルツエゴビナ、であります、是が所謂國民主義の無法同化であつて其勢力の及ぶ所滔々として何ものも支へることが出來ぬやうな形勢であつたのであります、是が爲に世界的國家の妄想は捨てられ、極端なる所のショヴヰニスム(Chauvinism)即ち極端愛國主義に陷らうとして忌むべき競爭に立到らんとしたのであります。

此時代思想が段々變化の後十九世紀中の人文の守護と尊重せらるゝ人道主義(Humanitarianism)の特色追々褪色を來し其關係は全く此道理(レーソン)の時代から去て勢力(フホルス)の時代に變化致しまして、ナポレオンの行動が此革命的の樂天主義を破壞することに相成りまして厭世主義(Pessimismus)時代來り三十年來沈沒して居りました諸君の御承知のショペンハウエルの著述が一時行はれて十餘年の間全盛を極めましたのであります、其反動として一種の樂天主義即ち勢力(フホルス)的樂天主義が起つて參つたのであります、遂に人類幸福の一條件として戰勝的精力を尊重するに至りました加之世界的平和の要求以上に個人主義の能力發展を逞するの結果競爭劇甚となり人類生存の

狀却て自殺的に陷り易く其欲望は極點に達せんとする形勢より遂に國土の狹隘を感じ且人口の增殖と共に領土の擴張の必要となりまして始めて其國民主義に加ふるに帝國主義を以てすることになりました、是に於て十九世紀の半迄歐羅巴諸國に於て植民政策を非常に輕蔑し、厄介視して居つたが(此間佛國の如きも大なる植民地を失ひました)漸次其不可なるを悟るに至りました次第であります。其先覺者は實に英國であります隨て我國にも初めて國民的帝國主義なるものの起るに至つたのであります、此植民政策の興隆はやがて、非常な勢を以て進んで歐洲諸國も其風を學ぶに至つたのであります。

以上は世界植民政策の變遷の大體でありますが斯の如きことが明治二十七八年頃に日本帝國に分つて居つたかと云ふに、それは識者には多少分つて居つたけれども、斯樣な知識を如何にしてか早く國民に知らせんかと云ふ切實なる思潮は惜哉欠けて居つた然るに世界に於て當時如何なる國が此一大思潮の向ふ處に其權柄を握つて居りしかを尋れば即ち英國でありまして、所謂國民的帝國主義の先達である、然るに英國は單に自由平民主義である、デモクラシーの模範となるべき所の國であるといふ一方をのみ思ふて居る者が今日日本の識者の中に多數あります、さうして英國の倫敦に於ける帝國議會の有樣と習慣憲法の運用の有樣を見て、一筋に英國を羨

法律六十三號問題と國民的植民識習

十九世紀に於ける英國の植民政策遙かに他國に優れり

望して、英國國民並に政府の植民地に努力する關係、其植民地を統一するの關係即母國と屬領地との關係等に至つては夢の如き有樣であつたのが、卽ち我臺灣領有當時の狀況でありませんか、諸君の信ぜらるゝ處も私見と一致するでありましようか

茲に於て法律六十三號の問題上下に名高き困難となり世に所謂六三問題は十年來新付の民に三千年來忠節を盡したる母國人と同一に憲法の恩澤を蒙らしめんとする意義に出て英國愛蘭土政治問題などとは雲泥の差あるとを知らざるの罪に座して居らぬかを疑はしめ論者將來に於て大に後悔する時來ると思ひます植民統治の無經驗なる民論と當局の遠望深慮を欠けると學究の講壇說に一概に迷ふの不可なるとを察するに足る譯であると信じます此席に御出になる諸君の如きは既に之を忘るゝこと能はざる事として御記憶になつて居るに違ひないと信じます、此事より推考して見ても帝國植民政策なるものは、如何に幼稚なる有樣で有たかと云ふことは御推察に難からぬことであらうと思ひます。

然るに歐米諸國殊に歐羅巴諸州に於て英國を以て國民的帝國主義の先導者であると云ふことに氣が付きました時俄に、各國の夢はさめた樣に英國を以て獲得を事とする所の利己的イングランドなりと絶叫するに至つたと申すとであります、是等の事柄を對照して見ても英國の此植

世界植民政策の大勢に照し臺灣領有の利害所以なり

民政策が如何に進んで居るか、列國が如何に後れて居りますかが分ります、要するに十九世紀に於きまして國民主義の興隆よ。國民的帝國主義に移つた其結果が植民政策の必要を惹起したと云ふ大勢の潮流がありまする時に於て、日本は其潮流を詳しく承知して居らなかつたけれども否、それを識者は見て居つたがなれども準備行爲を了せずして臺灣を占領し（前に臺灣若くは朝鮮征伐と云ふやうな西鄕時代の意氣を繼承して來ただけで）日清戰爭の戰勝に乘じて偶然植民政策を樹立することに至り幸に世界の植民策興隆の跡を踵ぐやうな機會に相成つたと考へるのであります。故に各國は日本の植民的能力を疑ひ其成功を遂ぐると能ざるべしと豫想したと同時に日本人自から成功の確信を欠き外國の主張に和して臺灣を放棄し一億にて賣却するを知者の業なりとまで聲言して自から恥ぢざるの狀況であつたてはありませぬか、

故に當時植民政策上各國の經驗に付いては好い手本は澤山あると申して宜いことになる、要するに曩に日本に於て北海道なるものがあつたけれども、併しながら其手本を以て後の植民政策の助けとなるものは何物も無かつたと申述べましたが是は其通りであります、それと同時に又一方海外に其例を求むれば其手本となるべきものは澤山ある、又此の如く植民政策の必要なる潮流は益々世界に氾濫致しまして日本も亦其外に立つこと能はざるの形勢でありしと云ふこ

各植民地は各其特色あり故に他國の例を參考とすべし
遼東半島は之を還付するを可とす
模倣は不可
臺灣を還付せずして遼東を還付せしは幸福なりし

とになつて居つたのである、玆に先刻一言して置きましたが、幸に臺灣占領なるものが遼東半島の還付と逆施せられなかつたと云ふことは實に帝國の仕合であつたのであります。

併し此手本といふ事より誤解なきように願ひます凡一國の植民政策には各必ず其特色があります、よき手本を參考とするは甚だ善いですが乍去之を模倣するは甚不可であります卽臺灣に於ても當初は一も二もなく佛國アルゼリの政策を最良のものとし是を模倣して失敗し兒玉總督の獨創的政策によりて其弊を矯正せられ統治が初めて其緒につきし次第であります。

此遼東半島還付は將來の帝國植民政策の發展を講ずる爲には利益であつたかも知れませぬ否、當時我國に於て少しく植民政策に付ての講究が積んで居つたならば、却て不幸を來したるとなきを保せずと察せられます試に當時植民政策の智識ありしならば（大陸的植民力智識ありしならば）確かに臺灣と遼東と何れを先に領有すべきかと云ふことに付て、還付の際議論も起つたことであらう、勿論此時に相手方は日本が大陸に手を付けると云ふことを拒むの主眼でありますから、一も二もなく先方の問題は唯遼東半島に局限して居り單に遼東半島の還附に依つて其問題を解決したのでありますが、若し我帝國にして植民政策の講究に付て將來の發展に對しても深思熟考の上に遼東半島の割讓を承諾したものでありしならば、玆に臺灣を領有するよりも

遼東半島の割讓を先にすべしと云ふ說も起り、それに付て利害得失の攻究もあつたであらうと思ふのであります。

併し生兵法大傷の本、それが爲に却つて傷を被るかも知れませぬが、曩に偶然にも遼東を還附し臺灣を領有したるが爲に幸福を得たことが却て他日の害とならぬかと云ふことは、後に述ぶる所に於て蓋明瞭になるであらうと信じます。

又手當倶樂部の分類の第六部が鐵道並植民と云ふことにありましたが、是はどう云ふ意味合にて此の如くなつたものだか分りませぬけれども、察するに鐵道とは內地鐵道を主とし外國に在る我鐵道は其中に含んでは居りませぬか——なれども、交通機關の發達は世界の植民的運動の大革命の歷史たる次第を重んじ、而して此分類が起つたものであるか？、或はそれは餘り思料に過ぎた話であるか？そこは分りませぬけれども、此事は分科を定められたる諸先輩に付て伺ひたいと考へて居る所の一つの問題である、と同時に此に一言し置き度は鐵道船舶軍事經濟と植民政策との關係であります。

近來船舶が植民政策の急要を促し來たる所以のものは領土の擴張人口の增植のみでなくして全く鐵道並に船舶交通の爲に文明諸國と未開地との接近を媒介したるにあります此事は曾に植

植民政策と軍事的經濟的關係

民政策の急要を見出し來たるのみならず非常に利益を與へたものであります、此事柄は日本に於ける所の植民政策よりも諸外國の植民政策の跡に於て最も切實に感ずるのである、何れ後に植民經濟關係の所に至りまして時間があれば申述べますが、日本の財政經濟と植民地の關係と云ふものは、諸國のそれと全く趣を異にして居るものがある、此點は多くの論議中に今十分に認められて居らぬかに存します、臺灣の如きは船舶に依つて接近致して居りますけれども、其他の所は殆ど鐵道に依つて未開地と接近して居ると申して宜いので、此關係は恰もボスニヤ、ポーランド、フキンランドの如きものと同じことでありまして、他の原因に於て英吉利が植民地を持つて居る、其他の獨逸とか佛蘭西とか云ふ國が植民地を持つて居る關係と、我國のそれと非常な違がある、此ことが軍事的經濟的關係に於て大に等差ある用意を孕んで來なければならぬ原因を持て居るのであります、

何れの國に於ても植民政策を論ずるものにありては悉く此海軍擴張を含まぬものはないのであります、日本に於ても固より必要であるが彼等と同一に律するとは出來ない否大なる事實上の差を生ずる、從つて此事は軍事關係のみに非ずして經濟財政の點に於て偉大なる注意を要する所のものであります、此點は時を得ますれば別に申述べませうが、要するに各國共に植民政

我植民政策と外交

策を促す近因は此鐵道船舶が文明の諸國と未開地との接近を媒介するに在りと云ふ點、隨て諸般の帝國鐵道植民政策と他の軍事財政等の計畫に影響を及ぼすと云ふ譯になるのであります、

明治二十八年から我國運の興隆は旺なものでありました、然るに其意氣、近來稍々消磨の形勢と相成りました、又外交上に付きまして非常な變化を來して居ると云ふことは諸君も御同感であらうと思ひまするが、是が爲に我國は一旦植民國となつて後れ走せに植民國の列に加はり、非常な發展をして大に世界の耳目を驚かすに至りましたかの如くなりしも、此反動として列國間に危害を買ふ關係を生じはしないかと云ふことの虞なきにあらず、此事は滿洲に於ても臺灣に於ても然り又朝鮮に於ても然りである、

ランチ氏の日本植民の成功に對する讃辭

茲に日本が前段申述べました如く其戰勝の餘威を以て植民政策にも稍々成功しましたことが如何に世界を驚かして、其成功を羨ましむるかと云ふことを察するに餘あるものは今の支那の亞米利加公使（前の米國ウキスコンシン大學教授）ポール、エス、ランチ氏の植民政策（コロニアールポリチック）といふ著書であるそれを日本で（松岡正男君と田宮弘太郎君との共譯）出版されるに付いてランチ氏の自序文があります、此人は別に世界政策の著書もあり今支那に居る所の各國公使の中で學識と言ひ、世界の外交變遷、植民政策等の智識に於て稀なる有力者

てあります。

日本版序

屬領地を如何に治む可きやに關する問題は日本國民生活に於て最も重要なる地位を占むるに至れり、此等屬領地に起る特殊なる問題に關しては固より自ら考慮せざる可らずと雖當局者たる者宜しく他國民の屬領地が經たる經驗に鑑みることを忘る可らず、今や日本は古き文明の歴史を有し而も其文明たるや日本文化と密接なる關係を有する諸國の人民に對し植民政治を行はんとしつゝあり、故に現在日本は制度文物を直に輸入し以て其地方の制度及習慣を一掃し去らざりしは蓋し自然の勢也、屬領地の社會及經濟生活を轉化し之を向上せしめんとの大事業は若し其等人民及び彼等の社會思想に對して同情ある理解を以て相蒞まんには必ずしも難事に非るべし、此事たるや常に植民地土民の性格に付て精細なる注意を忘らざりし和蘭國民の經驗により證明せられたり故に植民官には强烈なる同情心を有し材幹拔群なる人物を得るを必要とす、日本政府は既に全世界より大信用を博したり、殊に屬領地の最高官を任命するに當り拂はれたる細心なる注意は其責任に對する自覺を證明したり、此事に關して日本人は英人により作られたる最善なる經驗を踏襲したりと云ふべし、更に植民地に於ける日本

ランチ氏の讃辭に對して自ら深く省みざるべからず

植民政策上必要なる條件

立法の精神を究めて日本政府は其實行及び計畫せんとする、如何なる進歩的改革も常に堅實なる經濟的基礎の上に建設せざる可らざる確信を有することを知るを得たり、實に交通機關の改善、自然資源の開發商工業經營をして容易ならしむることこそ植民地に於ける施政萬般の基礎と云ふ可き也、日本が過去に於て遂行したる偉業を嘆賞し其意思の存する所を信じ且つ將來に對して大に嘱望せんとする者は日本が屬領地の經營に任ずるに際し狹隘なる利己的精神より彼等を服從せしめ終らんとするを避け彼等を啓發し其幸福を計らんことを主眼とな さんことを熱望せざるを得ざる也

斯う云ふ我植民政策の賞讃を得たことは結構なれども後恐ろしく感じない譯にはまいります まい卽ち我國は世界の植民潮流に後れたりと雖も、辛うじてそれに追ひ付くことが出來ると云ふまでの境遇になつて、而して努力し得た所のものは今日の有樣卽ち退歩の氣味になつては必ず反動を起しはせぬかと思はれるのであります。

先刻申述べました通り我植民政策は日本國内には好い手本がなくても、諸外國に於て澤山の手本があつたから、それを參考とするものがある其要點を擧げて見ますると、一つは國民的の條件一つは個人的の條件である、

國民的條件の區分

第一國內の統一

第二人文の發達

語學統一

其國民的條件、之を植民政策の上から考へて見ますると、日本には唯國民の意氣だけのことであつて、實際植民國として强ち優勢な力あるとのみ信ずることは出來ない吾人此戰爭の餘威を以て主終を全うせむとするならば、此植民制度の上に付充分なる注意を拂はなければならぬ、否らざればスパルタ人の如き弊に陷る、歐羅巴植民政策の書中には屢々之を見る、乃ちスパルタ人は戰爭の爲に幸福を得たと同時に植民の失敗者となり、政治上に於ては不利益を蒙つたものでありまする、吾人は其機を免れる樣祈る處であります、其國民的條件と云ふものは人に依つて種々分つて居るが

第一國內の統一と云ふものは植民政策の必要である、黨派分裂其他の人心歸向に關する諸因之を詳言すれば、皆な一席の講演でありますから先此には略します

第二人文の發達、人文の發達は未開國と文明國との等差のある程植民國としては、植民地を持つのに利益である然るに日本人と支那人、此間に於ては非常な大差がない、又日本人と朝鮮人とも其通りであります、故に吾人は餘程其注意を以て行かなければならぬのである、吾々母國人は植民地的文字の均一を圖るに非ざれば母國として植民地に臨む力がない、威信が少ない、卽ち語學統一に在るのであります、是は此中には臺灣に御出になつた御方もありまするから、

語學の植民政策に及ぼす影響

ビスマルクの語學政策

私が申すまでもなく御承知の方もありませうが、先づ吾人は有力なる小學校を拵へることが出來ない、何故に然る?、最初小學校の教師養成を必要とす、是は師範學校のやうなものを設立して日本から行つた所の小學校教員には土語を教へ、土人の教育ある者には日本語を教ゆる所とす、此組織だけは先づ宜いが、之を一所に學校に入れて育てる間に、其母國の人と云ふものは人格其他の點に付て母國の體面を汚さぬ樣に警護する等種々困難な問題が生じます、それは先づ姑く措くも最も語學に於て母國より來る五人の先生が同じ町なる語を教授するに區々である、例へば一人はチャウと云ふ一人はテウ、一人はチョウ、一人はチョフ一人はチャフと云ふ風に書いて教へる、發音同一にして詮顯の文字が異います。此點は實に人文の發達と植民政策と申す上に於て大に母國の威信に關する缺點を生じます勿論現今の小學教員には韻鏡などを研究して居る人は少い且支那人其ものは生れながらにして極めて齒牙唇舌喉等を能く分明にしチョウ、テウ等それが發音の差を巧にし混同するとがない、斯う云ふことが國民の人文發達の上に、植民政策の上に偉大なる關係ある處に推察を願ひ度存じます、茲に於てビスマルクが何故龜形文字を用ゐた文體の緩を襲用することを强制せしかと云ふことを參考するの價あり、又家康時代から幕府の終りに至るまで何故官公文書に御家流でなければならぬと强制せしかと云ふ

第三經濟上の健全なる發達

第四人口の增加

第五强大なる陸海軍

ことは、政治上の威信の上から察するに足ると私共は考へます。植民政策の當局者の注意の淺深厚薄と施政の幅員との關係に付御攻究を願ひ置き度は此等の點であります。

是が即ち人文の發達と植民政策と云ふ點に於て、非常な政治的關係のある處である、是よりして此植民政策に於ける語學の關係と云ふ大問題にも渉るが夫のポーランド獨逸語强制法露西亞語同化法とか申す問題も此中に含んで居りますが今は略して置きます。

第三經濟上の健全なる發達、是が母國の母國たるに最も必要なるものであります、何となれば日本のやうな此金利の高い所て經濟上の不健全な所のものが既に臺灣を持つて居りましても、其他朝鮮滿洲に於ても非常に植民地の人民から裏を見られると云ふことになる、こゝらの所に其駄目を押して行つて裏を見られないやうにして置くと云ふことがなければならぬのであります。

第四人口の增加ですが、是は日本に於ては今は母國として決して耻しからぬ所の增加はあるのであります。

第五此强大なる陸海軍と云ふことに相成る、以上第三第四第五に關して此に開陳して各位の高敎を仰ぎ度もの少からぬのでありますが植民政策の國民的條件は題目に止めます要するに今日より一層我國民が植民地思想に富める母國たることを庶幾ねばなりませぬ

個人的條件

其二個人的條件

第一健康

(1)風土と戰はざるべからず

(2)土民の抵抗に打勝つを要す

風土と年齡

第一健康此事に付きましては二つのことになりますが、移住者と云ふものは風土と戰はなければならぬ(1)土民の抵抗に打勝たなければならぬ(2)極く詰らぬことでありますが、力の强い人を土民は尊ぶ、日本人は丈が低い、さうして力が弱いですから、どうしても滿洲に行きましても臺灣に行きましても、それは力の點から一時に勝を制することが出來ぬのでありますが此事は單り植民政策のみならず母國の生存競爭の上に付て近來の人種衞生學上の關係からして最も注意の要點になつて居つて、人種競爭と云ふ點から今日は何人も社會の上流に位する人が注意してやらなければならぬ要點である、是は子供に對しても親類に對しても面の當り注意してやることが必要なのであります、風土に成功する人の年齡を一言茲て添へて申しますと、臺灣に於て私の見て居る所では二十歲代の人であると臺灣に行きまして先づ百人中八十人は風土に馴れます、それから三十歲代以下の所の人であると七十人になる、四十歲代以上の人になると茲て五十人半分になる、それから今度は五十歲以上になるとずつと減りまして三十人位になつて來る、さう云ふ風て此健康と云ふことの必要なることは大に植民政策の上に注意すべきこ

とであります。

第二は道德的信念であります、是は廣い意味でありますが、此事などは中々臺灣に於ても必要な事柄に感じました、此に附言すべきことあり卽支那と云ふ國が斯樣に衰へて來たけれども何故あれが分裂して仕舞つて亡びぬかと云ふことは世界の問題であるけれども皆んなの攻究した所に依るとフヲミリーライフ卽ち家族的生活と迷信と云ふものが根柢て其社會道德を支配するまでに至つて居るが爲に持つて居るといふ說がある、是が今の支那人を我々が見て居る所から見ると云ふと左程に注意しないことでありしが、それは確に注目すべき點であります、例へば後藤が藤原姓であると、後藤が食へなくつても藤原が寄つて食はせると云ふことが自ら其間に存して居る、祖先崇拜から來た慣習で血族の共同相助ける所のものがあの吝な人間の間に存して居る、兎に角道德觀念の根本が違つて居ると云ふことがあつても相當有力なるもので、彼等萬里移住民として成功する個人性も此によると察せられます、我日本人の植民的活動に道德上の欠點と見るべきものは宗教的信念である之を補ふべき修養は母國人に甚だ必要であります。

第三冒險的の精神が無ければならぬ。此點は日本人にないてはないが、日本人のは冒險的精

神が歐米人とは少し違つて居る、どう違つて居るかと云ふことは此には略します、是は皆さん御分りになつて居ることでありませうから申しませぬ。

第四は同化力、日本人に一番缺けて居る所は宗教觀念、信念であります、總ての信念に付て確固動かすべからざるものを以て之を貫いて行くと云ふ困難に對する決心、忍耐の力がなければならぬ、是は體力と相添はなければならぬ、全く人種衞生法に適當したものでなければならぬと云ふことに相成る。

以上植民政策なるものも、大體の總論として御話を致しましたのてありますが、是から臺灣のことに就いて單簡に申述べます、又此滿洲其他に及んて私の鄙見を付けます、長くなりますがもう少し御辛抱を願ひます、臺灣の事は大層私が自慢するやうに御聽取りになるか知れませぬが、實に大和民族光榮の事業と申して宜いのてありまして、此政策は大體に於て成功して居る、併し俄に長足の進歩を致ましたのてありますから缺點も多いのてそれは追々補つて行かなければならぬのてあります、大體の所を申述べますと、兒玉總督が臺灣に行つてどう云ふ風にやつたかと云ふと

第一目前の事業に腐心せずして將來を慮つて經營されると云ふ方針を採つた時に、大問題が

の根本義を定めたること

土地調査
鐵道築港
水道水利
病院

植民の三鼎足

あつて、臺灣の統治は困難である、一億圓で賣つた方が宜いと云ふやうな話もあつた位であつたから、兎に角目前の事に對して人心に阿ねる時流を排し誠意將來を慮つてやると云ふことにした、卽ちそれはどう云ふことかと云ふと机の上に堆く來て居る澤山の事務や土匪鎭壓等に屆託しないで統治の根本を樹つることを怠るべからずとして先地籍人籍を明にし、拓植の根本に培し土地調査鐵道の貫通築港等所謂三大事業を初とし水道敷設、水利病院の完成、又養老尙齒等民德を厚に歸せしむるなど政事上斯う云ふやうなことで、直接には何にもならぬ事も等閑に付せざりし例之病院などは內地に行つて某博士に診て貰ふて來やうとて遠路歸國するよりも、是だけの病院なら玆で死んでも宜いと云ふ觀念を與へなければならぬと云ふ類の設備に盡しました是には世間に異議もありましたが頓着しませんでした。

古來歐洲の植民には鼎足として御寺と病院、それから水道を敷くと云ふことがある、之を植民の三鼎足と云ふ、後になつて段々進步して和蘭、英吉利が植民に於ても水道と云ふものは病院衞生と云ふものに入れて御寺と病院(衞生)と鐵道と云ふことにしたのであります、是等のものを注意をすると云ふことに付て病院に力を兒玉總督が入れられたのは、後藤が醫者だから妙な事をやつたと言はれましたが、決して私がどうのと云ふ譯でない、信愛の情に出たる人道主義

第二中央の掣肘を防ぎたること

兒玉總督は內閣諸公の腦を開拓せり

の文明植民政策なのです、今日帝國內に於てあれだけの順序立つた完全した病院は恐らくはないと申して宜いのであります、而して此病院が各所にありまして、臺北は勿論其他の所にもあります、是は私は臺灣土人內地人と共に兒玉總督に深く謝せざるを得ないであります、是等の事が誠に將來を慮つて總て經營をされたのであります。尋常政事家の及ざる處で眞に經國濟民に篤志なるの致す處です、此信愛主義の設備は能く我植民政策上宗敎的德義の缺點を補ふて萬全を期せし處であります。

第二中央の掣肘を防ぎたる事、有らゆる植民地の失敗に徵して明かなことであるから、無用なる中央干涉又本國干涉を防ぐこと必要である、此目的を達するには、內閣首相始め本國政治家の頭腦を拓植することの力を要す、兒玉總督が臺灣に於て目前の事務を見ず先づ將來の統治に注意せられたと云ふことは勿論の事でありますが、それよりも本當の兒玉總督の値打と云ふものは何であるか、臺灣を拓ひたのではない、そんな事はそつち除けて、總理大臣初め內閣の頭腦を拓植して居つたのである、是が卽ち臺灣統治に成功した所以であります。

唯中央の掣肘を防ぐと云ふて頑固な事を言ひ張つて、意見通行れぬなら辭表を出すてはいかぬ、此歷代の內閣の中には憚ながら皆偉い人ばかりではない、それを拓植すると云ふことに兒

節三人才登用

第四仕事の永續

身分の保證

一例巡査養成

玉總督が最も努めた是が拓植成功の基である。

第三には少壯の官吏を拔いて監督指導を怠らぬやうにして使ふ事にした。

第四には同一の勤務に勤續せしむる、是は委しく言ふと極く下級の官吏は折角事務を覺えて明日は轉勤と云ふことでは仕方がないから成べく身分を保證して終身官同樣に或る期間安堵せしむるを要す殊に巡査に於て然り此制には參事官的の異論家もあつたが、併し制度の範圍内に於て身分を保證してやるやうにしたから、誠に巡査などは職務に忠實にやるやうになつた、一面から見れば臺灣には巡査に確實なるものがあつて努力せし功が少くない巡査練習所の設備及民政長官始め高等官時々出席講演して巡査に接近して鬪力を培すること有力の奬勵たりしことは今日世人の最早忘れたる處て其功能をいふたら可笑しく聞ゆるかもしれんが植民政策の上に付て非常な必要なことてある、初め巡査を募つた時、どうゆう風か？巡査志願者が内地出發の際大工道具や左官道具を持つて來る、巡査教習所に入つて、犯則にて放逐せらるゝ心組にて當初から旅費の官給丈を目的にして來り追出されたら後は大工なり、左官なりやらう、迚も御話にならぬ次第てありました是はどうしたら宜いかと云ふ位てあつた、此一事て萬事は明察を請ふ中々割讓早々より積弊あつて種々困難なる上土人と言語不通なる點を利して少し言語通ずるものは、不正を働くのてある、先巡査の方は之が補正として聯隊區司令部に照會し軍隊の義務を了したるものより身分を保證して募集することにした、其時分は土匪も居れば生蕃も跋扈して居る、なか〳〵命懸けてある、之が慰勞など云ふことに付て總督は最も考慮されたのてあります。

臺灣統治の第一期

臺灣は大體申すと第一期第二期と分けます、第一期は平和克復の時、即ち明治二十八年から三十五年に至るを第一期と云ふ、即ち土匪鎭定したのてある、此の最後の年即ち明治三十五年中に土匪を殺した數は實に四〇三三人の多きに達して居る今三十一年前後の土匪殺戮數を示せば左表の如し。

匪徒殺戮數（林少猫討伐まて）

年度	捕縛若は護送の際抵抗せし爲	判決に因る死刑	討伐隊の手に依るもの	計
三十一年	一六六	八四	二、八五〇	三、一〇〇
三十二年	三二四	五〇七	三	八三四
三十三年	四六八	八七三	九	一、三五〇
三十四年	六八二	九九七	三一一	一、九九〇
				二七

三十五年	四、〇三三	五三七	一〇六	四、六七六
計	五、六七三	二、九九八	三、二七六	一一、九五〇

平和克復

土匪歸順法に對する攻擊

是は内地の人で知つて居る人がない位である、其前には僅の人を殺しても慘酷だとか言つて非常に宣教師がやかましく言つたのてありますが、土匪歸順法を以て歸順さしたことにつき當局者内地新聞其他より總督府は天皇の大權を侵害したものだとまて攻擊を受けました併し此攻擊は兒玉總督に對するよりも後藤の專横といふ方に傾いたが此事實は總督の有德を證明し且統治の大成せし所以たることの一大參考てあると存じます其後本歸順證交付の爲警察署辨務署支署等へ呼び出し訓令を加へ之に抵抗したるものは之を殺戮するとに豫定し同日同刻に呼んて一齊射擊て殺したのてあります、此時に當つて少も此外國人の宣教師などは前日と違つて非難の聲がなかつたは大に御注目を請ひ度き一事てあります

土匪歸順法は御記憶になつて居りませうが、天皇の大權に亘る生殺與奪の權て……一體不都合てあると言つて主として民政長官たる後藤に對して日本の各新聞が筆を揃へて攻擊した、外國宣教師などは之を以て德政とし日本新聞の攻擊を怪しみ當局に對し非常に同情をして居つたが、歸順させた者の中には良民たるべきものと不良民にして到底ものにならぬ奴がある、先つ假歸順證を與へて若干月日盤視し選び拔いて其惡い者を同日同時に殺したのてあります、其時に居られた旅團長は西島少將てあつたが、其時に匪首林少猫と云ふ者が一城の主として非常な勢てあつて、名を歸順投城にかりて所謂面從腹非徒黨を擁し左右數方里に亘る所を領して居つて、歸順しては居るが中々命に應じて役所に出て來ない、村民に收稅的强請をなし應ぜざれば多數襲擊掠奪を事とする殆ど一年以上になりましたが兒玉總督はそれを默つて見て居つた、是が爲に近村から苦情があつたが、其儘にして置いた、それを各辨務署警察署などに呼出して歸順證を渡すと言つて誘ひ出して、各辨務署に十人なり二十人なり、多い所には三十人、五十人も來たのを一齊射擊にて殺した、併し當時豫想の通り林少猫と云ふものは出頭しない、そこて其數日前斯あるべしと豫想しましたから兵の練習と號してずつと遠く其城廓を囘擁し（外圍第一列）さうして中に憲兵を置き（外圍第二列）其中に巡査を置き（外圍第三列）又其中に巡査補と云ふ土人から採用した巡査が居るて（外圍第四列）相當地點に砲兵の陣地を置いて林少猫の居る城廓に向て大砲て射擊した、愈々豫定の時刻になり放擊して夕方は雨が降つたが、城が落ちたから行つて見ると林少猫が居らぬ、それて今の大島神奈川縣知事が其時の警視總長てあつたが、林少猫を取逃したと云ふので、是は申譯がないといふて騒いだ、電報往復などて混雜して翌朝

匪首林少猫の討伐と土匪の鎮定

保甲制度
兒玉總督の英斷に依り保甲制を採用實行せり

になつて巡檢すると城廓から一町ばかりある所に林少猫は倒れて居つた、此城廓の中には賭博場もあり、居酒屋もあり遊廓もある、ちやんと一廓一城の主人として暮して居つた、六七百人の子分の掠奪して來た所の物は總て上前を取つて、其上尙ほ取るやうに城中に市街をつくり乾兒の金錢をまき上げる仕掛てあつたなか〳〵偉いことをして居つた、斯樣な者を殺して、即ち三十五年に土匪鎭定と云ふことが出來た、宣敎師などはどうもあれは仕方がない當然な處置であると言つて非難する者はなかつた。

それから是と同時に施したのは保甲制度である、是は卽ち玆には御承知の方もありませうから、委しくは申上げません是は福恵全書にも載せてあります、一例が王安石などが用ゐた、支那の保甲制度で支那でも實際能く行はれない、五人組の制度で總ての罪惡に連坐の制です、臺灣では兒玉總督の英斷で十分に行れることになり保正甲長等大に努力して警察を助けたのであります、此大討伐後臺灣の天下は雨後の鎭埃と同じく太平となりそれまでは子供でも、女でも出て歩くことは出來ない、危險なる道路に日夕樂々遊歩するに至りました、是は土匪討伐の大體てありますが、隨分此事を御聽きになつたら御不審の點もありませう殊に當時の政府の方に不審の考が起つたかも知れぬが、兒玉總督が既に內閣諸公の頭腦を拓植した、之に對して彼此れ

臺灣統治の第二期歲入

言へぬだけの開拓をしたのである、是が第一期です。

次に第二期には三十五年鎭定後より今日に至るまで、其中最著明なものをちよつと植民經濟の部分に入る門戶として申して見まするとと、明治四十二年まで國庫の補助がある筈であつて、其金額は總體にて三千七百萬圓でありました、然るに已に三十八年にはもはや國庫の補助を仰がないで財政の獨立が出來まして、それまでの間に(年度から言はゞ四十四年度までに)國庫補助金を費つたことが三千萬圓たらずて、つまり七百餘萬圓を不用額として餘ました譯てす、此事が重に阿片、樟腦、鹽の所謂三專賣と糖業との收入から來たのてある、此專賣並糖業の事に付ては又別に御話する時に讓り今は略します、其他土地調査及臺灣鐵道卽植民鐵道(輕便鐵道)の事などもありますが、是等の事も略します又臺灣にて注意すべき事は十二年間に內外貿易が二倍して居るのてあります、是と共に驚くべき發展を爲し內地に於て見るとの出來ないものは衞生の狀態てある、此成績は世界各國に於ても甚だ稀に見る所のものてあります、ドレスデンの衞生博覽會に出品して驚くべき成績の賞讃を得たのてあります、此衞生行政の偉績を擧げたる方策は如何てあるといふに、臺灣に行つて支那町に形どつて居る所は何處にも市場がある、今迄は土地の豪族の私有てあつたが、それを取上げて共有のものにした、此實行に主として盡力し

貿易

衞生

私有の市

場を公有に移す
加藤尙志氏の盡力

たる人は內務省衞生局より轉任した事務官加藤尙志君で其功は永く沒すべからざるものであります、此の市場收入なる金額を衞生費に入れ市場の改善費と下水費とに充てた、今臺北の市場と云ふものは伯林のマーケットの如く煉瓦造の形の非常な立派な驚くべきものが出來て是等の市場から取上げる收入が衞生費になつて居り、三百戶以上の村がある所には市場のない所はないから、是が爲に衞生改善の途立ちペストも無くなり、有名なマラリヤも無くなつたのである。

其效果

今日は日本からマラリヤの研究に行つたつて病院には其患者はありませぬ、何處でもマラリヤを見ることは出來ませぬ、田舍にても行つて尋ねたら一人か二人はありますが、さう云ふ風て臺北の町の者は東京の眞中にペストがあると、どうしてあんなに撲滅し得ぬかと笑つて居る位です、打狗といふ處は今日も全くペストは絕えぬが、其他の地方に於ては全然絕えて居る、到底內地の及ばざる所のものであります、是等は皆內地人に安心を與へる爲に當初衞生の施設を如何にしたら宜いかと云ふ根本法を定めて今日まで永續して實行し來つた結果であります、

衞生設備の實效

高木博士の功蹟

此マラリヤやペストの撲滅には臺灣總督府技師、醫學校長高木博士十年一日の如く他の博士學士と共に盡力せし結果にして世界に誇るべき結果であります、

要するに日本國民の植民の困難と云ふことは、日本人自體に存して居る所のものである、日本國民は第一に商業に賴むべきものはない、第二に本國の氣候が好過ぎる爲めに、海外發展の力を阻害する、第三には本國の金利は高くて資本を植民地に投ずる資力が乏しい、僅かに一萬圓持つて居れば別莊を有つて田舍て暮される、第四に日本國民は植民地經營に無經驗である、

○日本國民の植民に不適當なる原因

第五科學藝術の大義を日日俗務に應用する力量慣習を全く行政官政事家は持つて居らぬ是等が全く國民性として有つて居る所の缺點てあります。

臺灣自體の有する不便

次には臺灣自體の有つて居る所のものを言ひます、第一土匪、第二生蕃、第三惡疫のあること、第四良港の缺くる事、第五科學藝術が缺けて居ること、斯う云ふことからして之を如何にすべきかと云ふ事柄を攻究して、生物學の基礎の上に科學的の攻究をして植民政策を立つると云ふ意見を採用せられて、兒玉總督が此英斷に出て今日あるを致したのてあります、先刻も申述ぶる通り俄に進步したのてありますから、缺點も澤山あるに違ひない、是は今後の人に補ふて貰はなければならぬものて、完全無缺とは申すことが出來ませぬが、其當時の事情と、其當時の智識の上から言ふとなか〳〵困難なものを幸に成功したものてあります。

臺灣舊慣調査局

又內地人と土人との利害の副はないと云ふ事に付ては今後に起るべき重大なる問題もある、是は兒玉總督が此問題に關係する爲臺灣舊慣調査局なるものを設けまして、其風俗習慣を調査

岡松博士及織田博士の功勞

すると云ふことに力を用ゐられたが、誠に用意の深遠なることである、延て四百餘州に幸福を與ふる大志の存する處が自ら分る筈です。

支那の大明律とか大清會典とか其他の法律がありますが、誠に錯雜したものであります、之を舊慣制度調査局報告の如く主任として系統的に調べるに努力されたのは岡松博士で實に多年の努力であつて成功致しました、此力が帝國に及ぼした感化と云ふものは偉大なるものであります、斯の如き根本法に力を致して初て今日の統治が出來るやうになつたのであります。又京都帝國大學教授織田萬博士は臺灣舊慣調査委員囑託として兼勤し清國行政法を（漢文）編著せられました是皆四百餘州に我明治聖代の恩澤を被らしむるもので、植民政策の實行は兒玉總督の如く遠大の策があつて間接の事を謀るものでなければ大々的成功は出來まいと存じます。

其効果

讀書人に對して執りし應度

茲に附言すべきことは臺灣に讀書人と云ふものがある、是は日本で言へば士族のやうなもので、此徒が亂を起す時には亡國歌を唱へ出して諷します　其俗歌は所謂童謠であります、それを子供に教へて唄はせ、是れ天の聲なりとして亂を起すと云ふ支那人のやり方で、此讀書人を感化すると云ふことに付ても兒玉總督は深く意を用ゐられたが、當時臺灣の統治と云ふものは成功したにも拘らず時々隱謀が起る、第二第三の討伐威壓を要しない樣致さねばならぬことは申すまでもないことであります。

まだ此外に種々申述べたきことも澤山ありますが、先づ是で止めまして是から法螺と言へば法螺かもしれぬが御咎も省みず植民經濟に關し、私の卑見を一應申上げて置きたいと思ひます

（質問の應答あり速記中止）

日本植民政策一斑　第二

（大正三年六月五日幸倶樂部に於て講演）

男爵　後藤新平

本講演の目的

帝國の滿洲に於ける特殊の使命

先日我植民政策中殊に史的經濟的事實に付いて我帝國の內外關係を申述べたら良からうと云ふことで其お話を申上げました、私固より無學でありますが成る可く學校の講義的臭味にならないやうにお話したいと思ひますけれども、話が矢張長く成りまして到頭お聽き下さる方にも十分お分かりが出來難く御迷惑になつたかと懼るゝ處でございますが、然るにまだ話すことがあるなら滿洲鐵道のことに付いて話さないか、又日を期してやつて良からうとのお勸めに從ひまして、今日は主として滿洲鐵道のことに付いてお話することに致します、是れは私よりも却て中村前總裁をして御話を致させましたならば適任かも知れないと思ひますれども、今日滿洲鐵道のことは世間に何にか問題になつて居るやうなことがありますから、其近頃迄の當局者が

我國の大陸關係の由來

大陸關係は我國の將來に禍根を貽さゞるか

話すよりは私は舊時の當事者で間接になつて居りますから私がお話する方面白からむとも存じます、中村前總裁には他日機會があつたら委しく御話をして貰ふやうにいたしませう。

て、私は滿洲鐵道の當初の計畫の時のことから今日に移りました所の大要丈けを茲に申上げるやうに致します、抑々植民の事業は健全なる國家の政治的發展であると云ふことは茲に申述べる迄もない、從つて進取的活動の國民に必要である、斯ふ云ふことになつて居ります、それ故に先日申しました通り世界の氣運と共に日本帝國もそれに伴ふて往くことになりましたのが即ち臺灣、朝鮮、樺太、滿洲の植民事業であります、其中で臺灣のことは先日申上げましたが其大陸關係と云ふことになると又臺灣のことを先日お話したことゝ餘程趣きを異にする點があります、大陸關係と云ふことは朝鮮抔が最も根柢となる所のものでありますが、是れより先き滿洲の租借、鐵道線路の占有と相成りましたのは勿論日露戰爭の結果でありますが、抑々日清戰爭に際し、先日お話致しました臺灣領有と同時に遼島半島の占有があつて、之を還附するに至つた所の土地が再び日露戰爭に依て明治三十八年九月五日の媾和條約を以て帝國の手に歸した譯であります、是れが爲めに悅ぶべきことも多數ありますが一方大陸に進入した爲めに日本將來の禍源であると云ふやうな恨みを貽すことはないか？

今滿洲を還附せば如何

南滿洲に於ける我帝國の使命の重大なる所以

此事は一日も忘るべからざる事柄になりましたのであります、朝鮮も矢張其一部であります、が、今之を還附せねばならぬと云ふことを餘儀なくさるゝことになりますならば、日清戰爭の時の遼東還附とは更に其趣きを異にして、帝國の將來の安危に繫る所の端緒も亦是れから起る譯であつて、重大なる事件であると云ふことは私が茲に喋々を要せぬ次等であります、

そこで一般の領土擴張の關係よりして見ましても、此南滿洲鐵道のことは等閑に附すべからざることは明かでありますが、其外に我帝國は南滿洲に於ける特殊の使命を持つて居ると申して宜しいのであります、此事は私は此處でお話をする爲めに南滿洲に於ける帝國の特殊の使命と云ふ文字を組立て問題にして申上げるのでなくして、是れは事實は全くさうなつて居ります譯で、私が初めて滿洲鐵道の總裁を拜命するとき當時の總理大臣からも話がありまして、又總裁拜命の際　陛下の勅諚にも此御沙汰を拜した次第です、兎に角日本帝國の南滿洲に於ける特殊の使命と云ふことが是れが重大の件であります、茲に私が此文字を殊更に拵えて申上げるのでないと云ふことをお斷りをして置きます、

それで今日此處でお話を致しますのは南滿洲に於ける我帝國の特殊の使命と云ふことに付いてお話を申上げます、何れの國に於きましても植民事業は其形式が色々ありまして、或は武斷

植民事業の最終の目的

的、經濟的或は軍事的、商業的、農業的、又は和蘭式英吉利式佛蘭西式抔と云ふやうに學者の說も種々ありますけれども、大抵は植民地若くは保護領土に對して本國が有して居る所の特殊の使命を全うすることを得べき組織並に其權能と活動とに依賴することに外ならぬのであります、之を要するに植民事業の最終の目的はと言ひますれば何れの國も博愛にあると申しますけれども同時に自國の利益を圖らざるものはないのであります、我滿洲も其部分であります、此

關東租借地の現狀

租借地の面積は五千八百七十四萬八千三百十五坪と今算ぜられて居ります、而して日本人の往つて居る者は軍隊を除きまして七萬人と註せられて居るのであります、現在の所では斯樣になりますが、最初の吾人の計畫にては急に百萬の人を移したいと云ふ考を持ち少くも農商業に從事する者と鐵道を運轉する者と石炭山を掘る者と五十萬人位は移植したい考であつた、

滿洲經營の最初の計畫

只今御手許に差上げてある所の表の藍色のものが卽ち陸軍經理部の當時の計畫であります、（三十九年度に限つて居つた、數年に亘つたものはない）其次には此綠色のものは卽ち滿洲鐵道株式會社の創立委員の拵えた年度案であります、（所謂十年計畫であります）それから其次の黃色なものは大藏省案と唱へまして大藏省で計上しました所のものであります、此二つのものは唯石炭を掘ることと鐵道運搬に依て得たる總利益金からそれに對して費やしたる經費を差引

陸軍部案

滿鐵創立委員案

大藏省案

最初の希望

滿鐵案

滿鐵案は衛生土木教育地方行政を見込む

滿鐵案は他の案に比して最も利益少し

きました差額を利益として計上したものである、其次に赤く書いたものが當社案と書いてありますが、是は私が滿洲鐵道總裁になりまして重役と共に計畫した最初の案であります、此計畫に據りますると四十一年度に七十六萬圓、四十二年度に百八十四萬圓と申すやうに黑く記してある所のものが、（卽ち赤い筋を引いた下の黑く書いたものが）皆損失になる計算であります、然るに此不足を生ずる案が夫の大藏省案若くは創立委員長の計畫よりも利益が少ないのに拘らず、當時の內閣並に其他の人が之を是認したと云ふことはどう云ふ譯であるかと云ふと、衛生土木教育地方行政に費やす所の總ての經費は兩案共に少しも見込てなかつた、私の案はそれを見積つた計畫てありますから、（それ丈け損毫が多いやうになりましても）是認されたのてありました、是が卽ち滿洲に對する當時の政府並に我が是れに關係する主もなる人々の計畫の程度を表示するものてあらうと思はれます、

南滿洲に於ける使命に對する各人の意見は其見る所に依りて異なれり

そこて南滿洲に於ける我帝國の特殊の使命と云ふことや特殊の新關係と云ふことを聽きますれば、陸軍海軍の人は陸軍海軍の考を言ひます、それから又外交の人は外交上の考を言ひます大藏省の人は大藏省の考を、農商務省の人は農商務省關係のことを言ひます——農商務省の人は左程滿洲に關して意見を述べたことは聽きませぬけれども、皆な前段に述ぶるが如き程度て

滿洲に於ける三頭政治若くは五頭政治

あつて之を大成してどうしやうと云ふ大計大謀はなかつた、對土人政策或は對本國人政策と云ふものでも、どうしたら良いと云ふとも極まつて居らぬ、其邊の問題に至りまするとと土人政策は臺灣のやうにしたら良からう、本國人政策も臺灣と同じにしたら良からうといふ位のことである、然るに臺灣は自分の領土である、彼は或年限の租借地であると云ふ考もなく、皆一樣に概括的の意見を當局の者が口にする位の程度でありました、從つて滿洲に於ける三頭政治即ち領事と南滿洲鐵道會社と都督府と斯う云ふものに別れて其統一を缺くこと、それが從つて又陸軍と海軍と都督府と一致せぬ爲めに遂に五頭政治になりまして統一を缺くと云ふことに對しても何等其統策なく等閑に附せられて居つて、餘程困難なる事情でありました、是れが即ち其當時兒玉總督と私との間に數時間の議論を闘はしたことになつたのであります、

余の滿鐵總裁拜命事情

是れは餘事に亘りますけれども一寸一言しましよう私は九年間兒玉總督の下に居りましても議論を闘はしたことはなかつた、此席には曾て臺灣に御一緒にお出てになつた原口閣下抔もお出てでありますが、御承知の通り兒玉總督と私との間に議論や紛擾を生じたことはなかつた、大抵御互に半分話すと可否共に分明になる關係でありしに拘らず、獨り滿洲鐵道の總裁就職の事に就きましては一席の議に決する事が出來ないで其就職を兒玉大將から慫められ又西園寺總理大臣からも勸められたのでありますが、私は兒玉大將と當日の十二時に往つて四時頃に至る迄珍らしく意見の衝突を來し之を拒絶して別れましたが、其晩に兒玉總督は頓に薨去されたのであります、斯樣な次第でありまして其事柄は何んであるかと云ふと、多頭政治で統一を欠くと云ふことゝ兄弟墻に鬩げども外其侮を禦ぐべき場所に於て帝國の威信を完うすると云ふことは餘程困難のことであるから、是れは多頭に分れてはいかぬと云ふことが一つの問題でありました、又兒玉大將は私に其統一融和を圖れと云ふ注文であつた、さう云ふことは得て爲すべからざる事柄であるから、是れは必ず自から其人があるであらうと言つたのであります、

是れより先きまだ講和談判の始まらんとするときの場合でありました、また前線に於ては休戰の條約も出來ないときでありますが、當時私が臺灣の民政長官在職中で兒玉總督に面議の爲めに滿洲に往つたことがあります、其際此土地を取つたならば鐵道を中心として經營策を建てなければならぬと云ふことの意見を兒玉總督に話したことがあるが故に總督は之を思ひ出され君があの時あの意見を首張し居つたのだから是非總裁の任にあたれと云はれました、けれども私は自分が他日の就職を期して其意見を建てたのでなくして、それが良案と云ふ迄のことであるから只今お請けが出來ないと申しました、然るに九年間も一緒に居つて何等意見の衝突をした

植民經營には統一を必要とす

英國に於ては統一は猶ほ困難なりし實例滿洲經營の統一困難なる所以

こともないのに神ならぬ身の情けなく其晩直ぐに幽明地を異にするに至るべしとは夢にも知らないから議論別かれになりました、それから山縣公に行くべき時間來り別るゝ時に臨み總督は君やらぬ方の側計り考へないて、やる方の側も考へて呉れと言つて玄關迄送つて來て戸を締められた。其當時は暫らくの間その光景が彷彿として私の眼に留て居りました、所が其翌朝總督の急症を聽いて駈附けて見ますると最早事切れになつて居られて寺内閣下と同時に門を入つて始めて總督の遺骸に接した譯であります、そこで心機一轉して俗に謂ふたら弔ひ合戦と云ふか單に兒玉總督の靈に奉ずる爲めにやらう、斯う云ふ決心で之に從事することになりました。

此多頭政治と云ふことが今日迄病を爲して居る、それて拓植務省が無用のものゝやうに考へて居ると云ふことは多くの識者でも免れない、是れは全く拓植事業に對するの智識の足らぬ爲めてはないか、と私は信じて居ります、さうして此組織のまゝて統一すると云ふことは頗る困難のことて卽ち此事柄に最も經驗に富んて世界に名高き英國に於ても、植民省の外に印度の爲めに印度事務省あるに拘らず統一を缺いて先年印度に於て文武軋轢して非常なる騷ぎを爲した是は私の茲に說明を要せぬても諸君御承知の通りてあります、兎に角餘程困難てある、なぜかと云ふと軍事と經濟、此二者丈けても調和のむつかしい所へ持つて來て外交上の關係が始終あ

拓植務省の必要

滿洲總裁と同時に都督府の顧問を兼ねたる理由

ともまして、さうして土人と本國人との行政上の關係に於て警察は日々に困難をして居る、此地の警察が又幾つかに分れまして都督府の警察、領事附屬の警察が別々に働いて今日尙其煩ひを爲して居るのてあります、それてどうしても中央には拓植務省と云ふやうなものて統一しなければ全體の事を完うすることが出來ないと云ふ病は其時からありまして、幾らか直ほさうとして掛つて見ても此點に付いての世論の歸嚮する所が未だ其時機に達しないのと、各官吏中いつても內治的制度を以て植民地を律せんとするが爲めに植民地に於て非常な行政上の缺點を起し一省の經費位に代られぬ經濟上の損失を來たすのてあります、

南滿洲鐵道會社總裁たりし最初に於て此病根あることを諒察致しましたから豫め之を防ぎたいと考へました、是れが私が一時都督府の顧問を兼ねることになりました一部の事由てあります、何も其當時の非難を此に辯護するにも及ばぬ譯てありますが、之を開陳して諸賢の御參考に供し置くとは他日我帝國の新發展の際に諸般計畫に資する處あるべきを信じまする故てす、兎に角此南滿經營は租借地に都督府と云ふ全權の政府の出店を置くに拘らず主體は南滿鐵道會社てなければならぬと云ふことになつたのてあります、之を主體にせなければならぬと云ふことに極まつた譯は、先づ其當時の總理大臣西園寺侯も其他の人も文裝的武備と云ふ私の意見を

備に對する愚見

滿鐵の自的の變遷

容れられたからであります、そこで文裝的武備とは一寸言つて見ると文事的施設を以て他の侵略に備へ一旦緩急あれば武斷的行動を助くるの便を併せて講じ置く事であります、例之病院を置くそれを戰時のときは軍團病院に使ふ、又鐵道の吏員は軍事に差支のないやうにする爲めに武官の人て鐵道會社に命令を奉じて常に鐵道内部の設備に留意し有事の日に差支無き樣仕組み置くことになつて居りましたが、段々それが壞れて營業一方に傾き遂に今日の狀態になつたのでありますが、その文裝的武備と云ふことが何處迄も最も必要であります、そこて港の事に付いて港務局を置く時は海軍軍人の豫備若くは現役に在る者にしてコンマンジーレンされた者を用ゆることにしたいと云ふ要求を出しました、此主義を政府が容れなければ私はお斷りをするまてと決心して居る故に何んでも言ふて行はれないことはなかつたが、三ヶ月計り立つと段々變つて來て私在職中にも已に最初とは趣を異にするやうになりまして、今日は最早前日の態がなくなつたのてありますが、斯の如くにして帝國の特殊なる南滿鐵道に對するの使命を完うすることが出來ぬや否やと云ふことが問題として御攻究を願ひたい、是れが爲めに私は此事を申し上げて置くのであります、

目下紛糾を重ねつゝある滿鐵問題の解決も可成早く成り建設當初に於ける滿鐵に對して畏くも　先帝陛下が軫念あらせられたる大御心を恐察し奉り元老並に時の首相が苦心せられし跡に鑒みて速かに其本に還へり滿洲經營の大任を全くせられんこと切望に堪へず依て當時の事蹟を尋ぬるの便宜に供せんとの考にて明治三十九年八月余が滿洲鐵道總裁就職の情由を叙し山縣元帥、西園寺首相、林外相諸公の回覽に供したる一文、西園寺首相への副書、佐久間總督の意見を請ふ書及大島關東都督の裁諾を求むるの書等を茲に挿入することゝせり之れ既に滿鐵成立當時の精神を熟知せらるゝ貴族院議員諸君の爲めには或は無用ならんも滿鐵問題の喧囂を極めつゝある今日聊か後の滿鐵を論ずるものに資せんが爲めに本講演の參照として引用せしに過ぎず

滿洲鐵道總裁就職の情由を敍し山縣元帥西園寺首相林外相三閣下の回覽に供し並に所見を外相に質す書

山縣元帥閣下

滿洲鐵道の情を叙し就職を由山縣元帥を西園寺首相を林外相を諸公に覽す

西園寺首相閣下

林外務大臣閣下

滿洲鐵道總裁は關東都督の監督の下に立つと同時に都督府顧問として外務大臣監督の下に立ち都督行政の一切を與り聽くべし不肖某辱く乏を此職に承けんとするに當り此權宜の局を踏んで此大經營に任するは後來に向つて多大の愼慮を要すべきものあるを思ひ曩に既に其梗概を疏して大島關東都督の裁諾を求むる所ありたり蓋し鐵道總裁をして都督府顧問を兼ねしめ假すに一切行政干與の權能を以てして滿洲の經營を完うせんとするが如き當今事情の已むを得ざる所驅りて此に至れる大端の消息は當局諸公の認諒せられたる所なるべしと雖も此は抑も殖民地行政國務の體統に於て破格非例の措置に屬し將來群疑の機入も殆んど豫期するに堪へたるものありと謂はざる可らず凡そ一切應變權宜の處置なるものは事に關する者須らく首尾相應し利害相濟し終始杆格する所なくして始めて其成功を望むべし若し苟且牽合面從後言し觸途の小紛を以て全局を未了に破るが如きことあらば所謂權宜も寧ろ始めより之を事とせざるの介潔なるに如かず某實に此に感ずる所あり別に專書を裁して外相閣下の諾否に訴へんと欲せしかども退いて之を思ふに事情の關聯する所總核して之を陳ずるに非ざれば恐くは一端を擧げて言質を邀ふる

明治三十九年七月二十二日西園寺首相より總裁就職を勸めらる

適任にあらざる所以を陳べて固辭す

の嫌に近し乃ち煩絮を避けず事の始末を敍して列位諸公の存識を乞ひ幷に外相閣下の鑑裁を仰がんと欲す

明治三十九年七月二十二日召に應じて入京するや先づ謁を原内務大臣に取り内務大臣の示に據りて直ちに首相閣下に參見し玆に滿洲鐵道總裁の職に就くべきことを勸めらる某仍りて滿洲鐵道經營の全局が何人の監督に屬し其統理の中心點を那邊に求めらるべきやを進問せしに首相閣下の告げられし所に曰く監督權は關東都督に在るも中央政府の責任者は外務大臣たるべしと某以爲へらく滿洲經營は國の重事なり其政策上宜しく先づ根址を一定し專責の寄すべき所を明かにして而る後之が經營を言ふべし今政府の立意平緩なること此の如く別に構按を費やさゝる所なきものに似たり是れ不肖材力の獨り能く堪ふべき所に非ざるなりと由りて對へて曰く鐵道總裁の任務は重大なり其適任者を得るの難きは自ら閣下の苦心を存せらるべき所なり且つ某の如きは從來商事會社の事業に經驗を有せず將た滿洲鐵道事業方按の内容に於ても亦未だ其詳曲を與り聞かず是を思ひ彼を想ふに總裁の任は恐らくは某が適する所に非ず幸に願はくば推選を辭するを得んと首相閣下重ぬて告ぐらく滿洲經營の人材を待つや今の如く其れ急なり足下臺灣の經營に於て既に幾多の經驗を有せるのみならず予が時局の爲めに足下を勞して重ねて滿洲の

臺灣植民政策は未だ成功といふべからず

難局を理し其生面を開かしめんと欲するは今や臺灣の經營も既に其成功を告げたればなりと某對へて曰く今日世人動もすれば臺灣殖民政策の成功を速斷して了事安頓の想をなせども區々十年の歲月は本と是れ殖民史上の一彈指頃のみ臺灣小なりと雖ども此短日月の間に於て殖民政策の能事を畢ふると云ふが如きは理に於て事に於て固より之あるとなし世に臺灣の成功を說くものは概ね單に其財政の獨立を抽象して其餘を速了懸斷するのみ臺灣財政の獨立は實に當初帝國殖民地統治に關する輿論の危殆に迫られたる應急の處辨にして其結果に伴ふべき必然の弊害に至りては啻だに外國をして聞かしむべからざるのみならず又臺灣新附の民をして聞かしむべからざるものありて存す是れ恐らくは議者の能く省する所に非ず今日の臺灣は僅かに其逆取の急を濟せしに止まるものにして將來順守大成の務に至りては更に識者多大の盡力を要すべき所なり某從來此に省る所あり曾て兒玉前總督と議し帝國の爲めに臺地永遠安固の基礎を畫せんと謀れり以爲へらく新附民心自恃不馴の禍因を鎖絕せんと欲すれば須らく敎育殖產百般の行政に亘りて常に統一の精神を保ち民心を開導して反側に違あらざらしめんことを要すべし此は一切施設の中樞主張にして一端に卽いて之を說くべきに非ずと雖ども就中財政の偏安を貪り新附の民力を誅求して母國の負擔を緩ふるが如き形迹は今後切に之を忌むべし例へば臺灣をして守備の

臺灣統治に對する愚見を陳べて今後の政策に及ぶ

軍費負擔の課稅

生產的課稅

植產奬勵の結果

敎育事業方針

軍費を負擔せしめんとするが如き其最不可なるものなり今若し臺灣生產事業の振起の爲めに臺灣に增稅せば民心は順受すべく民力は長養すべく帝國は事實の上に於て輸入防止の財力を臺灣に負擔せしむることを得べし此等の遠大なる殖民政策に由らば新版圖に得る所をして母國統治費の失ふ所に倍蓰せしむるに足るべきなり試みに其一策を擧げんか臺地向後の事業大略水利よりも良きはなし全臺二十三ヶ所の水源を開き一億五千萬圓の資を投ぜば水力電氣七萬馬力を得るに足る之を應用し蒸氣事業を改めて電氣事業となし其餘力を以て灌漑の利を開き農產を豐足し且つ軍氣分析工場を創めて盛んに製造業を起さん此事假令ひ一時全擧すること能はざらんも先づ兩三所の水力電氣事業より始むるも四五年の內產糖價額凡そ三千五百萬圓米二千萬圓其外製鹽製藥を加へて一年七千萬乃至一億圓の收入を得んこと敢へて難きに非ず內は國帑を增し外は輸入を拒ぎ臺灣をして安んじて母國同化の統治の下に立つを得せしむべきものは必ずや此等の計畫に依らずんばあるべからず且つ殖民地の敎育事業方針の如き切に愼慮を要すべきものにして敎育の偏急なる進步は財政獨立の早成と同じく民心彊梁の禍因を伏するものなるが故に之れが調節に關しては某が兒玉前總督に從ひて臺灣に服官せしの日より深く注意を加へ來りたる所なり（今日韓國及滿洲方面に在りて淸國開發の要務と信じ漫然注入せらるゝ所の敎育施設の

臺灣統治の不完全なるを結論して臺灣に留任の必要を論ず

首相遂に兒玉總長と熟議すべきを以てせらる

二十二日兒玉總長を訪ふて論談す

如き他年の弊害恐らくは洞見に勝へざるものあらん）般鑑遠からず英國が從來印度教育事業の不用意の爲めに民心反撥收拾すべからざるの今日を來せしが如き省みて其道を反さんことは之を殖民政治家の祓訣韜略と謂ふも可なりと佐久間總督更任し某一時掛冠の意を決せしの日に當りて此等方按の詳細を陳じて之を總督の參考に資せんと欲せしかども總督無條件を以て統治の全權を委任し以て某が留任を要せられしが爲めに未だ急遽指陳するに及ばざるのみ然れども此は義に於て某が必ず總督の爲めに努力經紀せざるべからざる所の豫後問題たるなり洵に未だ來者果して何の意見をなすを知らず將た此問題必しも某を待ちて而る後に成るべしと言はず但々臺灣統治成功猶遠く某が進退弊屣の如くなること能はざる所以は則ち此の如きものありと是に於て首相閣下は唯鐵道總裁就職事宜の續考を求めらるゝと同時に喩すに兒玉參謀總長に會し熟議妥協すべきを以てせられたり

二十二日午後零時二十分兒玉參謀總長を訪ひ首相閣下の喩を陳じて意見を請ふ參謀總長却つて首相閣下の言如何と問はる某對ふるらく叨りに不肖を指して滿洲鐵道總裁適任の選に擬せられ辭すれども未だ命を得ず並に閣下に進謁すべきを囑せられたりと因りて首相閣下の意志乃ち其自ら斷ずべき所を讓り參謀總長の口を藉りて某を調服せんとせらるゝに非ざるかの疑を呈し並に鄙衷の他なきを省して辭意を諒とせられんことを請へり參謀總長即ち某が爲めに諄々として事情を說き某をして感激詞を措くこと能はざらしめたり是れ實に蒞去十時間前の事にして某に對する末後の垂喩たりしものなり席上對晤堅く辭意を陳じ爲めに參謀總長をして三時間半の談說を勞するに至らしめたりしは今にして之を思へば實に某平生不償の一恨事たり當時參謀總長談の要に曰く

予の現在の地位は君が爲めに滿洲鐵道總裁の就職を勸說するに適せず此事首相閣下夙に之を諒せり首相閣下は君が辭意を說破すべく鐵道問題從來の經過は予之を說明すべく佐久間總督をして君の進退を承允せしめんことは山縣元帥閣下之を解說せらるべきは前日の成言なりき然れども首相閣下の覿面して君は說破せざりし所以のものは惟ふに他意あるに非ず蓋し事宜を愼重するの餘に出でたるなりと

參謀總長の發言此の如くなりしに拘はらず語氣漸く轉じて自ら某が辭意を說破せられんとするものゝ如し曰く

抑々滿洲鐵道の經營は元來君の首說せし所に非ずや去歳既に書を寄せて予に告げし所あり嗣いて予を滿洲軍參謀部に訪ひ懇々として其要を說きたりしに非ずやと

兒玉總長懇々鄭裁就職を勸めらる

參謀總長は縷々として某が舊來論列せし所を追窮し今日某が辭意の謂はれなきを責められたり曰く

滿洲鐵道事業に關しては當時君と予と共に國有經營の意見を持せしも俄かにしてポーツマス條約の限る所となり予は既に其會社事業經營の方針を贊成せり而して君も亦其然らざるを得ざることを認むるに非ずや隨て之と密接關係を有する所の韓國鐵道の如き今後或は之を私設會社に賣與するの必要あらざるべきかの疑問に對しても君は此事業が滿洲鐵道と脣齒相依の關係あるを以て事實上事業の統一を要すべきも必ずしも賣與の必要あるに非ず別に之を滿洲鐵道經營者に貸附して統一經營を行はしむべきの捷徑あるを說くは亦予が同感を表する所なり予が此問題に關して當時の內閣に提言する所ありしも亦君が意見を得て予が意を强くするものありしに由る予が滿洲鐵道調査委員長となり尋いて鐵道會社創立委員長となるや身軍職の要路に當れるが爲めに物議の蝟集ありしかども時務の必要に鑑み敢然其說を持續し困難を排して裁可を經るに及べり

曰く日露の衝爭は恐らくは滿洲の一戰を以て其局を了すべきに非ず第二の戰爭果して何れの年を以て來るべきか勝算我に在るときは先んじて以て人を制すべく勝算未だ立たずんば持重

して以て機を待つべく假令ひ再戰して勝を得ざるも我猶ほ善後の餘地を留むべく要するに我は滿洲に於て常に主を以て客を制し佚を以て勞を待つの地步を占めざるべからず此を爲す所以の要件一に鐵道經營の巧拙如何に在りとは此も亦君が持說なりしに非ずや其然るを得る所以の計は第一鐵道の經營第二炭礦開發第三移民第四牧畜諸業の施設にして就中移民を以て其要務となさゞるべからず今日韓國の宗主權を皮相するもの徒らに之を戰勝若は外交の結果に歸すれども其の實は此の如き簡單急成の功に非ず宗主權の獲得は舊來我國民韓地移入の上に於て列國の優先を占め口舌を以て爭ふ能はざるの事實を存じたるに由れるなり而も此は移して以て滿洲問題の解釋に供すべし制度規矩の細に至りては抑々後なり今鐵道の經營に因りて十年を出てざるに五十萬の國民を滿洲に移入することを得ば露國倔强と雖ども漫に我と戰端を啓くことを得ず和戰緩急の制命は居然として我手中に落ちん假令ひ露國一戰して我を破るも我猶卷土回復の素地を失はざるなり今若し第二滿洲戰爭の軍費二十億を要すとせんに戰期緩紓年間の我滿洲經營費をして之が利息に準せしめば平和維持の費も亦廉なりと云ふべし鐵道炭礦の經營も費用を此算內に取らば殖民政策上屢々免れざる所の經濟的消極說の妨害の如き之を防ぐこと難きに非ず戰爭は常勝を期すべからず永久の決勝は繫りて民口の消長に在る

こと普佛戰爭に於けるエルサスロートリングンの例に鑑むるも亦其消息を察するに足るべし

我若し滿洲に於て五十萬の移民と數百萬の畜産とを有せんか戰機若し我に利ならば進みて敵國を侵略するの準備となすべく亦若し我に不利ならば嚴然不動和を持して以て機會を待つに足るべし是れ滿韓經營大局の主張なりと是れ亦君が持論に非ずや予は世間徒らに戰勝の上より滿洲問題を說くものあるを聞けども未だ勝負を平均し着實周密の經營方針を談ずること君が意見の如きを聞かず予は深く君の所說に贊同し采りて以て帝國將來の政策となさんと欲せしが故に身を挺して自ら任ずる所あり予をして物議に抗して滿洲鐵道創立委員長とならしめしが如きは聊か自ら所信ありしが爲なりと云ふと雖ども而も或は君の見予を驅りて此地に立たしめたるものあるなり

曰く君今政府の滿洲經營談に參して殖民政策の無中心を咎め都督府の薄力を嫌ひ妄りに自ら外立して滿洲の事挺身致力するに足るものなしと云はゞ他人或は君が言の理あるを肯はんも予は斷じて君が志節を肯はざるべし我輩辱く聖朝に周旋し時務を與り聞く難局に逢ふて回避を許さば豈其平生を羞かしむるに庶幾からずや予は近來自ら厭世の念に堪へず夢寐に勇退を思ひて已まざれども時の許さざるものあるが爲めに猶進みて難局に當り且つ滿洲問題解決の

適任者を求むるや切なり今日の事衆に撰びて一大臣の才を得んことは易く滿洲問題解決の爲めに一士を得んことは難し今衆口相合して君の適材を推す君若し時と睽くことなくんば必ず進みて之に當れ予は只鐵道會社創立の事に任ずべきのみ殖民政策の中心點に至りては君必ず之を執れ予は既に君と大同の意見を持して之を當道に提議せり首相閣下山縣元帥閣下幸に異議なし君必ず其勸めに從へ若し滿洲經營上隨時の緩急に至りては予は必ず君が爲めに力を盡すべし予は斷じて從前の關係に據りて君の材力を操作顚使せんと欲するものに非ず君若し邦家の爲めに進んで此局に當らば予も亦必要に應じ甘んじて自ら君が利用に供するを辭せざるべしと

見玉參謀總長の熱心に對し喩に倘ほ其選を辭す

參謀總長辭氣慷慨咄々として相迫る其平生の事業必ず君を待ちて終りを全くすべきことは予の確信して疑はざりし所なりと云ふに至りては一席の中幾たびか其語を聞けり其當時參謀總長傾吐慟歎頗る平昔の機鋒に類せざるを異しみたりと雖も而も猶其幽明撤手の別語たらんことを占ふに由なく以爲へらく是れ或は參謀總長言を以て某を激するなりと因りて答へて曰く滿洲鐵道經營の說は某實に之を發せりと雖も固より他日應さに鐵道總裁去就の問題あるべきを知りしに非ず且つ佐久間總督既に某に囑するに臺灣殖民政策の支持を以てせらる奉公の義行くと留まる

と宜しく相異ることなかるべし聞く山縣元帥及閣下と首相と共に某を目して滿洲鐵道總裁の任に適せりとせらるると某光榮之に過ぐるはなしと雖も自ら顧みて微力の大事を蔽ふに足らざるを危ぶむに至りては謹んで其選を辭するの外に途なきを信ずと參謀總長乃ち曰く、

君が平生事に臨みて怯なることは予固より之を知れり而も君が善く怯なるは卽ち君の能く事に處する所以なること予亦之を知れりこの時に當りて殊に薄力自危を以て詞となすも予は之を聞くことを願はざるなりと

某對ふるらく閣下幸に某が地位如何と察せられよ用舍時あり信疑人に由る若し偏へに既往を引いて將來を强ひられば某たるもの亦處し難からずや識者之を謀り能者之に當り萬行はれずして而る後某を試用せられんも未だ晩しとなさゞるべしと參謀總長又曰く

今日の事勢傾臺の時と緩急既に異なり前に不測の患を伏し後へに巨創の痛を裹む一張一弛以て定局を俟つべきの際に非ず衆望の集まる所是れ君が斃れて已むべきの地に非ずやと

參謀總長の言は終に首相閣下に代はりて某が執意を說破せらるるものに似たり急に電話を通じて某を山縣元帥閣下に紹介し往謁して意見を陳せしむ別に臨み某更に熟考の時間を乞ひしに參謀總長之を諾し且つ曰く

二十二日午後山縣元帥に遇ふて尙ほ其任に非ざるを知て武辯を說けり

二十四日首相閣下に再び辭意を陳し奏聞せられず

君徒に前意を固執すること勿れ此選の辭すべからざるの義も亦併はせて之を審思せよと

是れ參謀總長が某に對する永訣の一語たりき

其日午後四時元帥閣下を訪ひ滿洲鐵道經營に關する鄙見を呈し會社の組織計畫にして果して所聞の如くんば總裁の如きは之を陸軍官憲より選用するの優れるに如かざるべきを陳す元帥閣下乃ち曰く武官總裁も亦置き難きに非ざるべし但々適材を選ばんが爲めに君に及ぶのみと某是に於て元帥閣下別に其人を選ばるべきを庶幾せり

此夜兒玉參謀總長は薨去せり

二十三日上來諸公と談せし所の要旨を括して佐久間總督に電報せしに總督返示あり云ふ滿洲の君を要すること果して臺灣以上に在らば予は亦必ずしも此方の便宜の爲めに前約を固執することなかるべし君其れ之を審思せよと

二十四日首相閣下に謁し重ねて辭意を陳す閣下斥けられて曰く予は吏が所謂部下に人を得るの難きと君が事に怯なるとの理由を以て辭意の當を得たるものと認むること能はず所謂殖民政策無中心の疑問の如き是れ正さに滿洲問題が君を要する所以なるのみ之を極言するに君にして此選を避けんと欲せば其辭柄なきに苦まざるべし予は時の爲めに謀り此重任を挈げて君が平生の

嗚呼兒玉總長薨ず

二十三日佐久間總督に電報し其返電に接す

二十五日元帥に辭意を陳ずるも亦卻けらる

義俠に訴へ必ず然諾を與へられんことを祈求するの外他計なきなりと

二十五日元帥閣下に謁して辭意を陳す元帥閣下の就職を慫慂せらるゝこと却て首相閣下の如し且つ曰く滿洲時務に對する君が材能適否如何の問題の如き予は既に新たに君と之を商量すべきの必要を認めず聞かんと欲する所は君が現職を去るの後臺灣政務善後の計にあり君其れ之を商量し來れと某是に於てか武官總裁の前說が元帥閣下の採る所とならざりしを疑へり

首相元帥兩侯閣下は皆既に殖民政策の中心點を併せて某に寄屬し某をして無中心の疑問を以て推選を辭するに由なからしめんとするに似たり因りて竊かに滿洲經營の前途を思繹し二十七日兩侯閣下に歷謁し考按の大旨を陳して可否を乞ふ要は時局の急要に鑑み現行官制の許すべき限內に於て權宜施設の途を開き兩侯閣下の主意を體し故兒玉參謀總長の遺志に副はんとするに在り兩侯閣下之を納れられたり

寺內陸相亦就職を勸めらる

八月一日

既にして寺內陸軍大臣亦某が就職を要望せらるゝ所あり今や某此推選に對して回避の途既に絕へたるを感ぜり因りて三十一日を以て就職條件を元帥閣下に呈し八月一日亦之を首相閣下に呈して茲に謹んで就職を承諾せり其八日大島關東都督と陸軍大臣官邸に會し書面に憑りて滿洲經營の重事に關し特に鄙見を採納せらるべきの允諾を得別に一通を寫して之を元帥閣下に呈し遂に意を決して就職を諾す

滿洲鐵道經營は東印度會社の經營よりも一層困難なる所以を論じて公に反省を求む

異日の參考となせり

凡そ事對外政策に關すれば名實表裡相一致する能はざること多く隱密詭秘の策を裏むに法理名分を以てせざるべからざること常に少からずと雖も其權略利害未だ滿洲鐵道經營の事情に過ぐるはあらざるべし昔時英國殖民政策に於ける東印度會社の設置の如き其國家との關係に於て複雜を極めたれども要するに東印度會社は實に自ら完全の主權を擁したりしものにして今の我滿洲鐵道總裁が商事會社經營の題目を以て都督監督の名分の下に殖民政策上重大の責任を帶ぶるが如きに比すれば事の難易恐らくは同日の論に非ず然るを若し官僚政治の流弊此間に滲入し殖民政策上無經驗の徒此權宜の事局を解せず漫に法律官制の具文に牽かれ枝葉の理論に趨り實務を口舌の間に誤るが如きことあるに至らんか是れ寔に滿洲經營の大患なり今日の姑息政策は全く事務の如何んともすべからざる所に出でたるものにして東印度會社の故態を滿洲に再演し得べきものに非ざることは固より某の了知する所なれども其然るが爲に特に當局に望むに深く此已むを得ざるの事情を諒し隱忍堅志以て有終の美を責めらるべきの識度を以てせることを得ず某不肖の材を以て俄かに鐵道總裁の選を受けんと欲するに至れるも斷じて苟且好事の粗心に出でたるに非ざることは幸に上來叙する所諸公と往復談論の主旨を挹みて至意を言外に省せら

臺灣植民政策は其中心點を成す玉置總督に於たるに引き續き中洲經營の例を開き其中心點に於て欠くべからざる所のものに以て更に陳ぜらるるを持ち當の任に堪ふる諸公を援助して其の中心に保ち難き諸公を助けて其の講ふ

るべし今や某は諸公の寄屬に感發し一身を齎らして滿洲經營問題の犧牲に供せざるべからざるを自認せり願くは當局諸公各々其位より某を援助して心力の足らざる所を扶持せられんことを事若し功あらば主因は必ず列位匡救の力に在らん總裁は場に當りて便を行ふのみ功若し成らずんば某が失敗は悔ゆるに足らず邦家前途の憂ひ諸公必ず等閑岐視すべからざるものあらん

嘗みに臺灣殖民政策の事績を顧みるに未だ容易に其成功を許すべからずと雖も尚ほ其今日の小成を致すを得たる所以の主因を尋ぬれば其經營の中心常に故兒玉總督に在りて出入進退方針渝らず歴次の内閣皆能く之を是認倚重せられたりしが故なり今日某俄かに滿洲經營の中心點を主持せんとするも智能力望諸公の認むる所となるもの實に故總督の後塵を望むに足らず而るを諸公叩りに選拔を辱くし臺灣の既往を概推して實例を滿洲の新局面に要せらる是れ某僅かに官秩を卸して却て總督の實責を荷ふなり今代列國殖民政策の爲めに儼然たる國務大臣の椅子を備ふるため猶成功の難きを歎ずるの日に當り微々たる某の身を以て敢て國家の爲に無官總督の重責を負はんとするは識者より之を見れば恐らくは忘分の哂りを免るべからず然れども此哂りを甘んずるは適さに某が諸公の知遇に酬ゆる所以なり辛に諸公徒に推選に急にして援助に疎なることなからんことを且つ滿韓の經營は對清關係に於て重大の利害を有すべきが故に外務大臣閣下

外相に質すに滿洲の中心主人を何人に持つを委するを以てやす

及駐清公使に望むに篤く某が爲めに謀りて便宜を失はざらしめんことを以てせざるを得ず某も亦其指導誘掖を善受し肝膽相照して此經營の局を完うせんことを旨とせざるべからず所謂殖民政策にして果して紙上の空論たらば即ち已む苟も國家重大の事實問題たるより以上は空理に拘はり議論に束ねられ觸處相掣累して以て大局を誤つこと世間往々見る所の外交事弊の如くなるべからず要を以て之を言ふに今後外務省と滿洲鐵道總裁との關係をして故兒玉總督の歴代内閣に於けるが如く各地領事と總裁とをして福建領事の臺灣總督府に於けるが如くならしめ意志疏通し表裡相濟らば庶はくば互に敗なきに幾からん是れ某が今より深く外相閣下の體察を希望する所なり

然れども外務省は實に滿洲政治の主務者なり中央政府に於ける最上監督官廳なり滿洲經營に於ける事實上の主力を假して之を鐵道總裁に委するが如き外相閣下の容易に同意を表せらるべき所なるや否や未だ知るべからず果して此くの如くならば某願はくは此際に於て外相閣下と着實親切に是非を論究し得失を決定せん假し所見を直言することを許さば從來外務省の殖民政策に於けるや空疎不振に久しと云ふべし今一能才を得て外務省の爲めに殖民政策を主持振起せしむることを得ば誠に國家の慶事なりと雖も抑々政策事務の能才は官制の文按と共に一朝にして

造出し得べきものに非ず某好みて外務省の短所を擧るに非ざれども此問題たるや現勢に省みて茲に言及せざるべからざる所に屬す外務省果して某が言の不當を論明せば某應せに罪を引いて前言を撤回すべし萬一單に其言を咎めて其實を効すに吝ならば帝國殖民政策の前途豈勝けて言ふべけんや語に云ふ言者罪なし聞者戒むるに足ると假し某が言を以て聽くべきの理ありとせられんか滿洲經營殖民政策の中心主持其宜しく何人に委すべきかに至りては固より唯々外相閣下の聰明に待ち可否の一言を承くれば足るのみ

更に思ふに滿洲鐵道總裁は關東都督の直接監督と外相閣下の最高監督との下に立つべきものたるに拘はらず某が所感を以てすれば今回選任の消息の如き主として首相閣下の約諾に成り外相閣下及關東都督に對しては披瀝未だ至らざる所あり是れ曩に特に一書を具して大島都督の裁諾を經たりし所以なり若し外相閣下及其僚屬にして某就職の事由上述の如く鐵道總裁置職の權宜も事の已むべからざるに出てたるの實勢を察せられず他日情僞相沮格し繩墨相拘制せるが如きことあらば滿洲の經營は終に一場の兒戯環視の戮辱に終らざるを得ず是れ某が今日に於て嫌を冒し提言して所見の當否と就職の是非とを外相閣下に質し快く贊否の決を與へられんことを請ふ所以なり

西園寺首相への副書

滿洲鐵道總裁就職事宜に關し僭妄を咎めず私見を聽納せられたる元帥閣下首相閣下の雅量は某の感激措かざる所なり然れども豫後某が任の重く道の遠きを思へば憂心兢々深く諸公の同情體察を乞はざるべからざるものあること上述の如し元帥閣下首相閣下外相閣下某が煩言を嫌はず俯して同省を賜はゞ幸甚の至りに堪ふるなし

明治三十九年八月二十二日

後藤新平識

此書狀は八月二十四日山縣元帥に廿六日寺内陸相に廿八日西園寺首相に各一通を呈せり

西園寺首相への副書

先般大島關東都督より滿洲鐵道總裁就職事件に關する下名申出覺書閣下の一覽に供せられ候趣承及候處猶此義に關し更に外相閣下の高見を叩き幷に閣下及山縣侯の御聞置を請ふべき爲別紙就職情由書を裁し一通を呈覽致候右の如く就職事宜に關し此際書面を以て件々に各方面の承認を求むるが如きは或は總裁たるもの場合を利用して自家の權域を開くに急なるの嫌を免れざるべく此點は下名不本意の感も有之處に候得共問題は全體に於て舊格の據るべきものなく後來

細大の事端に就き自他疑惑を惹くことあるべきは今日に於て切に關心を要すべき義にして之が解釋の日に臨み相互の意見聚話を來し其都度臺閣の決定を累はすが如きこと有之候ては事態都て善ならざるのみならず事業全局の利害にも影響すること可有之此際他嫌を冒すも寧ろ豫科の及ぶ處を率直に決定し置くの優れるに如かずと思考する義に有之候仍て本情由書別謄一封を附し閣下より外相に差廻はされんことを希望致候間前段の鄙意を諒とせられば右樣御處置相成候樣致度候萬一此事も場合不穩當等の御見込有之歟或は又就職の一埒如き諸事含默に讓るべきものとの尊意にも有之候はゞ折返し明白御示報相成候樣併て希望致候下名に於ては苟くも決心を以て事に任ずる以上は從來の紛疑を招くが爲に事前に於て關係諸方と剴切の成言を要すべしとの鄙見に過ぎざる義に候得共由來此等の切直なる考慮が一身の利益をなすもの無之事も粗ぼ承知致置候に就ては隨宜俯仰の精神を以て穩便事に當るべき筋にも有之候はゞ此も又謹て熟考可致候間何れにも高見相仰候　敬具

明治三十九年八月廿八日

爵　氏　名

民政長官去就の事情に關し佐久間總督の意見を請ふ書

滿鐵總裁就職の過を晩叙經營し臺灣兩地滿洲に顧問を置けるを事情を述ぶ

民政長官去就の事情に關し佐久間總督の意見を請ふ書

臺灣總督佐久間子爵閣下

前月拜辭入京の後西園寺首相山縣元帥故兒玉參謀總長に歷謁し滿洲鐵道總裁就職の件を勸められたる事情に關して當時電報を以て閣下に稟聞する所あり閣下直ちに覆示を辱ふし告ぐるに臺灣滿洲時務の輕重に省み進止を思ふべきの優旨を以てせられたるは某の深く感激する所なり然るに此覆示の未だ達せざるに參謀總長溘かに薨去し邦家の不幸上下の同恨を來せしのみならず當路內閣は滿洲問題主持の中心を失ひ某は進止處決唯一の裁量者を失ひ一時此問題の收結如何を知らざる感ありき

某固より滿洲問題に關して何等の智能經驗を有せるに非ず加之閣下膺命の初に當り辱く某を要して臺地殖民政策支持の全權を委ねられ將來の爲めに謀りて此知遇に酬ゐんことを思ふの殷なりしを以て其事情を擧げ奉公の忱は地の南北に由りて其義を殊にすることなかるべきを陳し前後再三固く此選を辭したるに拘はらず首相元帥終に之を許さるゝの意なし因りて竊かに就職豫後の計を思ふに滿洲鐵道が單に一商事會社の營利事業として經營せらるべきものに非ざるは

臺灣に顧問制度設置に付き總督の意見を問ふ

論なく滿洲の全問題は事實に於て寧ろ首腦を鐵道經營に有すべきが故にその總裁者は勢滿洲殖民政策主持の實責に當らざるべからざるものなることを感じたり將た臺灣の經營に關しては首相元帥共に某が致仕以後の措置に就いて別に成見を示さゝ所なく某をして併せて之を考料せしめられたり某以爲らく事既に此に至る唯須らく國家の急務と諸々の顧囑との爲めに一身の得失を忘るべしと卽ち滿洲鐵道經營大要の意見及臺灣總督府並關東都督府顧問置職の方按を提言せしに首相元帥之を容れ某をして鐵道總裁を以て此兩顧問を兼しめ兩地殖民政策の主持に任ずべきの內意を與へられたり此情節に關しては之を裁して大島關東都督の所見を請ひ既に允諾を得たり而して鐵道總裁は其職制に於て關東都督の直接監督を受くると同時に滿洲政務の最高監督を外務大臣に受くべきを以て更に別書を具して外務大臣の意見を質し幷に首相元帥兩侯の同省を請へり兩書の謄本は此に附呈する所の如し閣下幸はくば之を省して本件の事相と某が進止の本意とを鑑みられんことを

惟ふに今日に及んで顧問制度を臺灣に肇むるのみならず其れをして遙かに關東都督府顧問を兼ねしむるが如きは既に閣下の豫期に非ず亦某が素意に非ず事勢の推轉頓かに此に至ると雖も閣下果して諒として之を是認せらるべきや否や某曾て臺灣の爲めに外人顧問の制度を排斥したりしに拘はらず今日自ら其職に居らんとするが如き閣下果して利害如何と見らるべきや且つ顧問職員存廢の決の如き之を閣下に委して不可なかるべきが如くなるに拘はらず特に勅令を以て之を規定せんと欲する中央政府の本旨は果して閣下の贊同せらるべき所なるや否や是れ皆某の惑ふ所なり將た滿洲鐵道總裁を以て南北兩地殖民政策主持の責に任ずるが如きは某も未だ他日の成敗利鈍を斷言し得べき所に非ず但事務の已むを得ざる所と當路諸公の慫慂とに迫りて不肖を揣らず身を此局に捧ぐると云ふのみ臺灣の時務の如き今日一應成功の外觀を呈すと云ふと雖ども過去十年應急權宜の施設には將來弊竇の救はざるべからざるもの既に多く教育事業方針の如き殖產水利の問題の如き某が從來留意熟考して閣下の爲めに努力經紀せんと期待したりし所のもの一にして足らず今一朝にして身を臺灣の外に置かんとするは或は閣下の知遇に背くに類し遺憾窮りなし當路諸公之を諒とし某をして責を臺灣に絕たしめんことを欲せず顧問制度に由りて之を羈絏せられたり然れども外間より之を觀ば或は恐らくは某を以て權勢に纏繞し不分の重寄を貪るとなすものあらん此は某の不幸にして屑々辨疏の限に在らずと雖ども假し閣下信任の屬否と顧問制度の可否とに至りては此際之を模稜迎合に附せんと欲するも既に得べからざるなり官途邂逅辱く閣下に親善し鯁直不佞概ね既に之を了せられたり其初めを苟もして其終りを

海ゐんが如きは某の能くする所に非ず臺灣當さに某が顧問の職に在らんとを要すべきか將た某當さに此任に處るべからざるか去就進退某に於て一毫の私慊あるなし但閣下明かに之を裁せよ

明治三十九年九月　日

爵　氏　名

滿洲鐵道總裁就職事宜に關し大島關東都督の裁諾を求むる書

滿洲鐵道總裁就職事宜に關し東都督の裁諾を求むる書

關東都督陸軍大將大島男爵閣下

滿洲經營の所謂鐵道事業なるか將た鐵道事業の所謂滿洲經營なるか現今滿洲經營なる問題か其實に於て大要鐵道事業の問題に過ぎざることは國論の齊しく認諒せる所なるが故に此問題の解決に任ずるものは國家に對して重大の責務を分つといふべし

今西園寺首相は某が不肖を以てせず擬するに滿洲鐵道の總裁を以てせらる此は不肖なる某に於て宜しく退讓に遑あらざるきべ所なり然れども暫く一身の毀譽勞佚を措いて之を國家の急に鑒ひるに實に揖讓多議以て時月を曠ふずべきの際に非ず且つ某此問題に於て既に山縣元帥及故兒玉參謀總長の喩を辱うせし所あり是れ某が自ら其力を揣らず敢て首相の慫慂に從ひ不肖の才を擧げて此問題の解決に犧供せんとするの意を決したる所以なり

其終を全くせんと欲すれば其始を愼まざるべからず某が任の重く道の遠きを思へば日後開局の大節目を豫料し嫌を犯し敢言して滿洲都督閣下の裁斷に訴へざるを得ざるものあり是れ此問題に於て未だ都督閣下の成見を與り聞くことを得ざりし所の某が應さに効すべきの義務なり事に赴くの順序なりと信ずるを以てなり

某が今日敢へて滿洲鐵道總裁の重任を負はんとするは必ずしも巨細詳悉確然挾むべきの成見あるが爲に非ず但之を幾多の議者に徵するも不幸にして終に何等の成見あるを聞かざりしが爲に將た殖民地の事業に於て既往多少の經驗を有し悞ちて諸公の認信を辱うする所ありしが爲めに奮ふて此責に膺るといふのみ若し遽かに其成算如何と問はれんか事後運用の妙恐らくは一々之を今日に概言すべからず必ずや不肖の才鞠躬盡力斃れて已むと云ふに過ぎず閣下節を滿洲に駐むること既に年餘此等の事若し一定の成見を具せられなば願はくば今日に於て審かに之を開示せられんことを請ふ謹んで研究を加へ奉じて以て將來鐵道經營の規矩となさん是れ某が閣下の高明に仰ぐ所以の第一件なり

滿洲鐵道の性質を論じて都督府の事業に干與するの必要なるを辯ず

次に若し事固より逆睹すべからず向後の計須らく共に努力すべしと云はゞ則ち某に一議あり他なし所謂鐵道事業の滿洲經營に於けるや名は緒餘の如くにして實は主重の本務なるが故に軍事行政一切の擧措も形は鐵道事業を規制すべくして實は鐵道事業の爲に規制せられざるべからず某が見る所を以てするに凡そ滿洲鐵道總裁の責任たるや事實に於て都督閣下の一切重事を與り聽き可否を論陳するの能力を認めらるゝに非ずんば恐らくは未だ責むるに多般の成功を以てすべからず閣下果して此見を諒として行政一切の機宜も枉げて某に垂問するの約を賜はるべきや否や用兵の術は某の知る所に非ず行政の得失に至りては事苟も滿洲經營の主題に關する以上は某當さに盡言して諱むことなかるべし閣下果して其意を省し閣下の名に於て某の進言する所を採行せらるべきや否や

滿洲鐵道の經營は緊急切要の國家問題なり

滿洲鐵道は單に之を營利事業と看るに於ては其經營方針未だ必ずしも甚だ計畫し難からず隨て之が總裁者の權能も特に爲に重きを寄するを要せざるものあらん然れども今國家多大の力を假して此事業を經營し其成功を邀ふる所の意は固より一味營利の爲にするに非ず滿洲鐵道の經營たるや其主要の意義に於ては居然たる緊急切要の國家問題なるが故に鐵道も亦其營利の便宜以上に於て此急要に赴かんことを旨とせざるべからず

都督府の干渉は百弊の源なり

事態此の如くなるに當り閣下の文武員弁各々其便宜を主張し右より左より擾々として鐵道を掣肘拘牽し而も且つ其着々進功して接濟に慊なからんことを求められば鐵道たるもの亦難からずや軍政民政文武官の軋轢若くは官民情僞の阻隔の如き殖民地に於て有り易きの現象にして流弊の事を害するや往々言ふに勝えざることあり閣下果して能く此事情を諒し某に假すに別に一路の地望を以てし某をして滿洲文武弁の掣肘を受けしめざらんことを約せらるべきや否や

都督府に顧問設置の議あるをの述べて都督の意を見を求む

更に未定の一問題に關して此に附言せざるべからざるものあり政府は不日一令を發し都督閣下の幕府に顧問を置き滿洲鐵道總裁をして其任に當りて以て行政に干與し都督府と滿洲鐵道會社とをして施設の間互に相杆格することなからしむべしと此等の處置たるや一般行政組織の體統より言はゞ事勢の已むを得ざる一種の權宜と稱すべし抑々殖民地統治顧問員として外國人を延くの策に對しては某特に所見あるが爲に曾て極力之を反撥せり顧ふに都督府顧問員の問題の如き置くも置かざるも宜しく之を閣下の權内に委して不可なきが如くなるべし然るを今政府特に勅令を以て此事を規定せんとするは蓋し必ず別に見る所なくはあるべからず閣下此顧問制度を見て以て無用有害となすこと曾て某が外國顧問を見しに類することなからんか此も亦滿洲時務策中宜しく先づ閣下の意を請ふべきものゝ一なるを感ず

以上陳ずる所越俎冒瀆嫌を避くるに他なきを覺ゆ然れども方今軍國多務賢不肖分に隨ひ身を致すに遑あらざる恐らくは嫌諱小拘之れ事とすべきの秋に非ず即し耿々私を忘れ國に許すの意も唯知者の爲に言ふべし俗人と言ひ難きなり閣下幸に言の硬突を恕して微衷の在る所を省し軍刀案を斫りて明かに是非を裁せよ

明治三十九年八月

爵　氏　名

文裝的武備も實際に應用するこは困難なり

第一は旅順鎮守府並に要塞なり

是れが經歷でありまして其變化が文裝的の武備であつて、軍事關係を最終の目的とすると云ふやうなことにお聽き下さつては間違ひを生じますけれども、兎に角武裝的文弱に陷らないて文裝的の武備にしたいと云ふことの說を容れられました當時は良かつたが、暫くすると餘程其政策を行ふのに困難を感じたのであります、第一は旅順鎮守府並に要塞のことであります、旅順に鎮守府を置くのはどれ丈け必要があるかと云ふことは私には固より儒者の談兵に類し其道を得て居らないけれども大體計畫上不必要とはいはぬが漸次漸次それを撤去する積りて居つたがなか〳〵撤去が出來ないのみならずあの旅順の港を活用することを許さぬ、次に要塞のとも鎮守府がそれ丈けの維持擴張を首張すると共に要塞も同樣の氣味になる、乃ちそれは帝國の敵に

旅順を軍港とするとは否とは對支那策

對しての防備でなくして陸に對するの海軍、海軍に對するの陸軍と云ふ意味に歸着する、是は內輪の話として聽いて貰はねばならぬが是が帝國植民政策の大體の目的を達する爲めに非常に障碍になることである、實際鎮守府が必要かと云ふと左樣に必要でもない、例へば色々計畫をして旅順から石炭を積出すやうにしやうとしたり、又或事柄に付いては大連の港に商工業的施設することを止めて旅順に施設した方が良策だと思つても、殊に芝罘の商業をあすこに引着けること又天津其他渤海灣の船舶をあすこに引着ける事柄に對しては（此處に海軍のお方も居られますが）誠に素人にもわかる一目瞭然のことて、大連より遙かに諸般の便利があります、此事に付いて大分議論をしましたが斷然決行せんとすると一大問題を起して騷ぎをしなければならぬ、それも構はぬ又進退を睹することも構はぬとしても大體の計畫に付いて困難を感ずるから其事を緩うして置いて他日に待つたと云ふのが今日迄禍をなしたのであります、是れ以上詳しく申すことは必要があるまいと思ひます、此處迄申しますれば我帝國の滿洲特殊使命に對し皆さんの自問自答で是れから先きは解せらるゝならんと思ふのであります、

此事は經濟上にも軍事上にも將又外交上にも大なる關係があります、是れが若し吾々の計畫通り行はれると渤海灣の漁權商權沿岸航海權其他の事に付いて支那官憲をして洵に穩健に進行

に重大の關係あり

旅順工學堂

日本占領後旅順の衰頽

工科大學堂設立の理由

旅順に旅順學堂を起す

修學生の養成も益あり

旅順推持亦策となる

海軍工廠の利用

させる政策が容易に成功するのであります、所が旅順は軍港なりと言つて嚇して了つて、暴風があつても大連迄船を持つて來なければなりませぬから、渤海灣の者と租借地の者と民族の近接を害することになつて、植民政策の本義を失ふことになつて居るのであります、

それから其次に順序が惡いか知りませぬけれども旅順工學堂のことをお話致します、旅順の軍港に御出てになつた方は此席にも多からんと存じますが、露西亞の時は盛大のものであつた所が日本に讓與後の今日になつては火の消えたやうなもので露西亞時代の建物は壞れる計りであります、外國人の眼から見ると日本人時代となつてから何んと云ふ態であるかと云ふやうになりましたが、是はあすこに居つて帝國の使命を持つて居る者の苦い所であるのみならず、實に帝國の非常なる損失である、そこで之を回復する良策として工科大學堂を設立する事にいたしました、彼地は申上げる迄もなく三十七八年戰役の歷史の地であります、從つて學生修養に利益があります、帝國の學生を中學から大學迄入れると一人が十五圓づゝ一ヶ月に使つても一萬人來れば十五萬圓づゝ落ちる譯になる、家の崩れるのやら町の壞はれるのを抑へるとが出來る、之を兵營のみにて維持するとは困難である、加之大なる海軍工廠があるから之を直ちに工科實習場に充てることができる、さうして其計畫の策良たる所以は若し一朝籠城しなければならぬと云ふ場合ありと假定せんに露西亞繁榮の時代には常に數萬の人が三ヶ月間食ふ丈けの物資が貯へて居つたけれども今日は一萬の人が一ヶ月食ふ丈けの物資が積て居らぬ、從つて諸生活資料が悉く減少し軍事上物資集散の策源地にならぬと云ふ程に衰廢を極むる故に、之を文裝的武備の點から言つたならば甚だ憂慮に堪へざる次第です、家は壞はれ町は潰され米や物資は乏しくなつてゐる、又芝罘からの商船の往來は百艘も二百艘もあつたものが十艘か二十艘しかないことになつて、昔日の繁榮は更に見るとのできぬ非常なる衰運を來すならんと信じました、今日既にさうなつて居ります、漸く今日は都督府の役人の食ふものと若干の陸軍海軍の人の衣食を充たすに足る丈けの物より外の物資はない、依て工科學堂を十分の者にしたい、而して日本人が學堂に充ち滿つるやうになりまするとと支那人が始めて入學を切望するとになる、此學堂の計畫を最初より支那人を入れる學堂とするが結句得策だが、日本人を入れる學校なら不用なりとの議論が內地に起りました、今尙醫學堂に付いて議論がありますが、支那人は日本人の這入つてる學校にどうぞ入れて下さいと云つて來るが、始めから支那人を入れる爲めに建てた學校に這入れと言つても來る者でない、是れはどうしても內地の諸君にお分かり惡いことであります、臺灣でもさうです、臺灣人を入れない學校だと云ふと是非入れて呉れと云ふ、總て斯う云

工科學堂を初めに日本人が利用すれば支那人之を利用すれば支那人の爲めの學校なら可也との說支那人の性格

臺灣に於ける實例

工學堂卒業生の用途

目的は同一ならざるも兎に角學校は設立されたり

設備には資金を要す

滿鐵之資金にて經營するときは私立とせざるべからず

支那人に

ふものであります、そこで此學堂の卒業生を以て一部は滿洲鐵道の用に供し一部は支那内地に於けるエンヂニヤのアッシスタントとすることが出來るやうにして工學も十分にやらせるやうにしたならば非常に良いことである、又日本人も旅順に來て居る爲めに南滿洲にインテレストを持つて住居しやうと云ふ傾きから良策なりとも思はる、之を都督並に當時の役人に話したのですが、なか〳〵半分分かりて十分に徹底しないのであつて、到頭工科學堂と云ふ名は附いたが妙な高等工業學校のやうなものになつて今存して居ります、そこで私は素望を達しないで困つたのですが、幸にして其卒業生が非常に支那に賣れた、非常に成功した、そこで私の目的を達する學校ではなかつたが辛うじて之を繼續する必要を認むるだけになりましたが、是れは誠に目的の百分の一しか達して居らぬことが殘念であります、又良い學校にする爲めに西洋人抔も傭つて來て其他種々設備もしたいのですが、都督府で是れに金を出すことは色々の經費の關係で出來ない、そこで滿洲鐵道の方から金を出してやると云ふことになりますると、之を私立にするならば許すが公立や官立では相成らぬと言ふ、是に至つて此ビューロクラシーの弊は實に溜らぬものになつて來るのですが、それならば滿洲鐵道でやりますと言ふとどうなるかと云ふと、矢張官吏は尊ばれて正何位と云ふと有難がる支那人は、どうしても官立でないといけない

對しては官立を必要とす

醫學堂の成功

醫學堂は日支融和の功あり

宗教的施設の缺陷は醫學堂を以て補ふを得

醫學堂は日本の文明を支那に紹介す

日本人も俗情で官吏でなければ其人を得難いそこで官立の工科學堂として存立して居つて相當の學者も往つて居りますが、まだ不完全のことであります、之に反して醫學堂はなか〳〵良いレストを持つてやつて呉れるから宜しいが、どうも支那に對しては官吏でなければ面白くないけれども此醫學堂が非常に成功を仕掛けて、奉天總督府を始めとして日支融和文明輸入の爲めに功を成して居る、此等の計畫でも日本には商業的植民政策は丸でないのである、そこで列國の土地住民に對するの關係から言ひますると宗教的の關係が甚だ必要ですが、臺灣でも此缺點の爲めに餘程困ります、所が醫學校の効果と云ふものはそれを補ふに有力でありまして、臺灣でも醫學校が非常に効果を奏して居る、是れは後藤が藪醫者だからあんなことを言ふのだと言ふ者もありますが構はぬ、實際大なる効果がある、前日臺灣の統治を助けるに重大の効果があつたと同樣に、矢張今度滿洲に於ても非常の効果を擧げて居るのであります、是れが爲めに日本の文明と接觸せしむる便宜が甚だ大であります、例へばペストの流行のときに於ても彼等は彼等の醫者を以てやると言つて餘程軋轢して來た、奉天總督府殊に唐紹儀の如きは亞米利加の

ペスト流行の時に於ける一例

高等植民に對する愚見

醫者を以て當らしめんとしたが日本の醫學の進歩に敵し兼ぬるので非常に閉口した、斯う云ふ譯て文裝的の意味を以て或る好武器を取りて侵略すると云ふことは植民政策の甚だ必要なることで、あの土地の永久占領の上に基礎を置くには有力のものであります、是れは序に私が植民政策の一部分としてお話をして置くのであります、

私は曾つて米國に於ける日本の高等植民策を論じた、今でも私は其議論を持つて居るのであります、日本の大學の教授と云ふ者になつて日本の大學の教授が暮すには二百か三百の金があれば先づは食には不足はありませぬ、所が米國大學に聘せられて二百か三百の月給を受けたる日本人を日本大學にて同給を與ふることになれば啻に母國といふ譯てなく生活上日本の方利便が多いから喜んて日本に歸るのであります、そこて若し米國大學に聘せらるゝ學者があれば其家族に日本政府から特別の補助を與へ長く米國に於て勤續せしむるとにすれば米國に高等植民をなす一助たるべしと立案したことがあります、先年英吉利て北里博士を劍橋の大學に聘せんとした、其後亞米利加からも呼びに來た、丁度私が內務省に居るときてありましたが、マアー國寶だから止めろと云ふことになりました、それも宜しが、私は高等植民策の方針を立てた上なら亞米利加にやるが宜しいと思ふ、其外植物學でも何でも隨分亞米利加人以上に出來る學者

高等植民の効果

植民地を養育院扱にするやうにては經營は出來ぬ

は養成すれば出來るのであります、之を要するに向ふの大學の教授になつて居る人が十人も二十人もあると決して日本人、亞細亞人排斥が全く無くなると云ふことは言はないが、高等植民の爲めに融和することは拙な外交官が小策を弄するよりも遙に有効てあると私は信じて疑はぬのてあります、日本人が果して植民事業を以て國家の政治的發展の必要事項として進取的活動の一要素であると爲すが適當なりとするならば、今日尙ほ遲くないから今より十分其方法を講じて、あとに殘つた親爺や子供の養ひ料などは之が助けをしてやる、高等植民法を行ふて米大陸の植民政策を助くることは餘程有力なる事柄であらうと考へて居ります、それ等と同一主義の點から旅順に於ける工科學堂、又奉天に於ける大醫學堂の如きものは、總て自から防衛することゝ人を救ふこと又文明政策に接觸の便宜を與へることに付いて、諸般の施設を始めたのてあります、併し是れも人を得ることが第一必要てありまして滿洲鐵道を養育院のやうに心得居る流義では萬事休すてす、精神の徹底するやうな人を持つて往かなければいけない、是れが植民地長官若くは主宰者又は活動する當局者の必要なる要素てあります、長官として往く者から當局者と爲る者迄も同時に其心が養育院に這入るやうな積りて辭令書を貰つて往くと云ふことは沙汰の限りてあります、是れは餘程注意をしなければならぬことてあります、

滿洲をして世界交通の接觸點たらしめんとせし意見

次に先刻御覽に入れました世界交通地圖並東洋南洋各地旅行案内書の如きものを作つた本は世界交通の大動脈の一要部を大連に出して日本と接續し、又大連から亞米利加と接續し、又南洋と接續するやうに大動脈の吻口を作ると云ふことは、あらゆる地點から文明と物貨の吸收經濟の便宜の使命を全うする爲めに必要であると云ふ意見にあるので、彼地を大動脈の一部の開いた地點にしやう、是れが其當時の計畫で日露支の貿易交通を始として漸次各國の便を開かんとするのであります西園寺侯、桂公、寺内伯が此議に贊同せられ同意をされて總ての事に注意もされたのであります、其結果此世界交通地圖並に旅行案内が出來たのである、

世界交通地圖並に旅行案内の製作

其次に文裝的武備の一としたものは東亞經濟調査局であります、此處に大興業に於ける經濟調査部と云ふ冊子があります、是れは後で御覽下さいますると此處で時間を費やして私が皆さんに申上げるよりも能くお分りになならうと思ひます、抑々巴里のクレヂー、リオネーと云ふ大銀行は皆さん御承知の通りでありますが、其處に調査局がありまして日本の公債のこと經濟のこと興業上のこと抔何んでも分かるやうになつて居ります、宇引を引くやうにして引出せば日本の所が直ぐ出るのでありまして、先年私は往つて之を見まして驚きました、其後プロフエッソル、チースが獨逸經濟雜誌に書いた、此論文を見ましていつか經濟調査局如きものを拵えたいと思つて臺灣に居るときから考へて居りました、所で此南滿洲鐵道の總裁に爲りましても實際私は斯う云ふ大局に當る智識がないので何か調査する機關がないと任務を完うすることが出來ないと思ひまして、どうしても之を興さなければならぬと考へました、そこで大興業に於ける經濟調査部と云ふのを飜譯させまして方々に披露して之を拵へることに致しました、さうして此チースと云ふ人を亦併せて此處に主任に呼ぶことに致しまして岡松博士を日本人の局長と云ふ地位に据えまして、チースと云ふ人を以て主任に致しました、是れに付いて少し茲に講釋めいて居りますが申したいのは、調査部に於て調査する索引を拵へやうと思つたら此順序は非常に困難でありました、臺灣に居るときから思ひましたがどうしても良索引が出來ない之は日本のいろは別とか五十音で索引を別けることは非常に困難である、現に諸君が電話の索引でも日常御經驗あることでせう、それで遂に索引を拵へることに付いて康熙字典に倣ふて先づあれの通りに拵へたらば良索引が出來るだらうと云ふ考を持ちましたが到頭是れも不便利である、さう云ふ經驗もありましたから是れは矢張速成をするのにはＡＢＣ別にして出來たものから引くとすると、必要のものは飜譯して更に原本から飜譯した物を索引をすると云ふ決心を起したのであります、それで獨逸の博士を聘して調査局を組織し速成を期した譯であります、（印刷物

東亞經濟調査局の起原

チース博士の東亞興業に於ける經濟調査局巴里クレヂリオネーの調査局

東亞經濟局の組織

調査の索引を作るに付ての困難

調査機關の内容

をいぢりながら説明す）茲に第一回があると第十回に飛んで居りますが、是れは有る分丈け貰つて來たのでありまして、是れに依つて何んでも報告が分かるやうな調査機關になつて居りまして、今では帝國大學の圖書館に往くよりも經濟上の關係のことは經濟調査局の方が良いと云ふ位になつて居るのであります、まだ〳〵本當のものでありませぬが目錄は是でありまして、（實物表示）是れはどうか今日お出での諸君が實地往つて見たいと云ふお考がありますならば私は御案内を致します、三菱會社の向ひに東京商業會議所の傍に滿鐵會社があります、其二階で之をやつて居ります、此事柄に對して帝國大學の教授を始めとして西洋人の教授も心ある人は贊成して居るのみならず、色々研究をするのに皆な此處に來て便宜を得て居ります、此頃は帝國大學に經濟學のズミナール研究室の便が開かれましたから新舊の材料が總て集められました、併世界のコルレスポンデンスをして居るのは此滿鐵調査局より外にないのであります、各大銀行にも調査局はありますけれども斯う云ふシステムになつて居りませぬ、併し或は諸君が御覽になつて、もう少し斯う云ふことをやつたら良からうと云ふお考もありませうし、まだ完全と云ふ譯に往きませぬけれども、先づ此調査局は東洋に於て唯一のものである、是れは私の拵へた物を御披露してはおかしいやうでありますけれども、滿鐵會社と經濟調査局と云ふことに付

經濟局の所在

世界のコルレスポンデンスをなすものは獨り滿鐵會社の調査局のみ

滿鐵經濟

調査局に對する外人の批評

いてはフランクフォルトの新聞にも出て居りますが、之を御覽になると是れが如何に利用せられべきもので今日の世界でどう云ふ必要なバユーロウになつて居るかと云ふことが分かります、どうかお暇の時に御出で下さつて御覽になれば誠に本懷の至りであります、先づ是れに依て世界のコルレスポンデンスを取ることゝ、こちらからも亞細亞に於ける經濟調査局の通信をしてやることになりまして、此事柄が亞米利加に於て日本の南滿洲に於ける專横とか横暴とか云ふ非難を避け得ることなどにも、大なる効力あるものに成りました、亞米利加の學者をして成程此の日本の施設は果して滿洲に於て專横や横暴を爲すものでない其經營はシステマチックであると云ふことを知らしむることに非常な効果を得たのであります、それと同時に東洋に於ける日本の特殊なる使命を知らしめ、さうして東洋人の東洋に於ける活動の根本を明かにする爲めには、歷史的慣習の調査と云ふものが殖民政策に非常に必要であると云ふことを認めて居りますから、此亞細亞の經濟調査局に附屬せしめて南滿洲の歷史的調査をさせたのであります、今日此處に之を持つて來ることを忘れませたから、此次に御覽に入れますが、是れが卽ち白鳥文學博士が主任となりまして調査致しました地圖も獨逸文で出來、說明も獨逸文で出來、日本文にも出來まして立派な物があります、それから種々なる參考品も集りまして書籍も珍しいもの

經濟調査局は對日本の特殊の使命を世界に紹介する歷史調査の必要あり

歷史調査部の成績

歴史調査の目的

歴史調査を怠りしを爲めに蒙りし損害の一例間島問題

歴史調査の効果

滿鐵に於て此歴史調査を廢せしは遺憾なり

滿洲に於ける特殊の使命を全うせんと欲ぜば根本的に

が集つて來ました、さうして此拓殖に關係する政策は、歴史的調査に由て深遠なる根本を成すやうになりました、此に一例申上げますると朝鮮の間島問題なども此の如き調査を了して着手する順序となせば間違を生ぜぬと思はれます、當世紀の事業として科學講究の基礎に足らざるものありしは惜むべきことであります、さるにても當調査局の歴史調査を廢したる新滿鐵重役の近視眼的行動は不審に堪えざる所であります此歴史的關係の調査とは、世界の植民政策を攻究する學者の刺戟する上よりして俗務の上にも其功有力なるものである、そこて我日本が南滿洲に横暴をすると云ふとの流傳を學者の力を以て自然に誤解を說破する樣になる、所が今度滿洲鐵道の重役の變更と共に此歴史部は頓に廢されました、其當否は如何に世界的に植民政策を發展せしむる上に付いて有効であるかと云ふことを御覽下されたし今日にては一ヶ年に僅か數千圓て繼續が出來るのに、今俄かに之を廢したるは實に惜いことであります、尙ほ此東亞經濟調査局のとに付いてお話をすれば一時間や二時間係るのてありますが今日は是れて止めます、

諸君、滿洲に於ける日本の特殊なる使命といふ言葉の中には自ら東洋の覇權を握ると云ふことの主義も含んて居りましよう、東洋の平和を維持する勢力もなくてはなりませぬ、隨て其根柢を廣く深く高くして進まなければなりませぬ、單に資力のみならず精神上の力を費やすと云

研究せざるべからず

チース氏の經歴

ウキードフエルド氏の經歴

ふことが之を完うする所以てあります、現に此東亞經濟調査局の報告の中にもあります、日本に於ける小口保險の經營、斯う云ふものが茲に調べてあります、今度政府ても小口保險をやるやうになりました、既に是れは第二次桂内閣の時分に皆な此局て調査させたものてあります、是れはチースの跡に來たウキードエルドが書いたのてあります、先刻チースの履歴をお尋ねてありましたが、漢堡亞米利加ラインの經濟調査部に居つて、獨逸大學のプロフエッソルてありまして、斯道に堪能てありますからあのビューロウ創設の時に二ヶ年間の約束て聘びました、チースの次に來ましたのはウキードフエルドてありまして内務省の勅任參事官てあります、此人は獨逸前總理大臣が内務大臣をして居つたときに田舍の郡から拔擢されて來た人てありまして、保險事務には堪能な人てあります、有名なる獨逸の疾病保險其他のことに付いて獨逸の議會に於て政府委員を勸めました、それが多年勸めた爲めに永年の休暇を得ることが出來ましたから二年半傭ふたのてありまして、こつちに來て小口保險のことも調べて貰ひました、鐵道員の疾病保險に付いても調べて貰ひました、然るに世人は斯う云ふ人を使ふことをしない、多くの日本の役人は昔は西洋人を顧問としましたが近來豪らくなり顧問はいらぬ樣になりましたのは如何にも不審なる次第てあります、前回に植民政策のことに付いて述べました中に、北海道

日本人は偉人を利用することを知らず

調査局の必要は漸く世間に認められる

ベーレンド氏

の植民政策は其計畫が良かつた、併ながら長官を初め其他の重役の人が米國人の計畫しました植民政策のプランを消化する力もなく、それに對して問題を出して更に研究する力もなかつた、是れが北海道拓植の失敗した原因であると云ふことを申しましたが、それと同じ事である、ウキードフエルドの來て居る間に少しも利用しない、何の問題をも出さない、問題を出してやることが出來ない位であるから斯う云ふ者は寶の持腐れて猫に小判である、從つて東亞經濟調査局の如きも或人は無用と考へますが、成程淺く狹く且低く事務を理するには無用ならんも南滿鐵道の經營を完うするに付いては私は極めて必要のことゝ考へます、且つ日本、正金、勸業、興業銀行其他の所でも段々近來はあれに似寄つたものを拵えることになつて來ましたから私は必ずしも滿洲鐵道の此經營は無用でなかつた、と信じて居る位であります、此度ウキードフエルドが歸つて、あとに來ましたのがドクトル、ベーレンドで獨逸大學のプロフエッソルでこちらに來て跡を繼いでやつて居りますが、此等の人をして研究を完うするやうに使つて往きたいものだと考へて居ります、諸君が同局にお出でになつて御覽下さるならば本人の奮勵にもなると思ひますから私もお願ひを申します、是は南滿經營中東亞經濟調査局に關係する事柄の一段であります、（休憩）

（○休憩中）工學博士古市公威君の回想談

今日初めて後藤男爵から滿洲に往くことを兒玉大將から勸められたと云ふお話を伺つた、是れはさうであらうと誰れも考へる、誰れも考へるが改めて承つたのは今日が始めてゝ、是れに付いて少々拙者の自慢話がありますから申して置きたい。

それは大將が薨去せらるゝ約そ一ヶ月程前と思ひます、私は參謀本部に往つて大將にお頼みしなければならぬことがありました、其時に大將が鐵道のことに付いて或人のことを私に問はれた、それに對して私は相當の答辯をした、其當時私は斯う言つた、之をやる人は後藤男爵――後藤さんはまだ男爵でなかつたが、後藤さんに限る、但し臺灣との關係はどうてあるか知らぬがと言つた、其ときに兒玉大將は何とも言はなかつたが唯ウムと言つた切りであつた、それから大將は今お話の通り薨去せられて男爵は總裁と爲られた、是に付いて私は自分の先見は偉いと思つて先見の明を御披露すると共に、私は大將に敬服して居ることがある、其當時仕事の爲めに――支那關係のことである――其事を御依頼に往つたことがある、大將

満鐵の資本に關し兒玉總督に陳べたる愚見

はヨシ〳〵と言はれて其儘別れて歸つて來た、さうすると薨去された、是れはしまつた、煙に成つたかと思つて居るとチャンと計畫が出來て居つて、死なれても分かるやうになつて其事が行はれました、是れは非常に功績のある大將に對しては詰らぬことであるが、大將の緻密なること用意周到なることの一を證するに足ると思ひますから是れも一言して置きます。それから豫て吾々仲間では——大學の連中抔では——後藤男爵の拓殖政策は總て學術に基礎を置いてあると云ふことが定評であります、是れはどうも拓殖の政策として一番であらうと考へて居ります、文裝的武備——珍らしいお詞ですが其大體の計畫を大に贊成する、後藤男爵のせられたことを何から何迄贊成するかどうか分らぬが、大體に於て文裝的武備と云ふことは非常に結構であつて獨り私のみならず私の仲間は均しく褒めて居つたことであります、是れ丈けの事をお耳に入れて置きます。

是れより南滿鐵道會社の資本と各專業との關係に付いて簡單に申述べます。

此會社の資金と云ふのは其當時二億圓の會社と定められて居りましたが實際は二百萬圓の會社であつた、是れも私が兒玉總督に辭退した原因の一であります、そこで南滿洲鐵道の事業

臺灣統治成功の原因なる擧げて滿洲經濟困難なる所以に及ぶ

が資金を要することは勿論でありますが。私は兒玉總督に、アナタが臺灣に於て御經驗なされた通りでありまして、日本は金利が高くて氣候の良い所でありますから、誰も資金を携て來て開拓に從事する者もなければ、又た往く者があつても完全無缺の人が往く迄には年月を費やすことであります、今迄露西亞人のやつた跡をやるに付いては餘程困難のことであります、露西亞人の資金投入と云ふものは非常に巧みであります、大々的の關係を以て滿洲に臨んで居ることは疑ひなきことであります、そこで二百萬圓で二億圓の會社だと言つて日本流にコツ〳〵やつて出來るか出來ないかと云ふことは甚だ想察に難からぬ次第です、私は敢て拒まざることを得ないのであります、一體臺灣のことは成功か不成功か分かりませぬが人は成功と言ひます、私もさう思ひます、併ながら是れはどうして出來たかと云ふと閣下が臺灣に往つて土を掘るとか開拓なされたから出來たのでなくして、閣下が內閣諸大臣初め內地人の頭腦を拓植なさることを爲さつたから出來たのであります、之を彼地の地質と生產とに因はれて居られたら此拓植は出來ませぬ、閣下は人の頭腦を拓植する手腕と能力を持つて居られたから是れが出來たのであります、私が滿洲に二百萬圓を持つて二億圓の金を持つて居ると言つて多頭政治間に處することは出來る譯のものでない。

西園寺首相に對し試みたる諸種の質疑

兒玉大將頓に薨去の後賃に心機の一轉にてやることになつて、西園寺侯に逢つて期限が來れば滿鐵は返へすのですか返へさぬのですかと訊ね又返へすと云ふ問題が起らぬと云ふことが保證が出來ますか、起つた時にどうするか案がありますか等將來の質問を種々提出したが其答は一々此に述ぶるの要はありますまい、之は諸君の御推測に任せます。

滿鐵の借金政策

そこで資金は外資に依るの外はないといふ事に決定し滿洲に思ひ切つて借金をしてあすこに五十萬から百萬の人を移住せしめねばならぬ、必ずや他日滿洲還附の事起ることを忘れてはならぬ、之を拒くには速かに五十萬以上の移民をして往かなければならぬ、就ては其成功の手段の第一は土地の永借若くは貸借を自由にさせることをしなければならぬ、是れはどうしようと心配したのですが、此點は今に困難を生じて居るのであります、已に私の在職中長春停車場の土地を買收するにも非常な困難が起り支那官憲が干渉して賣買讓與を許さぬと申す次第でありました。

滿鐵の移民政策

土地の買入借入は植民放資の先決問題なり

要する滿洲に資本の注入と人を移入することは何よりの急要である、土地の借入買入さへ自由に出來る事になれば資本も人も入るゝ方案は立つと考へらるゝのであります。

滿鐵の仕事は多々益多し

南滿鐵道に於て資本を投入すべき幹支鐵道改築炭坑開發、地方產業の發達、土着民並移住民の保護、學校病院、港灣の設備、水陸の聯絡、物貨保險の方法、金融機關等露國の舊制と日本の新制との得失を沿道住民並將來の歐米人に周知せしむることの必要を感じました、其中に最も必要なものであつて、どうしても今迄出來ないで困つて居るものは金融機關である。

金融機關の完備せざりしは正金銀行の專横を極めしに依る

所が是れは正金銀行の專領に歸して一切他人をして容喙せしめない、桂內閣時代に於て私は正金銀行の爲滿洲あるにあらずして滿洲の爲めに存する金融機關たらざるべからずと迄極論せること一再に止まらざりし次第であります、然かも完全なる金融機關の便今日も尙開けざるは遺憾の至に堪へざる處であります、金融機關の不備の爲滿洲經營の事業發展を害したことは甚だ大なるものであります。

撫順炭坑

炭坑の經營中其主なるものは撫順炭坑であります、露西亞の經營は拙劣で今日のサイアンスの上に於て耻かしくないやうな着手には至らなかつた、滿洲に於て完全な經營にしたいと思ふて段々此事の適任者を尋ねた、既に臺灣に在職中も鑛山學者を尋ねたが學者が多いやうで此位少ないものはない、非常に困りまして三菱の松田博士を除くの外に當時之が經營を託すべき人を見出す事が出來ない、若し適任者がなくつて鼎堀同樣拙劣救ふべからざる開坑方に過ぎぬ時は他日炭坑を抵當とするの日に悔ゆとも及ばぬこと故豫め其人撰に苦辛したること筆舌に盡し

炭坑經營者探用に對する苦心

松田博士招聘事情

難きものがありました。

偖愈松田博士を採用せんと思つたがなか〳〵容易に三菱が其請を容れて呉れない、是れは私の方が元來無理なる願である、夫れ故三菱會社並に社長に三拜九拜して若し之を歐米人に頼むことがあつては日本人の恥辱だから默つて貸して呉れと言つて、半年間半月づゝの約束で借りて來た、岩崎男爵は之までも斷ることが出來ないで、遂に此方の請を聽いて呉れた、是が今日の撫順炭坑經營を致した譯であります、此炭坑は露西亞の計畫とは實に雲泥の違ひであります

松田博士の功勞

滿洲經營に對する日本人の批評と外人のそれとの異なる點

此處領事館技術官關係の談削除

撫順石炭山の着手は各國領事の大なる注目を惹起す處となりましたが却て日本の方では水道宿舍煖房設備病院建築等に關し少し驚き氣味でありました、日本の内地では復た後藤が病院病を起したと言つた者もありましたが、却て獨逸の方では是れは大なる文明的金儲の準備が秩序的に出來たと言つて其批評を二三新聞上に見たやうな具合で滿洲經營に付いても今日世界が注目して居ることは、日本人が滿洲に注目して居ることゝ注目の點が違ふのであります、滿洲鐵道は金儲けの場所であるから實業家の努力にまつといふて淺く狹く且低き考案の人に任する事は不可て實に國辱である實業家甚だ可なり實業家中廣く深く且高き人に任かせるやう心掛けねば

植民地施設の系統に正しからざるべからず

ならぬ、外債により資本金を得るに付いても施設の系統が正しくて、當世の科學藝術を應用したる計畫であると云ふことを見せて金が借りられるやうにシステマチックになつて居らねばならぬ、そこで成るべく金を借りても澤山の利益を産出すべく立派に成功して大和民族の感化を他の地方に迄及ぼすやうに心懸ける誠意が充滿して居らねばならぬ、と乍不及常に同人と共に奮闘致した次第であります。

資本金と外債募集

それには迚も二百萬圓ではそれが出來ませぬから差當り八千萬圓の外債に須つことになりました、其大要を申しますると三十九年十一月に創立になつて二億圓と言ふて居つたけれども政府の出資が一億圓、それから日清兩國人の出資が一億圓、其中の十萬株二千萬圓を募集し十分の一即ち二百萬圓丈けを拂込しむることになつて、あとは外債に依ることになつたのであります、所が四十五年以後に於きまして數回に一千八百萬圓の拂込をさせることになりましたが、此可否は別論と致しまして更に又た大正二年九月一日二十萬株を増し二千萬圓——四千萬圓の拂込をさせることになつたのであります、此事は甚だ結構のやうでありますが、是れは經濟論としたならば大なる關係のあることだらうと思ひます、是れは私の今日論ずる所でないが私は不贊成である、今はどうなつて居るかと申しますると大正元年に一億二千七百五十圓餘であつ

滿鐵の利益金

政府の出資額

滿鐵は政府に取りて實に有利の植民政策なり中村前總裁の前提案

たのが大正二年度來には一億三千八百四十八萬圓餘が投資されて居るであります、さうして此度びの卽ち本月の二十日の總會に提出する所のものは總益金——四千二百四十萬圓餘にして純益金——約六百二十四萬圓、前年度の繰越が二百十四萬圓、合計で八百三十餘萬圓の純益になるのです。

然るに政府の出資の一億圓と云ふものは其當時一億圓の目錄を示されたいと要求した、併し政府は示すことは出來なかつた、而して先二億圓の會社が出來て今日は斯の如きものになつて來た、政府が百五十萬圓收入して居つたのを今では　百萬圓收入することになつた、然るに世人は一億圓に對して二百萬圓丈けでは之を金利に推算して低に失するといふやうです、けれども道路、衞生、學校、地方行政、此等のものに滿鐵が拂つてるものを見ると政府が出資一億圓と云ふのは其實若干割引の要あります、然かも株主には六朱以上の配當が出來ないと云ふ位のことをして居るのです、實に此位割合の良い植民政策をやつて居る者は世界にさう〳〵澤山ある譯ではない、餘程幸福であります、而して大正二年より十年間の計畫を以て中村前總裁が大正元年十二月に提案したものは一億二千七百七十二萬圓餘負債を增し若くは株の拂込みを增して財源を得て其計畫を實行すれば一切の利息其他のものを引いて大正十一年から優に五百萬圓づつの純益が擧がると云ふ計算を示して居ります、卽ち一億二千萬圓餘を更に借りて其利子を拂つて往つても十分に利益があると云ふ計算をして居ります、此計算は過大でない、此一億二千萬の計畫に付此に別冊を持て居る、是れはなか〳〵長い、斯の計畫を完うして往けば始めて先づ滿洲鐵道の仕事は今度既に得たる線路の增築などを別にしても有益なる經營となるのであります、唯此計畫中惜む所のものは私の前の計畫に比して足らぬものがあるのであります、それは五十萬乃至百萬の移民のことであります、是れは恐らくは中村前總裁の計畫に缺けて居るのでなく土地の要求を充たすことが出來ぬからであります。

此新提案には移民の計畫を含まず

移民には土地を要す

水運の計畫

而して滿鐵が上海其他に於て計畫したる水運其他のこともあります、此計畫が成るときには上海の繁榮を一部北部に移すことが出來るのであります、金を借りて此計畫を完うしましたならば必ずや日本が大陸に手を掛けたが爲めに禍を貽すと云ふ患もなき迄に往くであらうかと考へらるゝのであります、半途にして止めば却て其弊を蒙むることゝなります是が大なる注意を要する處であります。

借金政策に對する意見

終りに臨みまして一言申したいのは日本で借金政策反對の人が澤山あるのでありますが、是れは餘りほめたことでないと存じます、貿易の逆勢から見て種々に氣を揉んで居られるが各國

貿易額增加の趨勢

共に此の如きは發展の前兆です唯努力奮鬪が必要です、其内でどう見ましても植民地年次發展の計算が内地年次發展の計算よりも好良成績を呈して居ります、然るに世間は之を左樣に信ぜぬかに思はれますから次に計上して見ませう、其一例として臺灣の輸出輸入と云ふものを計算して見ますると明治三十一年の臺灣の輸出を百と見ますると四十四年には三百八十二（大正元年には三七一）と云ふものに成る、それから明治三十一年の臺灣の輸入を百と見ると四十四年には二百五十二（大正元年二九六）となつて居りまして、一方は四倍、一方は三倍と云ふやうになつて輸出の方が勝つて居ると云ふことは非常の進歩であります、内地の方もさうであります、内地も人が心配する程てなく前途有望決して困ることはないやうに思ひます、明治三十一年の輸出を百と見ると四十四年（卽十四年間）の增加の程度は二百七十七（大正元年三二六）であります、輸入も三十一年を百と見ると四十四年には百六十五（大正元年一九八）となつて居ります是れから推算すると今、人が騷ぐやうに輸出輸入の差の爲めに國が亡ぶことはなく、臺灣の如きは偉大なる發達をして居ることは明かであります、此事は尙ほ精算をして研究すべきものであります、又此分科に於て研究すべき問題で植民政策は日本の爲めに損害を爲して居るか、經濟上の利益如何と云ふことに付いて研究すべき問題になるだらうと考へられるのであります、餘り長くなりましたから是れで止めまして、御質問がありますれば又申上げても宜しうございます、（をはり）（質問の應答あり）

臺灣の貿易額

日本内地の貿易額

日本植民政策一斑　第三

（大正三年六月二十日幸倶樂部に於て講演）

男爵　後藤新平述

植民政策の基礎となるべき間接設備の効用

今日は午後から滿洲の植民政策の殘りを御話申上げることになつて居りましたが、午後色々の會があるから只今講演した方が便利てあると、部長からの御話てありますが、午後になれば私は格別に用意があると云ふ譯てもありませぬから此所て申上げることに致します。

此たび植民政策のことに付きまして二回御話いたしました、甚だ不順序なる雜談同樣の事に相成恐縮に堪へませんが第一回の時は一遍に濟む積りて御話をやりかけた、それからまだ殘つて居るやうなからもう一遍話さぬかと云ふことてありまして、第二回に於て殊に滿洲鐵道の經營のことを申しました、其の滿洲の鐵道の經營のことが第二回て終らぬやうてあるから、色々

全日の政策は植民文武の裝備を以て王道の術を行ふ政策なり

植民政策の實行に當つては精しく申述べる必要はない、それ等のことは縱令解釋が違ふて居つても一定の解釋のあるのことがまだ足らぬやうてあるから、もう少し話すことがあるならばもう一回話さぬかと云ふことてありました、澤山材料を持つて居る譯ではありませぬが、尙ほ足らぬと自分も考へて居りましたから、もう少し申上げて見やうと思ふ、斯う云ふことて今日茲て御話を致すことになりましたが、是て其の先日の足らざるを幾分補ひまして結論に致すのてあります、詰り植民政策の總論より各論に至りまして滿洲のことに及んて其の滿洲の各論の一部が殘つて居る、斯う云ふことてあります、そこて前日滿洲の各論の中の一部、滿洲に於ける我帝國の特殊の使命と云ふことを本題にして御話を致したのてあります、其の特殊の使命を全ふするに付いては如何なることが必要てあるか、又どうして行くかと云ふやうなことに付いての當初の計畫の事實を申上げることにしたい、斯う云ふのて御話申上げる譯てあります。

此植民政策のことは詰り文裝的武備て王道の旗を以て覇術を行ふ、斯ういふことが當世紀の植民政策てあると云ふことは免れぬのて、それに對しては如何なる施設が必要てあるかと云ふことは、帝國の植民政策の關係から起るのてありますが、其の南滿洲に於ける帝國の特殊の使命と云ふことに付いては、茲に御出ての諸君の御解釋も區々てありませうけれども、之に對しては精しく申述べる必要はない、それ等のことは縱令解釋が違ふて居つても一定の解釋のあるものとして、それから事實に至るのてある、前日御話した時に東亞經濟調査局と云ふことに付いて皆樣に書類を差上げて置きました、又それを實際御覽を願ひたいと云ふことも申して置きました、此事柄を如何に利用するかと云ふことが實は南滿洲鐵道會社の職員は勿論、其の他南滿洲に關係する所の帝國の官吏に於ても最も必要なることてある、其の利用の如何は卽ち福利の大小を來す譯になるものと思ふ、是と共にもう一つ是まて御話をせぬものて必要なるものは中央研究所或は中央試驗所と云ふものてある、卽ちセントラル、ラボラトリユームと云ふものてありますが、中央研究所或は中央試驗所（セントラル、インステチユート）なるものてす近來一千萬圓にて化學試驗所を起すとて大隈伯が首張しつゝありといふも其類てあります、是が滿洲に於て已に設けてあるのてあります、然るに滿洲に行きて此中央研究所と云ふものを見て來た人は甚だ少い、又日本から行つて見て來ても之を本統に理解して吳れた人が甚だ少い、是は甚だ慨嘆に堪へぬことてあります、之に反して、敢て西洋人を褒める譯てはありまぬが、外國の視察員は之に頗る重きを置いて興味を感じて稱讃もし、又希望も述べて居る、內外人間さう云ふ差あることになつて居る、此ことは大いに植民的知識の深淺厚薄を表白するものてありまして、決して本國人を誹毀するのてはありませぬけれども是ならんことを君子に求むるの禮を以て充分に講

東亞經濟調査局の必要

中央研究所の目的を理解するものは我國に影響なきは慨嘆に堪へず

外人は之を賞讃す

中央研究所の性質

中央研究所は農商務省の工業試験所に比して更に大なるものの研究

各種の試験所は之を一所に集むるを便とする

中央試験所は生物學的關係の研究を含む

究を煩はしたいと云ふ考を有つのであります、滿場の諸賢に於ても微意を諒せらるゝてあらうと考へるのであります。

此中央研究所と云ふものはどう云ふものであるかと云ふと、是は申上げぬでも御承知になつて居るでありませうが、ざつと茲で申上げますと、名は色々あります、國民研究所（ナショナルインスチチュート）と申して居る所もありますし、種々になつて居りますが、此倶樂部の諸君が前日農商務省の工業試験所に御出でになりましたが、是とまあ同じものであります、此工業試験所から見ると、其の範圍の大なるものであります、此工業試驗所なるものは、或は狹き意味の理化學的工業關係を研究致して居るのであります、序に申上げますが、臺灣に於ける中央試驗所、又滿洲に於ける所の中央試驗所と云ふものは、是は共に生物學的關係の研究も含んで居る所のものであります、故に農商務省の工業試驗所と同じくして其の範圍の大なるものでありまして、是が爲に此試驗所から出ました業績に付いて如何に利害の關係を惹起したかと云ふことは、是は特別に申上げることにした方が宜いのであつて、茲でそれに亘ると岐路に入るから、此の様なる試驗所であると云ふことに止めて置くことに致します、併し此試驗所は各役所で分けてやりまするとどうであるかと云ふと、まあ農商課に斯う云ふ試驗所がある、衞生課に斯う云ふ試驗所があると云ふ

綜合の利益

食事を共にすることは習識と綜合に便を與ふ

研究所の效益

風に皆それ〴〵分かれて設けるよりは餘ほど經濟的であつて、相互的の知識を應用することが出來る、斯う云ふことから主として設けられたものであります、專門分立と云ふことは宜いことであるけれども、或は學科の分立して行くが爲に互ひの交渉が無くなつて來ると無益に幾重にも同じことを設けなければならぬと云ふことが此建設上維持上の經費に不經濟であると云ふ所から中央研究所と云ふものにして、科學的のユニットを付ける、綜合をすると云ふことの便を開かんが爲に起つたものであります、是は其の中央研究所の食事をする時にも勿論一緒になりますから、其のした仕事に付いて食事の後にちよつと話したことが問題になつて綜合する知識の便を開くと云ふことが始終出來るのであります、斯う云ふ研究所が一つ設けられると云ふことは諸般の點に付いて經濟的である、時間並に相互學術の發達の爲に必要である、斯ふ云ふものになるので、而して之を應用するに於ても行政上に各部に效果を見ると云ふことになると云ふ趣向であります、固より創立の趣旨と、今日尙ほ副はざる所の現狀であると云ふことは何れのものとも同じやうに弊はまだ免れぬ所のものでありますけれども、之に依つて滿洲に於ける農商工業に對して便宜を與へて居ることは多大なものでありまするし、又各々の職員と云ふ者が其の日の俗事に追はれて居りますけれども、斯う云ふ研究所の爲に知らず識らずの間に眞

土人教育政策

土人教育政策は所變に依り變ずるべからず

の文明生活の大工業の會社たることを得るやうになつて行くのであります、其の考なしに滿洲の行政を執ると云ふことは餘りに狹く淺く且低き見地にして甚だ間違つたことでありまして、多くは滿洲鐵道を運轉し、且つ石炭を掘つて、其の計算が宜くなつて、不經濟なことの無いやうにすれば、滿洲に於ける所の滿洲鐵道の務は盡きたと考へて居りますが、是は蓋し帝國の滿洲に於ける特殊の使命を全うする途に非らざる一大病根を胚んで居ると云ふことは斷言を憚からぬことであります、此點に付いてはどうか十分諸賢の間接の御監督に依つて指導せられまして、其の目的を全うしたいものであると云ふことが此中央研究所の利用と云ふことに相成るのであります。

是れと續いて先日來申述べたいと思ふて居つて所の各論の一部として必要なものは土人教育政策であります、是は何處の植民地にも重大問題でありますが、ちよつと茲に挾んで申上げると云ふことは私の不辯を以ては言ひ盡せぬだらうと思ひますけれども、諸賢の聰明を以て御推察下さる所の問題を掲げるまでには足るだらうと思ふ、此土人教育政策は植民政策の中の重大な問題であります、是は臺灣と滿洲と一緒に見ることも出來ないと云ふことは此中に含んで居る、往々にして私が初めて滿洲鐵道の總裁たりし時に、臺灣の御經驗があるから云々、(御挨拶

教育政策は臺灣と滿洲とのなる間に大なる差異あり

教育政策を誤りて害を招ぎし實例は不尠

臺灣の教育政策は幸に成功せり

臺灣に於ける教育政策

伊澤氏時

でもあらうけれども)さう云ふことを屢々聞きました、恐らくは柳の下に鰌ありて、臺灣の經驗を以て行つたならば間違ふと云ふことは明かなことでありますが滿臺の間嚴然區別あることでございます、唯の挨拶としては宜しいけれども、苟も滿洲に於ける帝國の使命を全うすると云ふことになりましては大なる注意を促すべきことである、併し其の原則に於て滿洲の土人教育、臺灣の土人教育との間に共通の性質があると云ふことは事實である。

抑々此教育政策の爲に誤つたるものは各植民地に澤山例があります、和蘭の如き、英吉利の如き、近きは非律賓に於ける亞米利加の如きちよい〳〵手を燒いて居るのである。併ながら幸ひ臺灣に於ては、其の後の自由の風潮に依つて冒されては居るけれども、此點には兒玉總督の就職の時から注意をされた、此事を申述べまして、次に滿洲に於ける其の弊ある所を申述べましたならば大要は御參考になるであらうと存じます。

それはどう云ふことであるか、何處でも此教育は近來科學的の知識を本とするが、是れ固より必要なることであるけれども、是が爲に非常な過ちを來たした、英吉利などでも一旦印度に本國的教育を施して後に之を矯正制限しようと云ふ爲に種々なる理由を以て之れを試みんとして今尚ほ苦んで居る、和蘭の如きもそれが爲に失敗したのであります、所で臺灣に於きまして

は伊澤君が始めて教育のことを布かれた、其の時には矢張り語學本位でよき程度の樣に察せられたが後には日本のやうに學齡兒童が何人、學校が何んぼで教育の普及の割合がどうなると云ふ風になり、それは當初より伊澤君の趣旨であつたか無かつたか知らぬが、さうなつて云つた是は餘ほど困つたことである、のみならず臺灣人と云ふ者は讀書人といふ一の階級種類があつて、(支那人皆共通である)讀書人は往々天下を紊す所の本となつて、丁度維新後に於ける士族の如きものである、此中に若し士族の方が御出てになると相濟まぬやうであるが、十年西南役前迄はなか〳〵統治に苦んだ譯である、此讀書人と云ふ者は文明の程度が變つたのと、統治權の變つた爲に生活上に大變遷を起したから、前にも一言した通詩を作つたり俗歌を作つたりなどして蜚言流言を放つて亂を惹起さしめる。さうして其の日を送らうとする者が澤山ある、斯う云ふやうな風が、支那人に共通の性質である、文字がある程怖いと云ふことになる、然るに又文字を尊ぶこと非常に甚しいのであつて、日本人に於けるよりも其の邊には慣習として意を用ゐることが深い、是は彼方に行つた御方は御覽の通りて、廢字の塔と云ふものがあつて、途中に文字のある紙が落ちて居ると、塔の所に持つて行つて燃く、是は往時長崎にあつたが此頃は無い、さう云ふやうなことて文字を尊ぶと同時に、學問と云ふものは文字と違ふと云ふことを

讀書人の弊害

廢字の塔

支那人は

知らないて、文字と學問と同じやうに思ふて居る、是れて文字に身を委ね、力を盡し、又子孫をして此事に力を致さしめると云ふ考が皆あるのてあるが、是は惡いことはないが、之と同じやうに教育を受けたものは官吏にならうとか、さうて無ければ亂端を促さうとか云ふやうなことになり易い傾向を有つて居るのてある、ソコて此教育の初に於て餘ほど苦んだ、兒玉總督就職の初に於て此の方針と云ふものをとう〳〵言はれなかつた、是が臺灣植民政策の他の國とは異つた所の一つてあります、何故さうてあるかと云ふと、支那人の性質(カラクテル)と云ふものは世界の疑問てある、新統治後第一第二第三のゼネレーションを經て、即ち一、二、三代經た所のものはどうなるかと云ふことの攻究がまだ疑問のものてある、殊に主權を變じて住居を變ぜざる者、例之臺灣人の如き、即ち主權の變化があつて住居の同じきもの、次に主權は同じくして住居を變化したる者、例之南洋、米國などに移住したる支那人の如き已に本國の言葉は忘れて居る、文字を忘れて居る、其者が鄉國觀念愛國心に變化を生ずるかと云ふことに付いて攻究することが亞細亞植民の根本問題てある、西洋人既に之を植民政策上の疑問として居る所のものてありますが、我々は同種同文と云ふことがありますから西洋人とは違つては居りますけれども、此邊の攻究を爲してさうして詰り支那住民のカラクテルが明かにならなければ根本的

文字と學問の差を知らず

教育の弊

兒玉大將は臺灣に於て教育の方針を宣明せざりき此疑問を解決するには少くも三代を經ざるべからず支那人の性質は世界の疑問也

政治の方針を定める方針なるに當りて先づ決支那人の質問を知る性なり

全島の教員會議の席上教師に對し總督は臺灣の教育方針を答へなかりしの

公學校の目的は國語の普及にあり

教育政策上蘭和印度の弊に陥らざる豫防國語普及の困難

に政治の方針が立たぬ、そこて現在の所では其攻究を怠らぬやうにして行かなければならぬといふ見地から政治の方針など云ふものを（目前に必要な場合に目的と施行の順序を示すだけてあつて）示すことはなかつた、尙其全島の教員會議を開きましたことがあり各學校の教員凡そ百名に近い者が集りました時に、どうか總督の教育の方針を御示しを下されたいと云ふことになつたのてあります、そこて總督はまだ政治の大方針さへ示めさぬ所て教育の方針を示す場合てない、教育は無方針てあると云ふことを話した、皆が甚だ疑を起して、教育の方針が無方針ならば、何故公學校を立てるかと云ふ問題が起つた、併國語普及の目的てあるから茲に集つた諸君はどうしたら最速かに國語を普及することが出來るか、教授の方法其の他父兄親族をして國語の普及に付いて大いに其の必要を悟らしめて、如何にして國語が普及せられるかと云ふことさへ討議すれば宜しいと云ふことに總督より訓示があつたのてあります、これが卽ち臺灣の教育政策のまあ定りかけた初めてある、從つて此智育開發と云ふことに付いて力を盡して、和蘭や印度の如き弊害に陥ることの多いやうにすると云ふことの豫防になつたのてあります、此制度と云ふものは餘ほど難しいものてあります、さて國語の普及と云ふことてあると、唯御話して見ると何てもないことてありますが、此ことは恐らくは諸君が自問自答を爲されましたならば、私の茲て說明するより以上の興味のあることに相成るてあらうと思ふのてある、是は精しくは私は茲て申述べませぬ、併し國語を普及する爲には穩健なる方法を以て行く者、それから又强制的の方法を以て行くものとありまして、此國語普及に付き各植民地は勿論新版保護領土に於ける種々の問題になつて居るものとあります、諸君も御承知になつて居りませうが、アルサス、ロートリングンの如き一番著しいものてありますが、其の他ポーランドの如き三國關係に於て大なる問題になつて居ります、唯何の深思熟考もなく教育は善事なれば學校を開いてやつたと云ふやうなことには已に植民政策を誤つて居るので、後に御家の正宗て切腹するやうなことが出來ると云ふことが此間に胚んで居ることてある、其殷鑑は英國蘭國の植民地に於て見る所てあります、然に斯の如き問題が帝國の教育界に未だ起つたことを聞かぬ、是豫て私の甚だ憂とする所てあります。

國語普及の離法に穩健と强制とあり

學校を起し土民を教育して徒に猶自家の正宗を以て切腹するが如し

土民を帝國に歸服せしむる方法を講ずべからず

歸依せしむる方法として中央研究所の如き設立も其一

滿洲に於ては此國語の普及に付ても臺灣に於けるが如き主義を旗印として進むことも難しい、矢張帝國に歸依せしむる事が必要である、佛樣のやうな話てあるけれども、歸依といふ事は第一義てなければならぬ、それ故に其主義を全うする援助として中央研究所の如きものて到底支那人の眞似をしても出來ないやうなものて、偶試驗所に參觀すれば拜んて歸るやうに後光

法又植民政策の秘訣は人の弱點に乘ずるにあり

の射す場所を立てゝ之を滿洲經營の燈明臺にすると云ふことが政策として必要である、又其次には或學者は行政の秘訣は人間の弱點に乘ずるに在りと申して居るが實にさうである、植民政策殊にさうである、故に其の弱點に乘ずべき所のものは如何といふに、我々文明生活の間に於きましては、辯護士と醫者程此人生の弱點に乘じて行く者はない、茲に御關係の方にはどうか寛大な御聽取を切に希望します、何事が起つた所が辯護士に行つて話をして、辯護士先づ金を約束し又金を取つて行く、然れども敢て之を憎まない、醫者も亦其の通りである、取る人と取らぬ人は其の人に依つてありませうが、此時に金を出し之を拂ふことを惜しむものは破格である否之を惜まぬものであります、然るに金を出して命まで取られて拜んで居るのであります、それで行政の秘訣は人類生活の弱點に乘ずるにありと云ふことが果して古今を貫いて居ると云ふことであれば植民政策は殊にさうである、故に人の迷の起つた所、窮した所が其の弱點である、宗教の如き既にさうである、其の迷に乘ずるのである、茲でどうするが宜いかと言つたならば、どうしても此中央研究所、其の他教育關係の上に付いて此弱點に乘ず可き有力なる機關を設置するのに在ります、而して之に依らしむる道を講ずるとが肝要でありましよう、是等の呼吸を日夜攻究する人が總督たり、會社の重職に任じて居るに非らざれば滿蒙經營を全うする

植民政策は人の弱點を捕へ之に乘ずべき有力機關を設置するにあり

醫者は人生の弱點に乘ずるものなり

辯護士は滿洲に於ける特殊の使命を全うする戰爭を爲すよりも尙ほ難し

と云ふことは蓋し私は難しい思ふ、唯算盤執つて會社の報告をして、報告の成績が良かつたならば、役人が賞與を貰つて暮すと云ふやうな、そんな樂なものでは無いのである、茲に於て始めて二十億の借金をして百萬の兵を曝した所の特殊の使命を全うする所以の途は、戰をするよりも尙ほ難いと云ふことが分つて來るのである、茲に於て所謂文裝的武備の精神貫徹して其誠意の餘澤普及する樣努力せざる可からざりしことも之に胚んで來るのであります、是は私の演說の組立てだと御聽き下さつては困る、私の演說は頗る拙でありますから自然其誠意の徹底し兼ぬる所あるべきも、諸君に於て聰明なる判斷を以て御聽き取の上足らざるを補ひ言を以て意を害せざる樣願ひます、是れ偏に帝國の爲に希望するのであります、加之常に間接に且深遠に誠意あり精神ある仕組で以つてやつて孜々として自ら其不逮を修補し奮鬪するに非ざれば植民政策の健全なる生命はない、況んや此滿蒙に關係する所のものは難しいのであります、茲にちよつと申上げて置きますが、近く支那四川省より手に入りました一の印刷物が來るやうにして置いたのです、只今申上ました參考として後に御一覽被下る樣序でに申上げて置きます、（附錄參照）

此中央研究所や土人問題と云ふことからして、醫學校、工科學堂と云ふやうなものが滿洲に

科學堂の效用

出來て居ります、是は殊に無用なるもので、物數寄に出てたと云ふ批難もあつた位であります。唯今の所から御考になりましたならば物數寄だか、無用なものかと云ふことの御判斷は諸君に願つて置きます、それに附帶するものであつて、後で印刷物が來ましたならば諸君に差上げますが、「パンアヂアシスム」卽ち大亞細亞政策、人種統一策と云ふものに根柢を置き遂行を期するに非ざれば共に滿蒙の政策を議するに足らずと信じます、伊藤公爵の哈爾賓に薨ぜらるゝも其所以なきに非らず而して其の次に桂公の露西亞行なども之に由つたのであります。

大亞細亞主義

日本支那の接近は根本的心理作用に其基礎を置くべし

此所速記略す

それで支那と我國の間には如何なる關係を有つべきか、其の根本的心理作用を起さしむるやうにしなければならぬ、もし小刀細工で以て接近せしめんとするならば徒に彼等の感觸を害するやうなことに流れ大々的植民政策には害ありて益なきかと思ふ。

文裝的武備政策

まあ大體如上述ぶる所の見地から中央研究所、土人教育問題、其他學術的經濟的關係の侵略主義と云ふものが行はれなければならぬ、侵略主義と云ふ字は面白くないか知らぬが、それは別題として之を總稱して文裝的武備政策と云ふて可なりと思ひます、夫の病院建築の如きも同樣である、其廊下を造る時から既に深い考てやらねばならぬ、然るに近視眼先生はナアニ是は

病院建築の一例

斯んな大きな廊下を造る必要はない、是が後藤政策だ、大風呂敷だなどいふ評言を聞きますが一朝兵站病院に使はふと思へば直ぐ廊下にも寢臺を置くことが出來る、是は前日申述たとであるが今日初めて文裝的武備政策の滿洲經營を御聞に達する方々もある故重複ながら略言して置くのである。

然るに軍人と會社の者と寄せて來ると、衝突が起る、容易に文裝的武備の遂行が成功せぬ、現に此所に有地男爵も御出でゝありますが、義勇艦隊の船などは一例です、是は有地男爵も御經驗になつて居るが、私も其の中に這入つて經驗し居るのである、玆に文裝的武備と云ふことのハルモニー、調和と云ふことが必要になつて來るのである、さう云ふ譯で又陸軍の編成などでも、動員計畫などのことでありましても、是は唯規則でこしらへた所の動員令であつた、それを會社が鐵道を持つて居る以上は之を遵奉するが宜しい、斯うするが宜しい、其の精神が徹底して居つて文裝的武備と云ふものをやらせるに斯うするが宜しいと云ふことが帝國政府の首腦より根據ある經驗があつて滿洲鐵道總裁に一貫しなければ眞の植民政策遂行を見るとが出來ないてありませう、是れ露西亞が滿洲に於てホルバット將軍を十有餘年間東淸鐵道の副總裁として勤續せしめ居る譯てある、從つて弊もあるてしようが、ずつと貫くやうに出來て居る處に更に

文裝的武備のハルモニー

植民政策の一貫

經營者の頻々たる更迭は其植民政策を誤る

滿洲は我領土にあらざることは須臾も忘るべからず

滿洲に於けるペストの影響

日本醫學の勞力

滿鐵を奉天に移すこと

對する奉天總督も醫學堂を奉天に置くことを

大なる利益を得て居る、是が內國の知事を代へるやうに（之も已に善事ではない）代へては到底對支那人政策は成功しないことになるであらうと思ふ、是れは私の杞憂のみではない、淺薄なる根柢なき臨機的忘國家的施設を以て、露支に對するは已に過誤である、滿洲は臺灣の如く我領土ではない餘ほど特別に意を用ゆる事が肝要である、此理を解せざるものと滿蒙の統治とか滿蒙の感化とか云ふ問題を語るも愚の至りである。

之に附隨して申上げたいのは滿洲に於けるペストの影響、斯んなことを申上げては藪醫者上りだからペストに隱れると仰つしやるか知らぬが、是が先刻申上げた通り行政の秘訣は人の弱點に乘ずるにある、此ペスト流行の時に當つて如何に其の効果を收めたか、是は前回にも陳述しましたが、彼唐紹儀の如き者は滿洲に亞米利加人を連れて來て全然日本人を排斥せんとしたのであるが、其の時に此日本人の醫學の勢力の如何に偉大であつたかと云ふことは非常なものであります、實際、今日奉天に滿洲鐵道の本社を移さうと云ふことに付いては幾たびか中村總裁が苦心して圓滿に之を其の奉天總督に徹底せしめんとしたのであります、併し滿洲鐵道の本社が奉天に進むことに付いては日本の滿洲政策の中心點を其處に持つて來ることになる故に嫌ひてあるに拘らず、奉天に醫學堂を建設すると云ふことに付いては非常なる歡迎を以てやつて居るのであります、それから之に對しては彼等の宗教的關係の醫員（支那側の宗教的醫員）が非常に反抗して居る、けれども我が醫學の其の勢力の及ぶ所には到底抗抵し能はざるやうになつて居るのであります、早く言ふと、奉天の醫學堂から後光が射して居る、此後光の射して居る所には其の光りを仰ぐやうになりつゝあるのであります、茲に於て英國獨逸國の如きものは醫科大學堂を北京に拵へると云ふやうなことが起つて來たのであります、然るに此滿洲の工科學堂なるものは（前日滿洲の豫算の時に御質問に御關係の方も御出ててありませうが）實際設立の趣旨と民政長官の說明とは違つて居る點もありますが。それに拘らず滿洲鐵道の工科學堂の卒業生は非常に賣行が宜くて支那の各地にも採用せらるゝと云ふことになつて來た爲に、又上下兩院の反對せられたる諸君の反省も加はるやうなことになつて居りますから、追々本來の目的を達する機來るやも知るべからずと存じます。

奉天の醫學堂には後光が射す

英獨兩國の如きも之に倣ふて醫科大學堂を北京に設く

滿洲の工科學堂の勞力

今日は前日に御出席なき諸君も御出席ゆへ聊か重複ながら旅順經營の內容に立入り一言して置きたいと思ひます、此機會は最も宜からうと思ふから一言いたします、それは露西亞時代に於きましては御承知の通りの旅順であつて昌んな建築物があつた、日本の領地になつて其の建築物は皆壞はれるやうになつた、海軍の鎭守府、陸軍の要塞、それから都督府、斯ふ云ふ役所の爲

旅順經營の內容

日本占領後旅順の頽敗

に是が飯を食つて居る所になりましたけれども、元々租借地の都督府と云ふものはそんなに領土の大きなものでない、それから鎮守府と云ふものもあるけれども、外の鎮守府のやうにあれに全力を盡さなければならぬ要あるといふことはない、海軍に於ては皆御承知の通りて日本に取つては他にまだ〳〵金を掛けなくてはならぬものがある、旅順には已に鎮守府があるから告朔の餼羊として存して居る位てある、要塞も同樣唯形を存して居るのてあるから、同地の商業が衰頽に傾き、從つて露西亞時代に於ては今月今日唯今封鎖をしても何萬と云ふ人の一ヶ月の糧食がありしに、今日にあつてはそれ程の糧食の蓄はない、直に彼所を封鎖したと假定したならば糧食に窮する、それから又遺つて居る所の家は破壞に傾いて居つて、唯住居さへも危ない所てあるから、戞に多人數群集雜居する時は危險云ふべからざるものがあります、俄に修繕せんにも勿論材料缺乏すべく、加之露國時代には諸方から來る所の船が澤山輻輳し居るから戰後に到り食料の密輸入をなさしむる必要を生ずれば水路に慣れて居る者が多き故自然其便もあらんに、近年の衰勢にて萬事休すてす、此處に氣の付さる人にて文裝的武備など云ふことは夢にも經綸中にある筈なきことゝ思はれます、眞に東洋の覇權を有つて居つて、有事の時の考が平生に存する人は殆ど空しと申して宜い位てある、此爲體には大陸發展の植民政策を遂行し得られ

旅順戰勝の地を利用して鑾

備中學及び工科學堂を起さば其効果蓋し驚くべきものありしならん

徒らに他を攻撃せずして自ら勵むべし

ませうか、私の曾て之が準備補充策として工科學堂と云ふ後光の射すものを起して、豫備中學と共に萬千の學生を集め周圍は有名なる戰勝の地てすから其養成上耳目の料に富み少し警察取締を整理せしむれば學生の品行方正に修養を積み日夕我が帝國の名譽ある歴史の地を散歩して、土地と共に健全なる學生の發達を遂げ大陸に大和民族發展の根據地を築くと容易なるべく滿洲都督兼大學校長として東亞和平の重鎮たるべき襟度を備へらんには此地の物資の聚散は勿論、拓植の功を全うし露國に讓らざる經營を爲さんこと疑なきものなるに今全く其の望を失ふことに相成つて居ります、此計畫の宜しきや否やは別と致しまして、意を用ひる所蓋し斯の如くてあつたのてすが出來ない、今日の人は斯樣なることに意を用ゆべしと爲すや否やに付いて更に疑問とするやうに相成つて來て居ります、今日の内閣諸公並に滿鐵總裁は如何なる抱負あるか山本内閣以來の騒動は大和民族として面目有りますまい、斯の如くにして以て其の成功を期し得べきや否や、實に慨嘆の至りに堪へぬ次第と私は思ふ、而して滿蒙問題に付き歴代の外務大臣のやることが惡い、誰が惡いと云ふことを言ひまするけれども、それはまだ未だらうと思ふ、一歩一歩進め得たる處に怠りなく盡力するが第一てある、即ち大いに努むべき所のものが他の邊に存して居るだらうと思ふのてあります、加之ならず中央研究所に持つて來ました所

既設機關を十分に應用する能力を養はざるべからず

人口增加と南滿との關係

小村侯爵の東洋移民論

伊藤公の備ふるに設なくんば終に空しく論ずべし

植民政策の根本義は國民的自覺民族的自覺なり

の滿洲の諸般の材料を中央研究所に於て研究した所のものが如何に農工商の上に應用すべきや其の密接の關係を講究する上下各人の注意慣習は皆出來て居りませぬ、是等のことは一番必要なことであらうと思はれるのであります。

餘り長くなりますが、もう少し申上げたいのは人口增加と南滿洲の關係でありますが、是は諸君御承知の通り桂内閣時代に於て小村侯爵が議場に明言したのである、亞米利加に移民するよりも先づ東洋にせよ、斯う云ふことを言はれた、而して其の後ち外務省は之に對して施設したる所のものありや？徒に議場に揚言したる所を問題にして、清國人をして厭な感じを持たしたばかり、其の後得た所の移民の成績、それ如何なるものか？嗚呼何ものなしと嘆ずるの外はない、人口の數は增加する、數に於て五六十萬、毎年增加するのでありますから、之に對して帝國の施設すべきもの豫め無かるべからざることは申すまでも無いことであります、要するに國民的自覺、民族的自覺と云ふものが滿洲植民政策の根本主義であります、是等の點に付いて十分此自覺を貫く所のもの無かるべからざるやに察せられます、それで若し今國民の希望する所眞面目にして從來の上下の不眞面目を脱し黨派的臭味よりも國家を重要とする、隨て當世の國民主義に加ふるに帝國主義を以て進行するといふ見地から明治時代より繼續の植民政策に努力せんとするならば此に日本の土地に幾倍する曠野横はり居ると云ふことが一の問題であらうと思ふのであります、將來此曠野が他國の有たるも日本の有たると否とは今日に存じます一口に滿蒙と言つて居るけれども、如何なるものが滿蒙なるや？私が一日伊藤公に話したことがありましたが、若し支那全部を與ふるものあらば公之を直に受くべきか之に處するの案ありや？と聞けるに、公はウッと詰りて一語の明答なかりしが暫時にして大難事なるべし云々と答へられた其顏色實に一種いふべからざるものありました、それから他日他の處にて桂公に問ふに同じ事を以てしましたが明答に窮すると伊藤公に異ならず、其後さる所にて二三當世國家に問ふに前事を以てす直に答て曰その時は如何にかなるさ云々と此問題の興味あるとを感じ居れり、是より先は諸君の御判斷にまかせますが先問題は此に歸着するかと存せられます、それで臺灣は日本の十分の一、朝鮮は五分の三に大凡當るやうである、滿洲は日本本州の二倍半ある其中租借地は臺灣の十分の一である、日本の十分の一が臺灣、臺灣の十分の一が租借地である滿洲は十二萬方里でありますから鐵道附屬地は僅なものであります、斯樣なものでありますけれども、此内蒙古は這入つて居らぬ、算入して居らぬとしても日本の二倍半になる、東三省を統治する所の用意が悉く備つて居つて今日は滿蒙をどうする、外交政策が薄弱である、どうも

滿洲中立地帶論

參謀本部の施設がいかぬとか、海軍を擴張してどうするのと言つて居るのである？如何？是が當部内に於て御研究になるべき問題であらうと思ふのであります。

次に實際問題としてもう一つ申述べて置きたいのは、滿洲の中立地帶論である、今のやうな關係で露西亞と境を接することは頗る危險である、中立地帶を置くを可とすと云ふ說の人がありましたちよつと聞くと甚だ尤ものやうでありますが、中立地帶其のものは、其の中立地帶を左右何れの所からも侵すことが出來ない地帶なら、あるが宜いかも知らぬが、支那政府をして守らしめる所の中立地帶は當分嚴正に守る力なきことは甚だ分り易い問題であらうと考へる、此中立地帶が價値の無きもので却て紛擾の種たるは明白であります、寧毛髮一本にて其境を接し互に侵さず侵されずと申す情勢を維持するこそよからん、是が大いに實際上講究すべきものとなるだらうと考へます。

東洋銀行設立論

終りに臨みまして私は茲に後藤の脫線否諸君が多分脫線と言はれるであらうと思ふ、幸に御清聽を得れば光榮の至りである、長くは申しませぬ、簡單に申します、今日我が帝國が豫算不成立の爲に國庫に餘金が出來た、是は本當に餘る金か餘らぬ金かは別でありますが、アクシデントのアクシデント所謂偶然出來た金である、此不祥金を祥金にしたい、先づさう云ふ金を租稅延納資金又は某々基金の借金返償に充てるなど或は之を各基金返入とか減稅とか廢稅とか一時融通に供せんなど云ふ爲に皆苦勞をして居る、是れは必ずしも惡いことだと申しませぬが一等地を拔いた考を以て此禍を轉じて幸となす政策を建て將來の國運大發展に資したい、即ち廣き意義の植民政策若くは植民經濟の上に付いて考へらるゝことが必要ではないか、我帝國主義の基礎を鞏固にする點から一の問題を捧げるのであります。

此一億數千圓の剩餘金らしきものが、茲に餘計なものらしきものが生れたから、之を直ちに右から左に持つて行つて使へと云ふことは言はぬが、之を或る方法の回轉に資して以て東洋銀行を設立すると云ふことは最も適當な設備で無からうかと思ふ、それは恐らく稅を減じてやると云ふより其以上に帝國の國民には利益を與ふるものである、其一端を例すれば支那四百餘州に對する所のボイコットを恐れる我々は茲に非常な貿易の市場を拓き經濟休戚を同ふする一大疹域を共有し無益の戰をさせぬ樣に出來るのではないか、其は色々方法もありませうが極く手短かに私が考へて見ますと、東洋銀行其實は日支銀行を設け、日本が五千萬圓出す、彼も五千萬圓出す、今彼に五千萬圓出す力はないが、それは幾らかの方法を以て一時立替てやる、さうして彼も銀行に對する保證をなし、我も之に對して保證をなし約三億と云ふか五億と云ふか社債

を發行する權利を與へることにしてやつたならば、必ずや神戸大阪の繁榮と云ふものは今や諸君が御計算のなることの出來ざる程の利益を受くることは太鼓より大きな判を捺して保證して宜からうと思ふ、諸君も後藤の脱線位に御聽き下さつて其の中に何等かの御用に立つことがありましたならば、どうか物になるやうに、助ける考を以つて頂いたならば非常な光榮でありますと思ふのであります、何の權利を與れ、此の權利を與れと言つて相當名のある人がやる日本人が行きましたらば勳章を與れて御馳走する位のことはいたします、けれども只樽俎折衝とか云ふやうなことは最早効力ない、昔の支那人はそれで宜しいが、今日の袁世凱に對しては政策であるまい、滿蒙の問題に困難を來たすのみであつて、之を解決する所以の途でない、袁世凱其者は私何年か久しく遭ひませぬけれども、彼は非常な苦心の爲に人物を上げて居ると思ふ、私が始めて會つた時、或は其の後會つた時の袁世凱だと思ふて居つたら間違ひだらうと思ふ、此の人は實際どうも苦心の餘りに段々政治上の技倆を上げて來て、我が内閣諸公に對してもそんなに遜色のあるものだと私は思はない、それて瞞着など云ふことは甚だ宜しくない、誠意を本體にした所の外交でなければならぬ、それは多少の術策は双方共にありませうが、誠意を本體として行つて、さうして經濟的關係に於て數字の欺く可からざるものを以て提携する、而して支那に於てボイコットを恐るゝよりも彼等が經濟關係に於いてボイコットを爲す能はざる所に到らしむることが尤も必要である、玆に於て文裝的武備で總て彼等に對すべきである、好し東洋銀行の爲めに一時五千萬や一億圓の損したからと言つて決して私は値打の無い眞の損失にはならないと思ふ、此事は時流の議論に對しては或は容れられないかも知らぬけれども、帝國國民の將來の幸福は全く此の點にあるだらうと私は信じて疑はぬ、唯脱線の話を餘興として、お笑ひ草に申上げる譯でない、私はどうか之を攻究して本統の問題に實現するやうに諸君に御講究を願ひたいと思ふ、それに對しては固より御質問もあらば承はらなければならぬ、又諸君の御計畫も伺はねばならぬのでありますが、是が一番私は必要だと思ふ、加之彼は大法螺を吹いて山を言ふと仰しやるか知らぬが、唯今の所では日本帝國と云ふものは若し金を借りたならば身代限りをするものであつて危ないから金は借られないと自分に吹聽し世界の人をして金は貸せないと云ふ位に認めさせ、認められるやうに骨を折つて居る嫌もなきにあらず、世界に帝國の實力を知らしめる秘訣を以て御斷行になることになりましたならば、世界は必ずしも高利て無ければ日本に貸さぬとは言はぬだらうと思ひます、帝國にして必要あり世界に有利の餘金があつたら、何時でも借ることは惡いことて無からう、決して私は現在の政府の非募債主義を排斥

する人の眞似をして諸君に申上げる譯でない、厭味のある申分でもない、誠に正直に心中を告白して諸君の御判斷を希望いたす次第であります、決して近代の政策に對して批評的に申すのでない、眞面目に討究問題として御講究下さつたならば必ずや世界の金は使ふべきものである五朱のものを以て一割の利益を擧ぐる時に使つて宜いのであるから絶對に金を借りないなどゝ云ふやうな氣取る事を止めて正々堂々に行つて、貸す時には借りても宜い、どうか借りて貰ひたいと云ふことになる、又支那のあの廣い所に今日では日本の貿易が非常な勢力になり第一の貿易額を占めて居ることは事實である、必ずや列國は日本人に及ばぬことが明かである、然るに若し我國が一朝支那に何事が起つても、各國出兵する時に日本の兵士の經費一年一億圓とすれば他列國は三億乃至五億を要す故に長日持久といふ點に於て其力の優劣甚だ明かである、然に小策を弄して小利を爭ひ互に感情を害し、列國に劣り列國の後に瞠着たる爲體にては滿蒙の經營も口唇に止まり到底駄目だらうと思ふ、因つて茲に日支共立東洋銀行を設立して大亞細主義を以て東洋和平の樞軸を握る事を此兩國の問題にして下さらんことを切に希望いたす次第であります。（拍手）

附錄

（大亞細亞主義原漢文）（一一三頁參照）

人生ノ福祉ハ國土ノ能ク井畫スル所ニ非ラズ、人種ノ能ク極限スル所ニ非ラズ、文化畛域無ク、康樂際涘無シ、生レテ大地ニ生ジ、五洲ニ索居スルモノ、固ヨリ應サニ之ヲ共同享受スベキ也、獨リ洲土ノ民人アリ、唯當サニ之ヲ保持スベシ、而シテ以テ諸レヲ他洲人ニ讓ル可カラザル者ハ洲土ノ機樞是レ也、亞細亞洲ハ亞細亞洲人ノ亞細亞洲也、亞細亞洲中ノ機樞ハ須ラク亞細亞洲人ニ由テ之ヲ主宰スベク、必ラズ亞細亞洲外ノ國ヲシテ貪覬スル所アラシム可ラズ、是レ之ヲ大亞細亞主義ト謂ヒ、實ニ亞細亞洲人萬世不滅ノ神權ト爲ス也、凡ソ亞細亞ニ國スル者其數鮮カラズ、政體異同アリ、人種宗教亦タ岐異スル所無キニアラズ、然レドモ其大亞細亞主義ニ於ケルヤ、猶ホ之レ日月ニ對シ而シテ齊ク其光明ヲ仰グゴトキノミ、中國黃帝ヨリ以來四千六百餘年、革命二十八九次ヲ累ヌ、其間政柄ヲ執ル者、時ニ南人有リ又北族アリ、迄ニ未タ亞細亞洲以外ノ人ノ入ッテ而シテ國ノ鈞ヲ秉ル者アラズ、是レ豈之ヲ致ス莫クシテ而シテ致ス者ナランヤ、方今文化遞ニ進ミ、列國互ニ競ウテ福利ヲ增進シ、武力ヲ濫用シテ他ノ洲土ヲ侵奪スルモノアルナシ、然リト雖モ此レ長ク恃ム可カラザル也、優勝劣敗ハ天演通例、弱肉强食

ハ古今一揆、何ソ稍ヤ自ラ暇逸ス可ケンヤ、且ツ亞細亞諸邦ノ文化、歐美列國ニ遜ルコト遠シ文化ノ懸隔ハ卽チ意思ノ乖離也、意思ノ乖離ハ卽チ爭鬪ノ肇端也、亞細亞諸邦倘シ固ニ偏見ヲ執リ觝排相下ラズ、斷々焉トシテ互ニ目睫ノ小利ヲ爭ヒ、而シテ坐ラ大亞細亞主義ニ昧マンカ全亞土崩瓦解、其慘寧ゾ言フニ勝ユ可ケン、況ンヤ邇カ頃舟車交通萬里比隣ノ如シ、道途ノ遼山河ノ險均シク已ニ恃ム所ヲ失フヲヤ、列國一朝口ヲ人道主義ニ藉リ、其精銳ノ兵ヲ動カス、豈復タ拒ク可ケンヤ、危イ哉、恫イ哉昔ハ美國大總統孟路（モンロー）大美洲主義ヲ倡ヘ、美洲ノ機樞ハ美洲人當サニ之ヲ支持スベシト謂ヒ、決シテ他洲人ノ干與スルヲ容サス、世之ヲ孟路主義ト謂フ美人政黨政派ノ異同ヲ論ズルナク、奉ジテ神權ト爲ス、蓋シ大美洲主義ハ孟路ノ倡道ニ係ルト雖モ、實ニ美國創建以來ノ國是タリ、華聖頓夙ニ其義ヲ宣ヘ、累代繼承シテ孟路ニ至ル、孟路標識シテ一主義ト爲ス、故ニ美國世界ニ大タル所以ノ者ハ政體ノ共和タルニ因ルニアラズ、而シテ主義ノ大美洲タルニ因ル也、故ニ後日美人ノ其政體ヲ變ズル、或ハ君主立憲爲リ、或ハ君主專制爲ル、固ヨリ其必無ヲ保スベキニ非ズト雖モ、然レドモ美國苟モ一國ノ獨立ヲ維持スルノ間ハ永ク大美洲主義ヲ滅却セズ、美國苟モ大美洲主義ヲ把持スルノ間ハ、必ズ以テ一國ノ獨立ヲ維持ス可シ、吾ガ亞細亞洲人ノ大亞細亞主義ニ於ケル、亦應サニ是ノ如クナルベシ、中國制ヲ美國ニ倣ヒ共和政體ヲ創立ス、人皆前途ノ幸福測ル可カラズト謂フ、然レドモ治亂人ニ在リ法ニ在ラズ、當年善制良法ト爲スモノ、後年弊竇タリ亂階タルモノ世常ニ多シ、西土富强ノ道タル所以未ダ必ズシモ東邦ノ良謨タラズ、故ニ中國政體ノ如キ、果シテ政黨ノ發達、美國ノ如ク、法國ノ如キヲ得ル乎、雋傑ノ崛起シ共和ハ或ハ岐レテ各省分立爲ル無ラン乎、或ハ變ジテ聯邦共立タル無ラン乎、是レ亦未ダ逆メ睹ル可ラズ、但其共和タリ分立タリ職邦タルモ、均ク是レ洲內ノ小紛擾ニ過ギズ、而シテ未ダ全亞ノ機樞ヲ傷クルニ至ラズ、卽チ未ダ深ク意ト爲スニ足ラザル也、若シ夫レ亞細亞人亞細亞ノ機樞ヲ把持スル能ハザルノ日アラン乎、是レ眞ニ亞細亞亡滅ノ時ナリ、洲中ノ諸國其土ヲ保ツ能ハズ、國中ノ民人其生ヲ治ムル能ハズ、國擧テ焦土ト爲リ人皆魚膾ト爲ル、縱ヒ國其名ヲ存スルモ是レ虛名ノミ、人其命ヲ支フルモ是餘喘ノミ、是ノ故ニ苟モ亞細亞洲中ニ動息スルモノ、政論ノ異同ヲ論ズル無ク、宗教人種ノ差別ヲ問フ無ク、時ノ治亂ニ關セズ宜シク斯ノ大亞細亞主義ヲ毀損スル無キヲ期スベシ、而シテ此大亞細亞主義ノ下ニ一致セザル可カラズ、夫レ唯今日ノ功利ニ營營トシテ主義ノ消長ヲ慮ラザル者是レ戀百年ノ患害也、一人ノ康樂ニ蕩蕩トシテ而シテ世界ノ大勢ヲ思ハザル者ハ、儻億兆ノ禍毒也、懼レザル可ケンヤ、念ハザル可ケンヤ、抑大亞細亞主義タルヤ、亞細亞ノ康寧ヲ無極ニ

謀ルニ在リ、而シテ他人種ヲ排壓シテ獨リ自ラ逞フセント欲スルニ非ザル也、人種ノ競爭ハ人道ニ悖リ、天理ニ逆フ、人類ノ爲スベキ所ニ非ラズ、惟フニ亞細亞人大亞細亞主義ニ遵ハザレバ則チ自立スル能ハズ自助スル能ハズ、又徒ニ他洲人相爭ヒ相奪フニ任カセ而シテ我レ之ヲ制スル能ハザレバ、則チ啻ニ我ガ亞細亞洲人自ラ不幸ヲ致スノミナラズ、實ニ世界人類ノ苛殃ヲ速ク也、夫レ天地ノ康樂之ヲ限ル無シ、世界ノ文化ハ之ヲ塞ギ難シ、歐人來レ、美人來レ我レ未發ノ福地ヲ發ク、我レ焉ンゾ之ヲ拒マン、唯亞細亞洲ノ機樞ハ亞細亞洲人之ヲ把持シ、而シテ後チ以テ五洲ノ和平ヲ維持ス可ク、以テ億兆ノ福祉ヲ增進ス可キノミ。

總督就任の初に於て施政方針を聲明せざりしこと

回顧すれば兒玉將軍の臺灣總督に就任の當初、總督が臺灣施政の方針を聲明したいと思ふから、其演說の案を私に起草せよ、不言實行の看板もおかしいではないかとのことであつた。そこで私は今日は其時機でありますまいと先づ答へて、次の意見を開陳した。

◎

第一、總督は此臺灣の土を掘るが爲めに、來たのでは勿論ない。凡そ總督の職務なるものは帝國の植民政策の基礎を確立せねばならぬ。其には堅牢なる鍬を以て他人の手を着け難き所の主腦地を拓かねばならぬ。乃ち總理大臣を始め、內閣員及び內地政治家の頭腦を開拓することが、何よりも緊要なる先決問題である。

◎

第二、政治の方針を生物學の基礎の上に置て、諸般の計畫を立てねばならぬ。此等の事柄は

一場の訓示や一篇の文字を以て、現在の諸役人、土着住民に知悉せしむるのは非常に困難てあつて、寧ろ不可能である。須らく事實の雄辯を以てせねばならぬ、其人と機關とを具ふることを先務とする。先づ此所は唯だ機にふれ、實際に當りて段々に指導し啓發し、而て具體的に領解せしむるより外はない。

◎

第三、行政を生物學の基礎の上に立てんとするには、一面に土俗舊慣を尊重しつゝ、他の一面に之に囚はれず、因循姑息に流れず、改善の精神を失はぬようにして、眞の進化的設備を爲さなければならぬ。舊慣古制の調査を專にし（舊慣制度調査局の如き設備）改善を進めて行くのには、何人も異論はあるまい。

要するに、以上の三眼目であるが、人あり若し施政の方針如何と問はゞ、右の三點の大意を話して聞かし、唯總督の經綸と事實雄辯に全然信頼するが宜しいと、教示すれば事足ると思ふと述べたのである。

◎

兒玉總督は實に聰明の人であつて、「左樣か、面白い、施政方針の宣明は止める」と一言にして決定してしまつた。是は尋常一樣の政治家の遣れる所でない、淸石に兒玉總督は折角の思付を一氣に打切られた。而て終始一貫、本國に於ける殖民政策に對する朝野の頭を開拓するに力を致されて、臺灣拓殖を成功せしむることに大に努められたのである。果して其良結果を一世に示めさるゝに至つたが、是は兒玉總督の偉大なる所である。

◎

次に舊慣古制を尊重することに付て、一言すれば、此の舊慣なるものに囚はれずして、制度上大改善を行ふことは容易の事でない。土着島民の既往歴史及現在を社會的生活に照らして、制度文物諸般に渉りて、之を知悉し領解するに努めねばならぬ。而て爲政者は我誠を島民の胸中に措くことが、何よりの要件である。所謂る己の赤心を人の腹中に推すことである、總督は此要件を是非共實行せよと言はれた。

◎

我の誠を他の胸中に措くには、先づ彼等の實生活の眞相を知ることが必要である。之が手段の一部として、制度上には舊慣調査、土地所有、及相續の事抔の取調を創めた。制度上の事の外には、眞に民意を知ることが肝心である。我々は此事に終始苦心し努力して、我々の誠を民

の胸中に措くように仕向けた次第である。此根本意義や心持を先づ部下一般に徹底せしむることには當局は又相當に骨が折れた。渠成りて水到る、斯くて漸次に其成功を認むるに至つた。

◎

簡約して言へば、苟くも殖民地を統治する者は、我誠を土着民の胸中に措くこと能はざれば其成功は出來ない。此要件を果さんとするには、先づ物的心的の兩方面に亘りて民を知らねばならぬ、民衆の心理狀態を悉にせねばならぬ、之が先決問題である。此意義を會得して始めて、殖民地統治の政策の基礎を樹て得るのである。之に次ぐに總べての科學的應用調査研究に重を置て、諸般の經營施設を生物學の原則の上に建つることに力めだならば、始めて欠陷多き現代の面目を一新し、改善の實を揚げ得るのである。斯くて殖民地の統治に向上の一路を見出し、やがて燦然たる光明を認めるに至るのである。(大正十年十月八日話)

此に讀書人並に文字ある父兄に我帝國新政の厚德を知らしめ自然に大なる感化を彼等に與ふるの希望を以て大國民唱歌を作製し其漢譯を付し日常の唱和に資したるものあり本講演印刷に當りて今參照として左に之を掲ぐ

大國民唱歌〔第一種〕

一　世界の友よ我友よ
　　いかなる民か大國民
大國民は土地廣く
　　民衆きをばいふべしや

二　世界に無比なる我國體
建國以來日の御子の
輝く光仰ぎつゝ

三　三月の春の朝日影
さかえさかゆる君子國
のどかに匂ふ山櫻
うつしうゑつる花うばら
み國の花と咲きそひつ

四　事なき時は忠やかに
わが業勵み智を研き
事ある時は勇ましく
御國の爲に身をさゝぐ

五　三千餘年芳はしき
祖國の歴史見よや見よ

あへて他國を侵さねど
はた戰を好まねど

六　勇をほこるにあらねども
自ら衞る術として
無禮をかけし外國は
必ず懲す我歴史

七　雄々しき神功皇后は
三韓征伐し給ひき
さかまく筑紫の荒波に
寄せ來し蒙古をつくしたり

八　ましして明治の今の御代
我東洋の平和をば
圖らせ給ふ御心に
背きし國は膺たてやは

九　曠古外征二大役

仁義の兵に敵やある

強きを挫き弱きをば

扶けて平和を復へしたり

十　世界に響く雷の

武勇の譽ともろともに

人道主義をむねとして

あまねくにほふ愛の花

十一　無禮をせめしその後は

親しきもとの國と國

昨の日の仇も手をとりて

語らふ時の心地よさ

十二　正しき直き道ゆかば

誰しもわれのよき友ぞ

世界の友よ我友よ

來れや共に語らはむ

十三　深く根ざせる博愛の

梢花さき實を結び

新にひらきし我版圖

そが經營の功成りて

十四　雲霧こめし臺灣も

いまは昔の物語

名におふ匪賊をさまりて

仰ぐは同じ大御蔭

十五　縱貫鐵道三百哩

民の烟は立ち添ひつ

思へや思へ新高の

山より高き御惠を

十六あまねく照す日の御旗
これぞみ國のすがたなる
靡けやなびけ彌遠く
御旗の風のその下に

大國民唱歌〔第二種〕

一　新高山は高けれど
國の御稜威はなほ高し
濁水溪はひろけれど
天皇の御惠なほひろし

二　大國民は土地廣く
民衆きをばいふべしや
事大思想を去らずんば
國運いかで進むべき

三　我帝國の尊ときは
天皇仁愛に民忠に
人道主義をむねとして
三千年の歴史あり

四　あへて他國を侵さねど
開くる御世の新らしき
領土の民を愛するは
祖國の民にことならず

五　祖國の民ともろともに
わが國體とわが歴史
心にしるしつとめつゝ
大國民の名をあげよ

大國民歌〔第一種五言漢譯〕

第一章

借問世界友。何爲大國民。
土廣與民衆。未必大國云。

第二章

我國世無比。天孫建皇極。
萬姓仰光華。允稱君子國。

第三章

麗春紅旭影。絢爛山櫻花。
西土好薔薇。移植配仙葩。

第四章

平居乃忠淳。勵業且研智。
緩急赴公家。挺身誓取義。

第五章

流芳三千載。國史帝道恢。
不敢侵他國。何有好戰哉。

第六章

桓々非誇勇。自衞惟乃爾。
請觀禦外侮。歷代垂青史。

第七章

於赫神功師。三韓服其武。
於烈筑紫海。怒濤殲蒙古。

第八章

方今聖明世。東洋圖平和。
猖狂或自恣。撻伐尋天戈。

第九章

曠古二大役。義兵果無敵。

狃勝非良圖。且講和平策。

第十章

我武震八表。令譽彌益加。
人道賴以植。到頭見德華。

第十一章

懲惡克自悛。善隣復其故。
握手忘昨讐。欣然相和睦。

第十二章

苟能行直道。誰非我友生。
來兮世界友。披瀝各見情。

第十三章

博愛有根柢。花開實亦結。
又啓新版圖。隨時成施設。

第十四章

雲霧籠臺嶠。往年事々非。
如今匪氣熄。共仰天日輝。

第十五章

鐵道貫南北。遐邇民煙屬。
當恩君恩高。遠出新高上。

第十六章

遍輝旭章旗。國體實有光。
帷幪旭旗下。莫遠不來王。

大國民歌〔第二種五言漢譯〕

第一章

新高山雖高。不及國威稜。

濁水溪雖廣。不如皇恩弘。

第二章

土廣與民衆。未必大國民。
意不大事。國運何得伸。

第三章

我國所以奪。上仁下忠矣。
人道作主張。有史三千禩。

第四章

不敢侵他國。萬邦仰仁風。
亭毒新附民。一與祖國同。

第五章

願與祖國民。忠愛一其德。
夙夜盡匪懈。以顯我大國。

大國民歌

〔第一種七言漢譯〕

第一章

坤球胥友兮五方人。何國之民兮大國民。
廣土衆民兮徒自詡。世儞大國兮曷有眞。

第二章

世界無比兮日之域。日神子孫兮世天職。
群黎額手兮仰光華。文物昌隆兮君子國。

第三章

陽春三月兮麗紅旭。絢爛櫻花兮輝白玉。
西土薔薇兮移之東。好配天葩兮俱絕俗。

第四章

平居忠淳兮承祖志。夙夜勵業兮研厥智。
一朝有急兮趣公家。舍生不恤兮誓取義。

第五章

建國垂統兮三千年。鴻業丕振兮煥史編。
不侵鄰國兮惟輯睦。謂我好戰兮豈其然。

第六章

桓桓尙武兮非誇勇。自衞有方兮國基鞏。
審時禦侮兮討不庭。天之明威兮萬邦悚。

第七章

於赫神功兮軍容肅。三韓底貢兮遂懾服。
浪翻紫海兮起颶風。十萬蒙古兮鬢魚腹。

第八章

方今盛世兮帝德多。扶植東亞兮保平和。
樽俎之間兮敢違背。王旅嘽嘽兮尋天戈。

第九章

曠古外征兮二大役。挫强扶弱兮誠無敵。

狃勝長驅兮非良圖。爰講和平兮保丕績。

第十章

威如雷霆兮莫不摧。恩如時雨兮帝德恢。
人道正年兮賴以植。精華煥發兮何盛哉。

第十一章

懲惡克悛兮遵軌度。聘使交修兮復其故。
邊要戰雲兮自此收。解怨聯歡兮握手晤。

第十二章

苟行直道兮能居貞。大邦小邦兮篤友情。
賁然來斯兮世界友。披瀝肝膽兮話平生。

第十三章

博愛有源兮用不竭。文明華燦兮實亦結。
天之所賚兮新版圖。銳意行化兮無敢逸。

第十四章

在昔臺疆兮雲霧霏。
爽險救燔兮盛施設。

第十五章

縱貫鐵路兮三百里。
新高山高兮未爲高。

第十六章

輝煌旭日兮國徽章。
我皇盛德兮比天日。

大國民歌

〔第二種七言漢譯〕

第一章

新高山嶽兮雖高峙。
濁水谿流兮雖廣淵。
梗頑蠢動兮逞暴威。
氛氣潛消兮天日輝。
齊民康阜兮庶事起。
國恩崇隆兮高無比。
帡幪旗陰兮實有光。
遐邇思服兮盡來王。

第二章

庸俗不知兮大國民。
敬天之威兮修明德。

第三章

我君聖明兮配天日。
上仁下義兮三千年。

第四章

柔亦不茹兮剛不吐。
經營南服兮勞帝衷。

第五章

願與祖國兮保太和。
興業阜財兮各勵職。
意祛事大兮志始伸。
國運隆盛兮塞四垠。
我民忠直兮心惟一。
扶植人道兮垂史筆。
內固國本兮外禦侮。
視同祖國兮雨露普。
志存忠愛兮相淬磨。
顯我大國兮樂謳歌。

大正十年十月二十六日印刷
大正十年十月三十日發行

定價一部 金貳圓也

著者 東京市麻布區櫻田町五十番地 後藤新平

發行兼印刷者 東京市芝區南佐久間町一丁目三番地 吉武源五郎

印刷所 同上 大國印刷株式會社

不許複製

發行所 東京市芝區南佐久間町一丁目三番地 株式會社 拓殖新報社

賣捌店 東京堂、有斐閣、東海堂、北隆館

~~512~~ 334.7
~~H18~~ G72

終